

令和3年度

近畿ESDコンソーシアム活動実施報告書

奈良教育大学
近畿ESDコンソーシアム

不東

「不東」は三蔵法師の言葉です。
三蔵法師は27歳の時に、唐の規則を犯してでも正しい仏教を学びたいと、インドを目指し道なき道を行きます。途中、タクラマカン砂漠で水の入った皮袋を落として水を失い、一度は引き返す（東に戻る）ことを考えましたが、自分には東はない。たとえ死ぬことになっても西に行くべきだと思い直して旅を続け、インドに至りました。持続可能な社会をつくと決めた私達は、「どんな苦勞があっても決して引き下らない」という決意の言葉です。

SDGs 達成のカギ=ESD
SDGsは世界中の人々が、また将来世代の人々も含めて、幸せに生きていくことができる世界を創るための目標です。そして、そのような持続可能な社会を創っていくのは自分なんだと気づかせ、私たち一人一人に積極的行動の提案を促すのがESD(持続可能な開発のための教育)です。



2022年3月

近畿ESDコンソーシアム
国立大学法人 奈良教育大学

はじめに



2021年度は新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により開催が危ぶまれていた北京での冬期オリンピック及びパラリンピックが無事に開催され、スポーツによる国や地域を越えた団結力や応援することの重要性を実感できた年でした。一方で、オリンピック閉幕からパラリンピック開幕までの間の2022年2月24日にロシア軍によるウクライナ侵攻が開始され、未だに停戦・平和への道筋が見えず、長期化・戦線拡大が危ぶまれる状況です。SDGsの目標16に平和な世界の構築が掲げられていますが、その実現の困難さに、世界中が直面しています。ESDにはもともと環境教育と開発教育、そして人権・平和教育の流れがありました。日本ではESDの推進に関して国内実施計画に環境問題に第一に取り組むことが明記されたこともあり、ESD・環境教育を取り扱った事例がたくさんあります。しかし、国連においてESDの推進機関としてユネスコが指名されていることの意味を考えますと、「心の中に平和の砦を築かなければならない」とユネスコ憲章に示されている通り、ESD・平和教育の重要性に改めて気づかされます。

国連難民高等弁務官事務所が3月15日にロシア軍によるウクライナ侵攻を受けて国外に逃れた難民が300万人を超えたと発表しています。これは家を失ったり、家族が離散したりした人々が300万人以上いるということです。ウクライナは日本から遠く、それまでは関心のあまりなかった人もいるかもしれませんが、難民となった人々に思いをはせる共感力を働かせ、難民支援に立ち上がることが重要です。しかし、ここで気をつけなければいけないことは、為政者と市民は別だということです。プーチン氏を始めとするロシア政府とロシア人民は別です。ロシア国内では、公安当局による逮捕の危険も顧みず、多くの人達が戦争反対デモに参加しています。このロシアの人達の勇気に感動させられます。一般のロシアの人達への誹謗・中傷は厳に慎まなくてはなりません。

ESDは教育を通して「下からの」SDGsの達成を目指すボトムアップ型の取組です。世界中の市民と協力して、持続可能な社会が実現することを目指しています。この取組においては教員の役割が特に重要です。本報告書には、大学の3つの柱の1つに「持続可能な社会づくりに貢献できる教員の養成」に取り組んだ記録が掲載されています。コロナ禍にも負けずにできることをできるだけやった学生のみなさんや先生方の努力の記録です。今後ますますESDの研究や教育の推進に尽力され、世界中の市民と手を取り合う、「下からの」持続可能な社会の創り手の育成に取り組んでいただけることを期待しています。

令和4年3月

奈良教育大学 学長

近畿ESDコンソーシアム 会長 加藤 久雄

目 次

はじめに	・ ・ ・	1
令和 3 年度運営計画	・ ・ ・	3
E S Dティーチャー認証制度	・ ・ ・	4
奈良 E S D連続セミナー	・ ・ ・	39
県立万葉文化館授業づくりセミナー	・ ・ ・	87
森と水の源流館授業づくりセミナー	・ ・ ・	99
春日山原始林・奈良公園フィールドワーク	・ ・ ・	112
学ぶ喜び・E S D連続公開講座	・ ・ ・	132
令和 3 年度近畿 ESD コンソーシアム総会	・ ・ ・	152
令和 3 年度近畿 ESD コンソーシアム成果発表会・実践交流会	・ ・ ・	153
ユネスコスクール教員養成大学間プロジェクト (GC4SD)	・ ・ ・	157
文部科学省情報ひろば展示ポスター	・ ・ ・	158
おわりに	・ ・ ・	163

項目	予算額	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総会・成果発表会・バス報告書作成	1,300,000		17日 指導主事会			11日 オンライン				25-26 対面			報告書
学生活動(ESD活動支援)	400,000								ECOキッズ 動画作成 11日 (飛鳥小) 12日 (伏見小)	2-6・7-9日 子ども広場(伏見小)			
奈良ESD連続セミナー	50,000		6日	3日	1日・29日	26日	30日	14日	11日		6日・20日	10日	17日 (認定証)
授業づくりセミナー	50,000		19日(源流) 26日(万葉)		4日(源流) 10日(万葉) 30日(源流)		4日 (源流)	23日 (万葉)		11日 (万葉)	29日 (万葉)	26日 (源流)	
春日山FW	50,000				3日(夜) 17日(霧滝)	6日(早朝) 21日(夕暮れ)	4日 (一周)	2日 (高円山)	6日 (奈良公園) 27日 (カトリック)	5日 (石仏)			
オンライン・フォローアップ研修	0			7日	30日		22日		2日		27日	9日	
連続公開講座(5回)	150,000			24日 (安田)				26日(阿彌)	24日(中嶋) 26日 (カトリック)	7日 (手島)			
ティーチャープログラム	600,000			12 (福岡)	24日(福岡) 26日 (福住小中) 28-29(附属小) 29-30(長野) 31日(沖繩)	1(沖繩) 2(郡山西中) 3(郡山小中) 6(長野) 7(長野) 9-10 (山形) 18(沖繩) 23(郡山西中) 25-26(附属小) 28(大牟田)		2日 (長野) 9日 (沖繩) 30日 (大牟田) 20日 ティーチャー6 (及川先生)	6日 (山形) 21 (福岡)	1日・8日・17日 郡山西 附属中 24日附属幼 小	6日 (福住小中) 10日 山形マスター		27日 山形報告会 20-19 大牟田・福岡 授与式 24日 福住・郡山西 授与式
教委・学校研修支援	100,000		6日(附幼) 12日(附属中) 13日(郡山西中) 28日(幼研)	9日(香島高校) 25日(五條高校)			2日~7日 (女子大中等)	22日 (幼研) 27日 (高田高校)	9日 (附幼) 26日 (幼研)	13日 (添上高校)	29日 (幼研大会)		
陸前高田市文化遺産調査 (今年度は教員だけ)	200,000												
ユネスコ協会研修会	30,000			29日 (長浜)									
先進地・全国大会	200,000								10日 図書館総会 26日 TEEN 27日 スクール全 国大会	4日 未来創造全国 セミナー ESD全国フォー ラム	10-12日 屋久島サミ ット		
国連大学SDG大学連携	500,000		12日	18日	28日		7日	8日 22日 授業づくりW	10日	14日	21日	18日	
関西SDGs大学分科会	5,000								26日 社会連携PF				
ESDへき地教育調査	200,000							19日 東吉野中					
ESDサポーター・プログラム開 発	0		7日(事前会合)	3日	1日・29日								
通信費	90,000												
消耗品費	500,000												
人件費	1,800,000												
その他・予備費	50,000		12日 (附中)	23日 寺子屋研修					10日 (附属中)				
合計	6,275,000												
													5-6日 ESD学会大会 19日 ESD学会近畿大会

【ユネスコスクールチャレンジ期間】
長浜市立高時小学校、長浜市立永原小学校
天理市立福住小中、広陵町立真美ヶ丘第2小学校

奈良教育大学 ESD ティーチャー認証制度について

1. ESD を適切に計画し指導できる教員に求められる資質・能力

(1) 教師としての基盤的力量

学級経営力、生徒指導力、授業力、そして子ども理解力など、全ての学校教員に求められる資質・能力が基盤的力量として必要である。

(2) SDGs に関心を持ち、様々な書物から学んだり、講演会に参加したりするなど、能動的に SDGs への理解を深めようとする態度と、SDGs に関する課題を自分事とし、自らが持続可能な社会の担い手として、ライフスタイルを見直し、SDGs の達成に積極的に取り組もうとする態度が必要である。

(3) 「当たり前だ」と思っていることを時間的、また空間的に捉えして代替案を考え（クリティカル・シンキング）たり、地域の課題を SDGs の 17 の目標と関連付けて捉え、解決策を多面的・総合的に考え（システムズ・シンキング）たりする、探究的な思考力と行動力が求められる。

(4) ESD には教科書がない。総合的な学習の時間に地域の課題を学習課題として探究型の単元計画を組織し、地域人材や社会教育施設・専門家などと連携しながら、授業実践を行う力が求められる。また、日々の授業実践を対話的で深い学びを促すような授業力が求められる。

(5) ESD は社会づくりに関する価値観と行動の変革を促す教育活動である。ESD で育てたい価値観を育てるためには、系統的で継続的なカリキュラムが必要となる。校内はもちろん異なる校種の教員と連携して、系統적인カリキュラムを創造し、不断の見直し・改善を図ろうとする態度や、学校間交流や学習成果の地域への発信

などにより、学びがいのある質の高い ESD 実践を志向する態度も求められる。



2. ESD ティーチャープログラムの概要

(1) ESD ティーチャープログラムの基本型

ESD ティーチャープログラムは、上記の資質・能力を養う目的で、次の5回の研修から構成されている。

第1回：SDGs の理解促進

SDGs の達成が求められる世界の状況を経済・社会・環境の側面から捉え、理解を深める。

第2回：ESD の学習理論の理解

ESD で育てたい価値観、視点、資質能力を紹介するとともに、持続可能な社会づくりに有用なソマティック・マーカーを育てる体験的な学習について理解を深める。

第3回：優良実践事例の分析と単元構想案の作成

ESDの優良実践事例をESDの観点から分析し、授業づくりのポイントを理解したり、改善ポイントを見出したりすることで、学習指導案の読み方や作成方法について研修し、本学が開発した様式にしたがって単元構想案を作成する。

第4回：単元構想案の相互検討とESD学習指導案の作成

単元構想案の相互検討を踏まえ、ESDやESD学習指導案についての理解を深める。

※相互検討で修正した単元構想案を用いて、2か月程度かけてESD学習指導案を作成したうえで、第5回に参加する。

第5回：ESD学習指導案の相互検討会

各自が作成したESD学習指導案を発表し、全員で検討する。相互に検討することで、ESDの授業づくりや学習指導案作成のスキルアップを図る。

全ての研修会に参加し、ESD学習指導案を1月末までに大学に提出する。奈良教育大学では提出されたESD学習指導案を運営委員会で審議したうえで、本学の教授会に提出し、承認を得ることができれば、学長よりESDティーチャーの認定証を授与する。

(2) ESDティーチャープログラムの発展型

現職教員を対象としたESDティーチャープログラムにおいては、実践意欲の向上と、ESDに関する理解の深化を目的に、マスターコース、スペシャリストコースを用意している。

3. ESDティーチャーについて

奈良だけでなく、ESDティーチャープログラムを全国で展開することでESDティーチャーの拡大を図ると共に、ESDティーチャーの資質・能力、及び実践意欲の向上を目的に、フォローアップ研修としてESDティーチャーを対象としたオンライン研修を2ヶ月に1回実施している。

令和3年度までのESDティーチャー等の認定者数は以下の通りである。(名)

	現職教員			学生
	スペシャリスト	マスター	ティーチャー	ティーチャー
平成28年度	0	0	21	3
平成29年度	0	14	13	4
平成30年度	5	2	19	11
令和元年度	4	1	22	5
令和2年度	0	2	42	8
令和3年度	1	16	96	9
合計	10	35	213	40



4. 令和2年度のESDティーチャープログラム

(1) 現職教員のESDティーチャー等

①ESDスペシャリスト(1名) 奈良市立朱雀小学校：中村友弥

②ESDマスター(16名)

1	奈良教育大学附属中学校	阿部 孝哉
2	奈良教育大学附属中学校	市橋 由彬
3	奈良教育大学附属中学校	佐竹 靖
4	奈良教育大学附属中学校	中村 基一
5	奈良教育大学附属中学校	山本 浩大
6	福岡市立田隈小学校	遠入 哲司
7	福岡市立住吉小学校	大島 英樹
8	福岡市立玄界小学校	鬼塚 正博

9	糸満市立糸満中学校	新垣 孝子
10	山形市立千歳小学校	阿部 大輔
11	山形大学附属特別支援学校	阿部 友幸
12	上山市立南小学校	太田 馨
13	山形市立第三小学校	岡崎 亮
14	東海大学山形高等学校	川合 真澄
15	天童市立寺津小学校	近野 巧
16	上山市立南小学校	佐藤 亨樹

③ESDティーチャー(96名)

1	奈良市立朱雀小学校	本多 雄大
2	奈良市立伏見小学校	尾崎 ひとみ
3	奈良市立伏見小学校	梁川 千尋
4	奈良教育大学附属中学校	有馬 一彦
5	奈良教育大学附属中学校	奥原 牧
6	奈良教育大学附属中学校	小倉 智子
7	奈良教育大学附属中学校	福田 真人
8	奈良教育大学附属中学校	松田 孝史
9	奈良教育大学附属中学校	吉岡 睦美
10	奈良教育大学附属小学校	池添 梨花
11	奈良教育大学附属小学校	井上 寛崇
12	奈良教育大学附属小学校	井上 龍一
13	奈良教育大学附属小学校	入澤 佳菜
14	奈良教育大学附属小学校	大谷 陽子
15	奈良教育大学附属小学校	奥畑 恵里
16	奈良教育大学附属小学校	勝原 崇
17	奈良教育大学附属小学校	平野 江美
18	奈良教育大学附属小学校	松本 哲志
19	奈良教育大学附属幼稚園	鎌田 大雅
20	奈良教育大学附属幼稚園	河合 理沙
21	富雄藍咲学園	白石 真季
22	平群町立平群中学校	井阪 愛子
23	滋賀短期大学	柚木 たまみ
24	大阪市立大淀小学校	藤原 愛子
25	福岡市立大原小学校	岡野 憲太

26	福岡市立香陵小学校	鮫島 達則
27	福岡市立三宅小学校	橋本 智美
28	福岡市立城西中学校	古荘 次郎
29	福岡市立田隈小学校	毛利 有美子
30	福岡市立城原小学校	藪内 真志
31	大牟田市立中友小学校	上江 舞
32	大牟田市立天領小学校	釘宮 遥
33	大牟田市立田隈中学校	古賀 大成
34	大牟田市立大正小学校	坂本 真奈美
35	大牟田市立高取小学校	島崎 美咲
36	大牟田市立大牟田特別支援学校	瀬口 喬史
37	大牟田市立三池小学校	堤 朱音
38	大牟田市立明治小学校	中川原 沙月
39	大牟田市立天の原小学校	中島 寛子
40	大牟田市立大牟田中央小学校	平田 絵美
41	大牟田市立倉永小学校	松崎 万貴
42	大牟田市立橘中学校	山下 智也
43	大牟田市立駛馬小学校	山田 飛翔
44	沖縄県立北部農林高等学校	安座間 康
45	北谷町立北谷中学校	伊佐 和香乃
46	南風原町市立南風原中学校	内山 直美
47	南風原町市立南風原中学校	大城 真紀子
48	沖縄県立宮古特別支援学校	金城 裕紀
49	沖縄県立具志川高等学校	澤岬 良子
50	南風原町立南風原中学校	玉城 晃

51	宮古島市立北小学校	多和田 美穂
52	沖縄県立球陽高等学校	中村 元紀
53	沖縄県立那覇高等学校	平田 真弓
54	沖縄県立大平特別支援学校	屋嘉比 心
55	南風原町立南風原小学校	屋良 真弓
56	宮古島市立北小学校	与那城 貴俊
57	山ノ内町立南小学校	菅原 勇介
58	天理市立福住小中学校	足立 剛
59	天理市立福住小中学校	伊藤プラダ ハン 信美
60	天理市立福住小中学校	犬塚 良子
61	天理市立福住小中学校	梅森 華
62	天理市立福住小中学校	大野 直彬
63	天理市立福住小中学校	岡本 淳平
64	天理市立福住小中学校	神元 聡
65	天理市立福住小中学校	車井 佳奈
66	天理市立福住小中学校	小竹 仙哉
67	天理市立福住小中学校	雑賀 奈保子
68	天理市立福住小中学校	笹尾 美香
69	天理市立福住小中学校	永原 智子
70	天理市立福住小中学校	藤田 桃子
71	天理市立福住小中学校	堀川 淳司
72	天理市立福住小中学校	牧田 萌
73	天理市立福住小中学校	松林 紗世

74	天理市立福住小中学校	箕浦 由美子
75	天理市立福住小中学校	山原 光平
76	天理市立福住小中学校	山本 弥保
77	大和郡山市立郡山西中学校	梶井 伊佐子
78	大和郡山市立郡山西中学校	片浦 亮
79	大和郡山市立郡山西中学校	阪田 忠
80	大和郡山市立郡山西中学校	佐藤 晴華
81	大和郡山市立郡山西中学校	更谷 朋哉
82	大和郡山市立郡山西中学校	真城 匠
83	大和郡山市立郡山西中学校	出口 宗周
84	大和郡山市立郡山西中学校	中澤 宏太
85	大和郡山市立郡山西中学校	中元 悠貴
86	大和郡山市立郡山西中学校	三宅 健太
87	大和郡山市立郡山西中学校	山崎 啓安
88	大和郡山市立郡山西中学校	幸野 菜都美
89	山形市立第三小学校	熊谷 周
90	山形県寒河江市立醍醐小学校	小関 直幸
91	山形大学附属特別支援学校	近藤 真知子
92	山形県立高畠高等学校	佐藤 崇之
93	上山市立宮川小学校	佐藤 正隆
94	山形市立第三小学校	鈴木 絵里加
95	山形市立高瀬小学校	長沼 亜季
96	東根市立大森小学校	山田 浩行

(2) 学生の ESD ティーチャー (9名)

1	教育学部学校教育教員養成課程国語教育専修	西條 秀哉
2	教育学部学校教育教員養成課程教育学専修	岩城 雄大
3	教育学部学校教育教員養成課程特別支援教育専修	山中 彩加
4	教育学部学校教育教員養成課程社会科教育専修	加藤 真由
5	教育学部学校教育教員養成課程社会科教育専修	長滝谷 幸子
6	教育学部学校教育教員養成課程社会科教育専修	根本 優
7	教育学部学校教育教員養成課程社会科教育専修	岡本 真実
8	教育学部学校教育教員養成課程音楽教育専修	佐藤 ころろ
9	教育学部学校教育教員養成課程英語教育専修	稲富 麻莉

令和3年度 ESD ティーチャープログラム(現職教員向け)開催要項

1. 目的

持続可能な開発目標及び新学習指導要領と、持続可能な社会の創り手の育成は喫緊の課題となっている。本学では2016年度より教員志望の学生及び現職教員を対象に、ESDを指導する教員に求められる資質・能力の育成を目的としたESDティーチャープログラムを展開してきた。

一方、昨今のコロナ禍により、対面式の研修会の開催は困難となってきている。そこで、各地の実情にあわせ、対面式及びオンラインによるESDティーチャープログラムを実施する。

2. 運営担当者

太田・大西・中澤：現職教員等の経験を有する大学教員

3. 研修内容

- (1) 持続可能な開発目標 (SDGs) の内容理解
- (2) ESD の学習理論
- (3) 優良実践事例の分析とESD単元構想案の作成
- (4) ESD 単元構想案の相互検討と ESD 学習指導案・実践報告の作成
- (5) ESD 学習指導案・実践報告の相互検討

4. ESD ティーチャープログラム (現職教員向け) について

(1) ESD ティーチャーコース

- ①ESD 連続セミナーへの5回以上の参加と毎回のミニレポートの作成
- ②ESD 授業構想案と ESD 学習指導案の作成、1月末日までに提出

(2) ESD マスターコース

- ①ESD 連続セミナーへの7回以上の参加と毎回のミニレポートの作成
- ②ESD 授業構想案と ESD 学習指導案の作成、そして授業実践をふまえた実践事例を作成 (6P程度) し、1月末までに提出 (考察をしっかりと記載すること)。
- ③ESD ティーチャー研修中の現職教員および学生の指導案作成指導

(4) ESD スペシャリストコース

- ①ESD 連続セミナーへの7回以上の参加と毎回のミニレポートの作成
- ②ESD 教材開発と ESD 学習指導案の作成、そして授業実践をふまえた実践事例を作成 (6P程度) し、1月末までに提出 (考察をしっかりと記載すること)。
- ③ESD ティーチャー・マスター研修中の現職教員および学生の指導案作成指導
- ④学会や研究大会での実践事例の発表か、ESD 研修会の開催と報告書の提出

※3月末に学長より ESD ティーチャー、ESD マスター、ESD スペシャリストの認定証を授与。

※作成された学習指導案や実践事例は近畿 ESD コンソーシアムの HP に掲載。

※12月に開催する近畿 ESD コンソーシアム実践交流会での発表を依頼する場合がある。

5. 開催予定

- | | |
|------------------|-------------------------------|
| (1) 大牟田市教育委員会 | 8月7日・8月28日・10月30日 |
| (2) 山形市ESD研究会 | 8月9・10日、11月6日、1月10日 |
| (3) 福岡市国際理解教育研究会 | 6月12・13日、11月21日 |
| (4) 天理市立福住小中学校 | 7月26日、8月3日、1月6日 |
| (5) 沖縄県教育委員会 | 7月31日、8月1日、8月18日、10月9日 |
| (6) 信州大学 | 8月5日、10月2日 |
| (7) 大和郡山市立郡山西中学校 | 8月2日、8月23日、12月1日・8日・17日 |
| (8) 奈良教育大学附属小学校 | 7月28日、29日、8月25・26日、12月15日、24日 |

2021年度 ESDティーチャープログラム開催報告

ESD ティーチャープログラム福岡会場①②③

「SDGs の基礎的理解」「ESD の学習理論」「優良実践事例の分析」

2021年6月12日(土) 10時30分～16時30分 オンライン (Zoom)

参加者：毛利有美子、遠入哲司(田隈小学校)、藪内真志(城原小学校)、鬼塚正博(玄界小学校)、古荘次郎(城西中学校)、吉竹千保(百道中学校)、岡野憲太(大原小学校)、鮫島達則(香陵小学校)、大島英樹(住吉小学校)、橋本智美(三宅小学校)、椎葉拓朗(西花畑小学校) 受講者 11名
中澤静男、大西浩明

ESD ティーチャープログラム福岡会場④ 「単元構想案の相互検討」

2021年7月24日(土) 13時30分～16時 福岡市立田隈小学校ふれあいルーム

参加者：毛利有美子、遠入哲司(田隈小学校)、藪内真志(城原小学校)、鬼塚正博(玄界小学校)、古荘次郎(城西中学校)、吉竹千保(百道中学校)、岡野憲太(大原小学校)、鮫島達則(香陵小学校)、大島英樹(住吉小学校)、橋本智美(三宅小学校)、椎葉拓朗(西花畑小学校) 受講者 11名
安田昌則(前大牟田市教育長)、中澤静男、大西浩明
(写真を撮るのを忘れていました！)

ESD ティーチャープログラム福住小中学校会場①②③

「SDGs の基礎的理解」「ESD の学習理論」「優良実践事例の分析」

2021年7月26日(月) 9時～16時 天理市立福住小中学校図書室

参加者：福住小中学校教員 受講者 20名
中澤静男、大西浩明



ESD ティーチャープログラム附属小学校会場① 「SDGs の基礎的理解」

2021年7月28日(水) 13時30分～15時30分 附属小学校多目的ホール

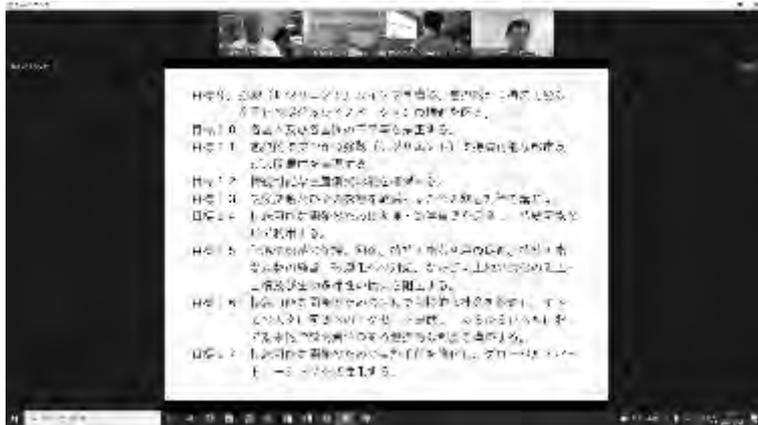
参加者：松本哲志、井上寛崇、奥畑恵里、大谷陽子、池添梨花、勝原崇、平野江美、入澤佳菜、井上龍一(附属小学校)
小倉智子、奥原牧、松田孝史、福田真人、吉岡睦美、有馬一彦、阿部孝哉、中村基一、市橋由彬、山本浩大、佐竹靖(附属中学校)

鎌田大雅、白石真季（附属幼稚園）
中澤静男、大西浩明

受講者 22 名（1 名欠席）



ESD ティーチャープログラム長野会場① 「SDGs の基礎的理解」
2021 年 7 月 29 日（木）10 時～12 時 オンライン（Zoom）
参加者：菅原勇介（山ノ内町立南小学校）、水谷瑞希（信州大学）
中澤静男、大西浩明



7 月 30 日（金）予定の②③の研修は菅原先生が欠席のため開催せず

ESD ティーチャープログラム附属小学校会場② 「優良実践事例の分析」
2021 年 7 月 29 日（木）13 時 30 分～15 時 30 分 附属小学校多目的ホール

参加者：松本哲志、井上寛崇、奥畑恵里、大谷陽子、池添梨花、勝原崇、平野江美、入澤佳菜、井上龍一（附属小学校）

小倉智子、奥原牧、松田孝史、福田真人、吉岡睦美、阿部孝哉、中村基一、市橋由彬、山本浩大、佐竹靖（附属中学校）

鎌田大雅、白石真季（附属幼稚園）

受講者 21 名（2 名欠席）

中澤静男、大西浩明



ESD ティーチャープログラム沖縄会場① 「SDGs の基礎的理解」

2021年7月31日(土) 14時～16時 オンライン (Zoom)

参加者：中村元紀(沖縄県立球陽高校)、金城裕紀(沖縄県立宮古特別支援学校)、
与那城貴俊(宮古島市立北小学校)、多和田美穂(宮古島市立北小学校)、
屋良真弓(南風原町立南風原小学校)、内山直美(南風原町立南風原中学校)、
玉城晃(南風原町立南風原中学校)、安座間康(沖縄県立北部農林高等学校)、
澤岬良子(沖縄県立具志川高校)、屋嘉比心(沖縄県立大平特別支援学校)、
平田真弓(沖縄県立那覇高等学校) 受講者 11名(3名欠席)
中澤静男、大西浩明



ESD ティーチャープログラム沖縄会場②③ 「ESD の学習理論」「優良実践事例の分析」

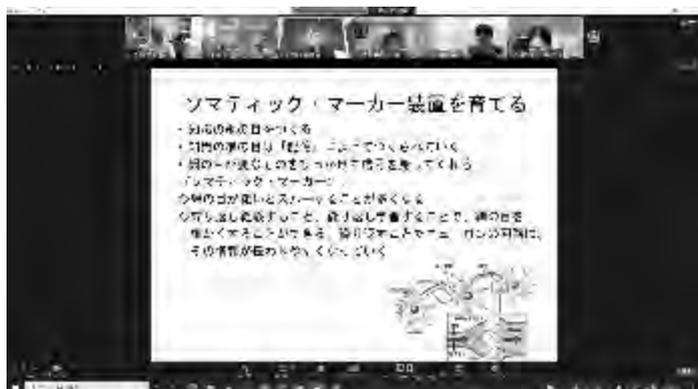
2021年8月1日(日) 10時～16時 オンライン (Zoom)

参加者：中村元紀(沖縄県立球陽高校)、金城裕紀(沖縄県立宮古特別支援学校)、
与那城貴俊(宮古島市立北小学校)、多和田美穂(宮古島市立北小学校)、
屋良真弓(南風原町立南風原小学校)、内山直美(南風原町立南風原中学校)、
玉城晃(南風原町立南風原中学校)、大城真紀子(南風原町立南風原中学校)、
安座間康(沖縄県立北部農林高等学校)、新垣孝子(糸満市立糸満中学校)、
澤岬良子(沖縄県立具志川高校)、屋嘉比心(沖縄県立大平特別支援学校)、
平田真弓(沖縄県立那覇高等学校)

受講者 13名(1名欠席)

仲村出(国立沖縄青少年交流の家)、石井貴徳(読谷村立読谷中学校)

中澤静男、大西浩明



ESD ティーチャープログラム郡山西中学校会場①② 「SDGsの基礎的理解」「ESDの学習理論」

2021年8月2日(月) 10時～16時 大和郡山市立郡山西中学校視聴覚室

参加者：郡山西中学校教員 受講者 18名(4名欠席)

長友恒人(前日本ESD学会会長)、中澤静男、大西浩明



ESD ティーチャープログラム福住小中学校会場④ 「単元構想案の相互検討」

2021年8月3日(火) 13時30分～16時 天理市立福住小中学校図書室

参加者：福住小中学校教員 受講者 18名

圓山裕史(奈良市立伏見小学校)、吉田寛(附属中学校)

太田満、中澤静男、大西浩明



ESD ティーチャープログラム長野会場④ 「単元構想案の相互検討」

2021年8月5日(木) 9時30分～12時 オンライン(Zoom)

参加者：菅原勇介(山ノ内町立南小学校)、水谷瑞希(信州大学)

中澤静男、大西浩明



ESD ティーチャープログラム大牟田会場①② 「SDGsの基礎的理解」「ESDの学習理論」

2021年8月7日(土) 10時~16時 ホテルニューガイア・オームタガーデン

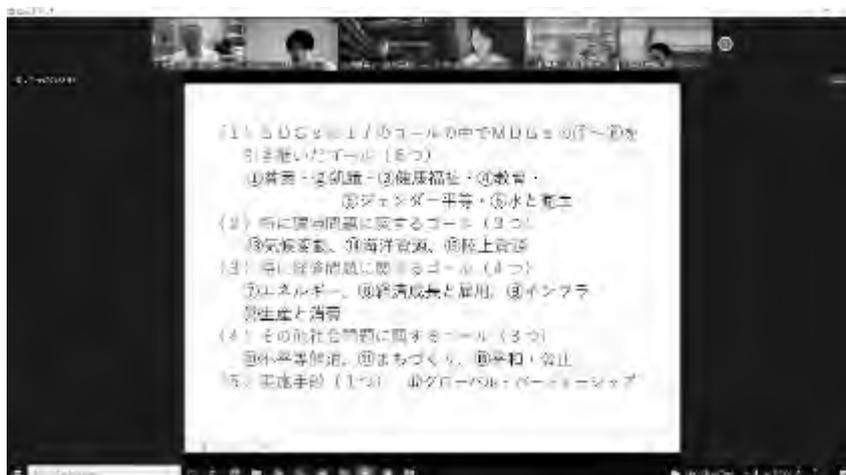
参加者：釘宮遥(天領小学校)、山田飛翔(駛馬小学校)、中島寛子(天の原小学校)、
平田絵美(大牟田中央小学校)、坂本真奈美(大正小学校)、上江舞(中友小学校)、
中川原沙月(明治小学校)、堤朱音(三池小学校)、松崎万貴(倉永小学校)、
瀬口喬史(大牟田特別支援学校)、古賀大成(田隈中学校)、山下智也(橘中学校)、
島俊彦(吉野小学校) 受講者13名(1名欠席)
中澤静男、大西浩明



ESD ティーチャープログラム山形会場①② 「SDGsの基礎的理解」「ESDの学習理論」

2021年8月9日(月) 10時~16時 オンライン (Zoom)

参加者：小関直幸(寒河江市立醍醐小学校)、熊谷周(山形市立第三小学校)、
鈴木絵里加(山形市立第三小学校)、山田浩行(東根市立大森小学校)、
佐藤崇之(高島高等学校)、近藤真知子(山形大学附属特別支援学校)、
長沼亜季(山形市立高瀬小学校)、阿部大輔(山形市立千歳小学校)、
阿部友幸(山形大学附属特別支援学校)、岡崎亮(山形市立第三小学校)、
太田馨(上山市立南小学校)、川合真澄(東海大学山形高等学校)、
近野巧(天童市立寺津小学校)、佐藤亨樹(上山市立南小学校)
細川直弥(山形市立高瀬小学校) 受講者15名(1名欠席)
新宮濟(奈良市立平城小学校)、中澤静男、大西浩明



ESD ティーチャープログラム山形会場③④ 「優良実践事例の分析」「単元構想案の相互検討」

2021年8月10日(火) 10時～16時 オンライン (Zoom) (マスター希望者のみ)

参加者：小関直幸(寒河江市立醍醐小学校)、熊谷周(山形市立第三小学校)、
鈴木絵里加(山形市立第三小学校)、佐藤正隆(上山市立宮川小学校)、
近藤真知子(山形大学附属特別支援学校)、阿部大輔(山形市立千歳小学校)、
阿部友幸(山形大学附属特別支援学校)、岡崎亮(山形市立第三小学校)、
太田馨(上山市立南小学校)、川合真澄(東海大学山形高等学校)、
近野巧(天童市立寺津小学校)、佐藤亨樹(上山市立南小学校)

受講者 12名 (3名欠席)

新宮済(奈良市立平城小学校)、中澤静男、大西浩明



ESD ティーチャープログラム沖縄会場④ 「単元構想案の相互検討」

2021年8月18日(水) 10時～12時 オンライン (Zoom)

参加者：中村元紀(沖縄県立球陽高校)、金城裕紀(沖縄県立宮古特別支援学校)、
与那城貴俊(宮古島市立北小学校)、多和田美穂(宮古島市立北小学校)、
屋良真弓(南風原町立南風原小学校)、内山直美(南風原町立南風原中学校)、
玉城晃(南風原町立南風原中学校)、大城真紀子(南風原町立南風原中学校)、
安座間康(沖縄県立北部農林高等学校)、新垣孝子(糸満市立糸満中学校)
澤岬良子(沖縄県立具志川高校)、屋嘉比心(沖縄県立大平特別支援学校)、
平田真弓(沖縄県立那覇高等学校)、伊佐和香乃(北谷町立北谷中学校)

受講者 14名

大島順子(琉球大学)、河野晋也(大分大学)、仲村出(国立沖縄青少年交流の家)、
中澤静男、大西浩明



ESD ティーチャープログラム郡山西中学校会場③④ 「優良実践事例の分析」「単元構想案の相互検討」

2021年8月23日(月) 10時～16時 大和郡山市立郡山西中学校視聴覚室

参加者：郡山西中学校教員 受講者 18名(4名欠席)

佐竹靖、市橋由彬、中村基一、阿部孝哉、山本浩大(附属中学校)

森口洋一、中澤静男、大西浩明



ESD ティーチャープログラム附属小学校会場③ 「ESDの学習理論」

2021年8月25日(水) 9時30分～11時30分 附属小学校多目的ホール

参加者：松本哲志、井上寛崇、奥畑恵里、大谷陽子、池添梨花、勝原崇、平野江美、
入澤佳菜、(附属小学校)

小倉智子、奥原牧、松田孝史、福田真人、吉岡睦美、阿部孝哉、中村基一、山本浩大、
佐竹靖、有馬一彦(附属中学校) 受講者 18名(5名欠席)

中澤静男、大西浩明



ESD ティーチャープログラム附属小学校会場④ 「単元構想案の相互検討」

2021年8月26日(木) 9時30分～12時 附属小学校多目的ホール

参加者：松本哲志、井上寛崇、奥畑恵里、大谷陽子、池添梨花、勝原崇、平野江美、
入澤佳菜、(附属小学校)

小倉智子、奥原牧、松田孝史、福田真人、吉岡睦美、阿部孝哉、中村基一、市橋由彬、
山本浩大、佐竹靖、有馬一彦(附属中学校)

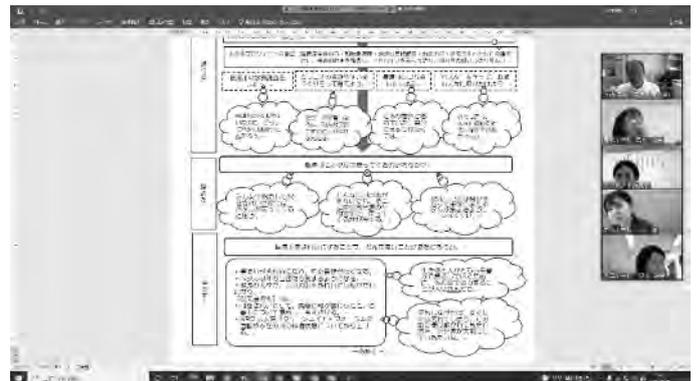
鎌田大雅、河合理沙、白石真季(附属幼稚園) 受講者 22名(1名欠席)

三木恵介(奈良市教育委員会事務局学校教育課)、吉田寛(附属中学校)、
森口洋一、阪本さゆり、大西浩明



ESD ティーチャープログラム大牟田会場③④ 「優良実践事例の分析」「単元構想案の相互検討」
2021年8月28日(土) 10時～16時 オンライン (Zoom)

参加者：釘宮遙 (天領小学校)、山田飛翔 (駛馬小学校)、中島寛子 (天の原小学校)、
平田絵美 (大牟田中央小学校)、坂本真奈美 (大正小学校)、上江舞 (中友小学校)、
中川原沙月 (明治小学校)、堤朱音 (三池小学校)、松崎万貴 (倉永小学校)、
瀬口喬史 (大牟田特別支援学校)、古賀大成 (田隈中学校)、山下智也 (橘中学校)、
島俊彦 (吉野小学校) 受講者 14 名
安田昌則 (前大牟田市教育長)、中澤哲也 (平群町立平群北小学校)、
中澤静男、大西浩明



ESD ティーチャープログラム山形会場④ 「単元構想案の相互検討」(ティーチャー希望者)
2021年9月4日(土) 14時～16時 オンライン (Zoom)

参加者：小関直幸 (寒河江市立醍醐小学校)、熊谷周 (山形市立第三小学校)、
鈴木絵里加 (山形市立第三小学校)、佐藤正隆 (上山市立宮川小学校)、
山田浩行 (東根市立大森小学校)、近藤真知子 (山形大学附属特別支援学校)、
長沼亜季 (山形市立高瀬小学校) 阿部大輔 (山形市立千歳小学校)、
阿部友幸 (山形大学附属特別支援学校)、岡崎亮 (山形市立第三小学校)、
太田馨 (上山市立南小学校)、川合真澄 (東海大学山形高等学校)、
近野巧 (天童市立寺津小学校)、佐藤亨樹 (上山市立南小学校)、
伊佐和香乃 (北谷町立北谷中学校) 受講者 15 名 (1名欠席)
河野晋也 (大分大学)、新宮済 (奈良市立平城小学校)、中澤静男、大西浩明
(写真を撮るのを忘れていました！)

ESD ティーチャープログラム長野会場⑤

「学習指導案の相互検討」

2021年10月2日(土) 10時～12時

山ノ内町立山ノ内南小学校

参加者：菅原勇介(山ノ内町立南小学校)、水谷瑞希(信州大学)、大西浩明



ESD ティーチャープログラム沖縄会場⑤

「学習指導案の相互検討」

2021年10月9日(土) 10時～12時30分

琉球大学千原キャンパス

参加者：中村元紀(沖縄県立球陽高校)、金城裕紀(沖縄県立宮古特別支援学校)、
与那城貴俊(宮古島市立北小学校)、多和田美穂(宮古島市立北小学校)、
屋良真弓(南風原町立南風原小学校)、内山直美(南風原町立南風原中学校)、
玉城晃(南風原町立南風原中学校)、大城真紀子(南風原町立南風原中学校)、
安座間康(沖縄県立北部農林高等学校)、新垣孝子(糸満市立糸満中学校)
澤岬良子(沖縄県立具志川高校)、屋嘉比心(沖縄県立大平特別支援学校)、
平田真弓(沖縄県立那覇高等学校)、伊佐和香乃(北谷町立北谷中学校)

受講者 14名

大島順子(琉球大学)、中澤静男、大西浩明

オブザーバー：神村智子(沖縄県教育委員会)、岡崎威生、濱田栄作(琉球大学)



ESD ティーチャープログラム⑥(マスター希望者)

「カリキュラムマネジメントについて」

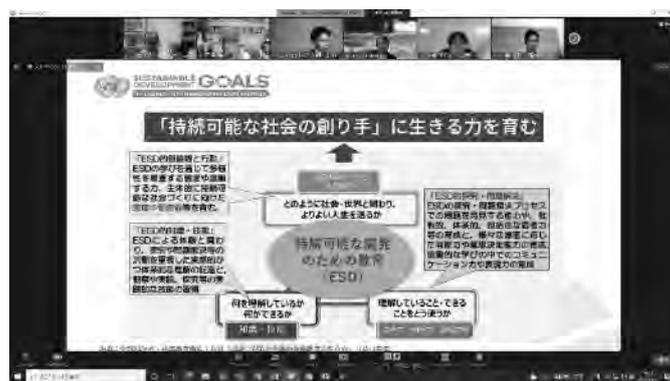
2021年10月20日(水) 19時～21時

オンライン(Zoom)

講師：及川幸彦(東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター 主幹研究員)

参加者：遠入哲司(福岡市立田隈小学校)、鬼塚正博(福岡市立玄界小学校)、
大島英樹(福岡市立住吉小学校)、椎葉拓朗(福岡市立西花畑小学校)、
新垣孝子(糸満市立糸満中学校)、阿部大輔(山形市立千歳小学校)、
阿部友幸(山形大学附属特別支援学校)、岡崎亮(山形市立第三小学校)、

太田馨（上山市立南小学校）、佐藤亨樹（上山市立南小学校） 受講者 10 名（7 名欠席）
 新宮濟（奈良市立平城小学校）、中澤静男、大西浩明



ESD ティーチャープログラム大牟田会場⑤ 「学習指導案の相互検討」

2021 年 10 月 30 日（土）10 時～12 時 ホテルニューガイア・オームタガーデン

参加者：釘宮遥（天領小学校）、山田飛翔（駛馬小学校）、平田絵美（大牟田中央小学校）、
 坂本真奈美（大正小学校）、上江舞（中友小学校）、中川原沙月（明治小学校）、
 堤朱音（三池小学校）、松崎万貴（倉永小学校）、瀬口喬史（大牟田特別支援学校）、
 古賀大成（田隈中学校）、山下智也（橘中学校）、島俊彦（吉野小学校）

受講者 12 名（2 名欠席）

安田昌則（前大牟田市教育長）、圓山裕史（奈良市立伏見小学校）
 中澤静男、大西浩明



ESD ティーチャープログラム山形会場⑤⑦ 「学習指導案の相互検討」(⑤ティーチャー希望者のみ)
 「カリキュラムマネジメントの相互検討」(マスター)

2021 年 11 月 6 日（土）10 時～16 時 食糧会館

参加者：小関直幸（寒河江市立醍醐小学校）、熊谷周（山形市立第三小学校）、
 鈴木絵里加（山形市立第三小学校）、佐藤正隆（上山市立宮川小学校）、
 山田浩行（東根市立大森小学校）、近藤真知子（山形大学附属特別支援学校）、
 長沼亜季（山形市立高瀬小学校）、阿部大輔（山形市立千歳小学校）、
 阿部友幸（山形大学附属特別支援学校）、岡崎亮（山形市立第三小学校）、
 太田馨（上山市立南小学校）、近野巧（天童市立寺津小学校）、

佐藤亨樹（上山市立南小学校） 受講者 13 名（2 名欠席）
 新宮濟（奈良市立平城小学校）、中澤静男、大西浩明



ESD ティーチャープログラム福岡会場⑤⑦

「学習指導案の相互検討」

「カリキュラムマネジメントの相互検討」(マスター)

2021年11月21日(日)10時~16時 福岡市立中央市民センター視聴覚室

参加者：毛利有美子、遠入哲司(田隈小学校)、藪内真志(城原小学校)、鬼塚正博(玄界小学校)、
古荘次郎(城西中学校)、吉竹千保(百道中学校)、岡野憲太(大原小学校)、
鮫島達則(香陵小学校)、大島英樹(住吉小学校)、橋本智美(三宅小学校)
椎葉拓朗(西花畑小学校) 受講者11名
安田昌則(前大牟田市教育長)、中澤静男、大西浩明



ESD ティーチャープログラム郡山西中会場⑤

「学習指導案の相互検討」(1)

2021年12月1日(水)15時~17時 大和郡山市立郡山西中学校視聴覚室

参加者：山崎啓安、片浦亮、中元悠貴、真城匠、佐藤晴華 受講者5名
中澤静男、大西浩明

ESD ティーチャープログラム郡山西中会場⑤

「学習指導案の相互検討」(2)

2021年12月8日(水)15時30分~17時30分 大和郡山市立郡山西中学校大会議室

参加者：中澤宏太、太田菜都美 受講者2名
中澤静男、大西浩明

ESD ティーチャープログラム附属中学校会場⑤ 「学習指導案の相互検討」(ティーチャー)

2021年12月15日(木) 15時~17時 附属中学校図書室・会議室

参加者：小倉智子、奥原牧、松田孝史、福田真人、吉岡睦美、阿部孝哉、中村基一、市橋由彬、
山本浩大、佐竹靖、有馬一彦(附属中学校) 受講者 11名
中澤静男、大西浩明

ESD ティーチャープログラム郡山西中会場⑤ 「学習指導案の相互検討」(3)

2021年12月17日(金) 13時~15時 大和郡山市立郡山西中学校大会議室

参加者：梶井伊佐子、更谷朋哉、三宅健太、出口宗周、阪田忠 受講者 5名
森口洋一、中澤静男、大西浩明



ESD ティーチャープログラム附属小学校会場⑤ 「学習指導案の相互検討」(幼小のみ)

2021年12月24日(金) 9時30分~12時 附属小学校多目的ホール

参加者：松本哲志、井上寛崇、奥畑恵里、大谷陽子、池添梨花、勝原崇、平野江美、
井上龍一、入澤佳菜、(附属小学校)
鎌田大雅、河合理沙、白石真季(附属幼稚園) 受講者 12名
三木恵介(奈良市教育委員会事務局学校教育課)、中澤静男、大西浩明

ESD ティーチャープログラム附属中学校会場⑤⑦ 「学習指導案の相互検討」(マスター)

2022年1月5日(水) 16時~18時 附属中学校会議室

参加者：阿部孝哉、中村基一、市橋由彬、山本浩大 受講者 4名(1名欠席)
中澤静男、大西浩明

ESD ティーチャープログラム福住小中学校会場⑤ 「学習指導案の相互検討」

2022年1月6日(木) 13時30分~16時 天理市立福住小中学校図書室

参加者：神元聡、小竹仙哉、犬塚良子、足立剛、山原光平、雑賀奈保子、山本弥保、峯野真紀子、
伊藤ブラダハン信美、前田佳代、梅森華、笹尾美香、堀川淳司、箕浦由美子、牧田萌、
永原智子、大野直彬、藤田桃子、車井佳奈、松林紗世、岡本淳平 受講者 21名
祐岡武志(阪南大学)、圓山裕史(奈良市立伏見小学校)
太田満、中澤静男、大西浩明



ESD ティーチャープログラム山形会場⑤ 「学習指導案の相互検討」(マスター)

2022年1月10日(日)9時~12時 食糧会館

参加者：阿部大輔(山形市立千歳小学校)、阿部友幸(山形大学附属特別支援学校)、
岡崎亮(山形市立第三小学校)、太田馨(上山市立南小学校)、
近野巧(天童市立寺津小学校)、佐藤亨樹(上山市立南小学校)、
佐藤崇之(高畠高等学校)、小関直幸(寒河江市立醍醐小学校)

受講者8名(1名欠席)

新宮済(奈良市立平城小学校)、中澤静男、大西浩明



受講者

福岡 7名 (マスター希望4名)

大牟田 14名

福住小中 21名

長野 1名

附属幼小中 18名 (マスター希望5名)

郡山西中 22名 【希望者が数人減る予定】

沖縄 13名 (マスター希望1名)

山形 8名 (マスター希望7名)

合計 ティーチャー104名 マスター17名

ESD プログラム(ESD ティーチャー)履修の手引き:学生対象

1. プログラムの趣旨・概要

- ESD プログラムの履修を通して、学校や地域において ESD を適切に計画し、実践できる教員「ESD ティーチャー」を目指します。
- 本プログラムでは、授業科目以外に、ESD 実践（学校や地域での ESD に関わるボランティア活動）や、ESD 演習（授業以外での ESD に関する学習）、現職教員と共に ESD 学習指導案作成を学ぶ ESD セミナー（3 回生以上）が用意されています。
- 「スタートアップ⇒プラクティス⇒グローバル」とステップアップし、最終的に「ESD ティーチャー」が授与されます。

2. プログラム履修条件・申請の説明会・申請方法

- 本プログラムはすべての学年の学生を対象としています。人数制限はありません。
- 4 月 22 日（木）18:00～18:30 次世代教員養成センター 2 号館多目的ホールにおいて説明会を開催しますので、出席してください。説明会で登録申請書をお渡します。その後、履修希望が固まれば、申請書を 5 月 7 日（金）15 時まで、図書館内（教育研究支援課 ESD 事務担当）へ提出してください。

3. 授業科目・履修方法

(1) スタートアップ・プログラム

① ESD プログラムに関わる必修科目

ESD と学校教育(前期)、ESD-SDGs 基礎論(前期)

ESD 概論(後期)、ESD と生活科・総合的な学習の時間(後期)

② 以下の ESD 実践や ESD 演習に各 1 回以上参加し、ポートフォリオを作成

実践：ESD 子ども広場、ユネスコスクール野外活動等支援、東大寺子屋支援
被災地支援ボランティア、陸前高田市文化遺産調査団、等

演習：学ぶ喜び ESD 連続公開講座、ESD 実践交流会、等

(2) プラクティス・プログラム

① 選択必修科目である「ICT、防災教育に関わる科目」、「環境教育、世界遺産・

文化遺産に関わる科目」より、それぞれ 1 科目以上

② ESD 実践や ESD 演習に各 1 回以上参加（スタート・アップと同じ）

(3) グローバル・プログラム

① ユネスコスクール推奨科目より 2 科目以上を履修してください。

② ESD 連続セミナーに 5 回以上参加し、ESD 学習指導案を作成します。

ESD 学習指導案の書き方は ESD 連続セミナーで学びます（3 回生より）。

(4) 修了の判定

原則として 3 年かけて履修していただきますが、自らの履修計画により短縮して履修することも可能です。ポートフォリオシステムを使って、ESD 実践・ESD 演習の履歴を蓄積し、最終的にポートフォリオと ESD 学習指導案を 1 月末に提出していただきます。書類審査の上、年度末に ESD ティーチャーを授与します。

スタートアップ・プログラム：必修科目（2 科目以上履修してください）

ESD 概論	ESD と学校教育
ESD と生活科・総合的な学習の時間	ESD-SDGs 基礎論

プラクティス・プログラム：選択必修科目

環境教育、世界遺産・文化遺産に関わる科目(1科目以上)	ICT、防災教育に関わる科目(1科目以上)
山間地教育入門	情報社会と法・倫理
持続発展教育と文化遺産	情報機器の操作
地域生態論	情報メディアの活用
フィールドワークで地域に学ぶ	教師のための情報モラル
ESD と世界遺産	まちの地理情報の収集と防災活用
	地理学概論

グローバル・プログラム：ユネスコスクール推奨科目（2 科目以上）

人権と教育	生涯教育計画特講 I	文化遺産芸術学演習 II
日本国憲法	肢体不自由教育方法	ユースアジア美術史
キャリア形成と人権	知的障害教育方法	アジアの中の日本美術史
教育人権アプローチ特講	障害児の発達と学習	地域文化論
教育人権アプローチ演習	校外学習指導特講	造形芸術学特講
文化遺産芸術学演習 I	大学での学び入門(文化遺産)	地理学野外実験
生涯教育文化特講		

◇ESD（持続可能な開発のための教育）とは

ESD とは持続可能な社会づくりの担い手を育むことを目的とした教育です。2015年に国連で持続可能な開発目標（SDGs）が採択されました。気候変動・資源の枯渇・生物多様性の劣化といった環境問題、紛争・テロ等の平和に関する問題、貧困・生産と消費といった経済・社会問題といった地球的課題が顕在化してきており、世界中でSDGs達成のために取組が進められています。日本では、学習指導要領前文に「持続可能な社会の創り手」の育成が明記されました。文部科学省（日本ユネスコ国内委員会）では、ESDをSDGsの達成に貢献する教育と位置付けています。また、学校現場におけるESDの推進拠点としてユネスコスクールを認定しており、奈良教育大学は、2007年に日本の大学として最初にユネスコスクールへの加盟が認められた大学であることから、ESDを推進しています。

◇ESDティチャーチャートとは

ESDティチャーチャートは、各学校でのESD推進の担い手です。教師としての基盤的力量に加えて、豊かな教養をもとに、地域を教材化し、子どもの主体的な学びを引き出し、ESDを実践できる力量をそなえた教員を目指します。

本プログラムでは、ESDやSDGsに関する理解を深めるとともに、現職の先生方との協働的な研修会に参加することで、学級経営や生徒指導など、学校現場で求められる教師としての基盤的力量の形成も目指します。

◇ESD実践（学校や地域でのESDに関わるボランティア活動等）

ESD子ども広場、ユネスコスクール野外活動等支援、東大寺寺屋支援、被災地支援ボランティア、陸前高田市文化遺産調査団等、地域での環境保全ボランティア案内は、ESDプログラム登録者にメールでします。

◇ESD演習（授業以外でのESDに関する学習）

ESD連続公開講座、ESD実践交流会、陸前高田市文化遺産調査団報告会
各種ボランティア活動報告会、ESDに関わる研究会、実践交流会など
案内は、ESDプログラム登録者にメールでします。

学ぶ喜びを知り、自ら学び続ける教員



ESD を実践する教員に求められる資質・能力

2021年度 近畿ESDコンソーシアム ESD ティーチャーフォローアップ オンライン研修会開催要項

1. 目的

新学習指導要領が全面実施されていくに伴い、現職教員にとって、ESD を適切に計画し実施する力量の形成は、ますます必要性が高まっている。そこで、全国でESDに取り組んでいる ESD ティーチャー・マスター・スペシャリストを対象に、そのフォローアップとしてオンラインによる研修会を実施することで、参加教員の ESD の更なる理解促進と、参加教員相互のネットワークの形成を目的に、本研修会を開催する。

2. 主催 近畿 ESD コンソーシアム

3. 対象 ESD ティーチャー・マスター・スペシャリスト

4. 内容 Zoom を用いたオンライン研修・交流

- ・ ESD や SDG s の理解促進を目的とした研修
- ・ 参加教員による実践事例の相互検討
(参加教員作成の ESD 学習指導案や単元構想案の相互検討)

5. 方法

- ・ 原則として1回/2カ月(計6回)。Zoom を用いたオンライン研修・交流会
- ・ 全国の ESD ティーチャーに毎回、開催通知、URL をメール送付し、参加を呼び掛ける。
- ・ 第1回において実践事例発表者を決め、各回1~2名の実践について相互検討を行う。
(緊急に単元構想案や学習指導案の検討を行う場合もあり)

6. 担当者(企画・運営) 大西・中澤: 現職教員の経験を有する大学教員

- ・ 研修内容によって、コンソーシアム運営委員の先生方を中心に研修を依頼する場合がある。

7. 開催日時(いずれも時間は、19~21時)

- ①6月07日(月)、②7月30日(金)、③9月22日(水)、④11月2日(火)、
⑤1月27日(木)、⑥3月09日(水)

8. 期待する効果

- ・ ESD ティーチャーの ESD 実践力の向上及び ESD の質的向上を図る。
- ・ 全国の ESD ティーチャーの取り組みを把握し、年末の実践交流会につなげる。
- ・ 全国の ESD ティーチャーのネットワークの形成を進め、将来的に本学による ESD トレーニングセンター構築の基盤づくりを行う。

2021年度 第1回ESDティーチャーフォローアップ研修 概要報告

奈良教育大学 中澤静男

- ◇開催日時 2021年6月7日(月) 19時～21時30分
- ◇方法 ZOOMを用いたオンライン研修
- ◇参加者 吉田(附属中学校)、高倉(大牟田市教委)、阿部(山形大学附属特別支援学校)、
島(大牟田市立吉野小)、圓山(奈良市立伏見小)、西尾(四日市市立橋北中)、
鈴木(五井平和財団)、竹田(橿原市立金橋小)、河野(大分大)、永田(滋賀大附属中)
中澤哲(平群町立平群北小)、中澤敦(近畿地方ESD活動支援センター)
大西・中澤(奈良教育大学) 計14名

◇内容 ESD実践報告から学ぶ

1. わたしたちの暮らしを支える政治(島先生)

コロナ対策と経済対策のジレンマ

感染拡大防止の取組と経済支援の取組

地方公共団体の役割とその取組

緊急事態宣言の延長に対する意見 ESDの視点による価値判断・意思決定場面

3回の価値判断・意思決定場面の設定: 政策に「納得できる」「納得できない」

多角的な視点の獲得

経済・命・健康の両立について話し合う。

【協議事項】

①県・市の取組をふまえた振り返りがあるとよいのでは。

→ 個別な改善意見に終始してしまった。中学校公民的分野との接続も考え、「幸福・正義・公正」の視点で政策を評価する場面を繰り返すことで、社会事象に関心の高い児童が育つのではないか。

②単元の目標を意識した授業の展開がよい。目標を意識していれば、少々脱線してもよいだろう。

政治が自分たちの生活とつながっていることをおさえられていたのがよかった。

コロナの問題は色々ありすぎる。絞り込んだ方が深まるのではないか。

授業展開のポイントポイントで児童の考えが変化していくことを客観的にとらえる場面があったのがよい。

③話し合いを深めるためには、焦点化した方がいい。「コロナによる差別について」など。子どもにとってわかりやすいテーマを設定した方がよいのでは。

コロナでダメージを受けている子への配慮は? → 色々な立場の人のことも考えることができるように、あえて経済の問題も入れていた。多角的な視点の育成に効果があった。

④当事者へのインタビューなどがあれば、深い学び・自分事化に発展できるのでは。

学習のゴールはどこに設定すべきか? 社会科の目標 ESDとして経済と社会の調和

ホットで答えのない問いを授業化することが素晴らしい。すべての児童が参加しやすかったのでは。

※飲食店から他にも困っている人達がいることに気づいていく学びがあるといい。

→ 政治の役割を学ぶことにつながるのでは。

自分たちが支援できることを考える学習に発展できるのでは。

2. 地域の人とつながり県産材を通して山形の森林を元気にしよう(阿部先生)

これまではカナダ産の外材(SPF材)を利用していた→県産材の使用へ

地域の人とつながった学習 材木店の方、県の森林整備課の方、幼稚園児（バザー）
探究的な学習を意識した。アンケートに県産材に関する内容をしのばせた。「県産材って何？」

「県産材を使うとどんないいことがあるのかな？」◇電話をしてみよう 森林ノミクス

材木店の見学 授業の後ろで教員と地域の人との詳細な打ち合わせがあった

→「箸がつくれるよ」

- ・自分たちから材木店に電話をかけ、箸の製作につなげる。買い手を意識した製作（長さ・デザイン）
- ・「県産材を使うことで地元の人が喜ぶ」は具体的で理解しやすいが、地球環境が喜ぶことについては、理解が難しい←教師による支援 長距離を運ぶことのマイナスを教員の自動車の排気ガスで実感

幼稚園のバザーで販売

生徒が自分の言葉で自らの学びを報告し、森林整備課の方に評価してもらう

県産材だけでなく、SPF材を使用するよさについても考えることができるようにしたい

幼稚園に以前販売した製品のメンテナンスもしている → 大切に長く使う

生徒の変容

「みんなが喜ぶ」のみんなについて：製品の購入者だけでなく、木を育てたり、伐ったりする林業家にも視野が広がった

生徒が自分から電話をするなど、積極性につながった。

【協議事項】

①地域の人の喜ぶ顔が直接見える実践であったのがよかった。

「県産材」：論理的思考に注視しがちだが、五感で伝えていく、言語化だけでない伝え方（作品を通して）もあるのがよかった。

②水面下の教員の取り組み方がよかった。外部人材の言葉だけではわかりにくいところを教員がフォローしているのがよかった。

③子どもの考えが学習を進めているのがよかった（教員の柔軟性が表れた取組だ）

木材の特徴を捉えて、適材適所の木材の使い方へと進んでいくとSPF材のよさが捉えることができるのではないかと。

④子ども主体の取組になっていた。

外部人材に協力をお願いするというハードルが低くなった。

※想定外のよかった学び：生徒が進んで電話をかけることができるように変わっていったこと

子どもの内面を見取ることを大切にしている。ちょっとした言葉や態度から子どもの考えていることをつかむようにしていた。



次回は7月30日（金）19時から開催
します。平群北小学校の中澤哲先生が
実践報告していただきます。

2021年度 第2回ESDティーチャーオンラインフォローアップ研修 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

◇開催日時 2021年7月30日（金）19時～21時

◇方法 ZOOMを用いたオンライン研修

◇参加者 16名

◇内容

1. 「水問題を考えよう」：平群町立平群北小学校・中澤哲也先生の実践報告から

・獲得させたい概念的知識が明確にされている

- ・水道局の人は私たちに安全で安定した水を届けるために、ダムや浄水場などの施設を計画的に整備している。
- ・水道局の人たちの工夫や努力・市町村の協力があって、私たちは毎日安心して水道水を使用することができる。
- ・水は限られたものなので、今後は自分たちも使用の仕方を考えなければならない。

- ・単元の最終段階で「どのような子どもの姿への変容」を目標としているのかも明確にした方がいい。
- ・小学校の実践で、担任が児童を把握し、発問に対する児童の反応を的確に予想して単元展開を考えているのは参考になる。
- ・人との出会いが子どもの価値観の変革を促す（あこがれから）。本実践においては、浄水場など水を作る仕事をされている方との出会いを想定されているが、災害等で水に困った経験のある人からの話もあると、水が自由に使えることを当たり前と捉えていることをくつがえすために、効果的ではないか。
- ・発信について、一人1台アイパッドがあるので、それを使った発信もいいのでは。
- ・教育効果において、頭では理解していても行動変容には至っていないことを発見させる上で、用意された動画は効果的だった。
- ・単元終了後だけでなく、教育効果が長続きしたとき、「価値観が変わった」と言えるのではないか。
- ・学校内での学習に閉じることなく、①家庭・地域へ水の使い方を広げていく、②水質をよくしていくための行動変容を促していく、といった広げ方もあるだろう。水源地の川上村の取組を紹介するのもいいのでは。
- ・水の使用量をグラフで示したのはよかった。使用量の変化を校内の教員や子ども達にタブレットで発信すると、より効果が出るのではないか。
- ・水道の蛇口にリボンにつけて「見える化」という取組を聞いたことがある。リボンを付けたときと付けなかったときで、使用量を比較すると児童にとって効果がわかりやすいのでは。
- ・水道水の利用の場面は、手洗だけでなく、水洗トイレや掃除時間の水の使い方がある。具体的に使う場面を示した方が効果が出るだろう。
- ・節水を地域に広げていくためには、節水することが浄水場のエネルギー使用量を減らし、化石燃料の使用量の減少、温暖化抑止にもなることを伝えていくのが効果があるだろう。
- ・水を作るために、多くの薬品を使っていることを伝え、節水が薬品の使用量を節約することにつな

がることも伝えるといいだろう。

- ・本単元終了時には、浄水場の人達が安全でおいしい水を作り、的確に配水するために努力されていることに気づくだろう。一方で、ペットボトルで販売されている「水」を購入している家庭も多いはずだ。ペットボトルの使用は海洋プラ汚染の原因にもなっている。日常生活をクリティカルに問い直すきっかけになるといい。

2. 問いから授業を作る

授業の主役は子どもである。発問に対する子どもの反応を的確に予想し、単元展開を考える。

そのため、質の高い「問い」を作ることが重要だ。

- ・単元をつらぬく問い（核となる問い）
- ・深める問い
- ・発展させる問い

PALLET HOUSE JAPANを教材として、質の高い「問い」を考える

本ワークショップにおけるチャットの記録

- ・川崎（耳成南小）から全員に: 08:46 PM
パレットを見せて、この後どうなるのか？
これは何をやるものでどれくらい排出されるのか
- ・永田郁子（滋賀大学附属）から全員に: 08:47 PM
単元の流れ。なぜ廃材を使って家具をつくるのか、自分はこの家具を買うのか、他にも廃材をつかったものづくりはないのか の3ステップです
- ・中澤哲也（平群北小）から全員に: 08:47 PM
(導入) 自分の家でできるだけ大事にしているものは？
(導入) 自分の家でまだ使えるのに捨ててしまっているものは？
毎日教室で出る消しかすを有効利用するには？
社長はなぜ、このようなことをしているのか？
「循環」に気づくような問い（まだ考えていませんが・・・）
- ・島俊彦（大牟田市立吉野小学校）から全員に: 08:47 PM
どうしてこの事業をやろうと思った（大町さん）？
どうして、こんなことをしている？ どうして「誰もやらない、だから私がやる」？
5年社会科から繋げて、社長の生き方にアプローチしてもよいかなという話になりました
- ・shinya kouno から全員に: 08:47 PM
 - ・みんなのみのまわりにあるモノは、どんな「寄り道」ができるかな
 - ・どうしてこの人はこんな家具を作ろうと思ったのかな
 - ・みんなならこの家具、買う？
 - ・牛舎の人はどんなことを考えているのだろう
- ・河野先生の製品一連の流れをスゴロクのように捉えるのがおもしろい。
- ・採取・製造・使用・廃棄 という流れでLCA（中澤）ライフサイクルアセスメント）を意識づけると汎用性のある考え方を育てることになる。





第2回ESDティーチャー・フォローアップ研究会

小学校4年生 社会科・総合的な学習の時間
「水問題を考えよう」

平群町立平群北小学校 中澤直也

2. 単元の概要

高学年の学習後の発展的な学習内容

- 1 水は人が生きていく上で必要不可欠な資源であり、水は有限な資源である。水は、地球上に豊富に存在しているにもかかわらず、そのほとんどは塩水であり、淡水はごくわずかである。
- 2 水は、地球上に豊富に存在しているにもかかわらず、そのほとんどは塩水であり、淡水はごくわずかである。また、淡水は、地球上に豊富に存在しているにもかかわらず、そのほとんどは塩水であり、淡水はごくわずかである。
- 3 水は、地球上に豊富に存在しているにもかかわらず、そのほとんどは塩水であり、淡水はごくわずかである。また、淡水は、地球上に豊富に存在しているにもかかわらず、そのほとんどは塩水であり、淡水はごくわずかである。
- 4 水は、地球上に豊富に存在しているにもかかわらず、そのほとんどは塩水であり、淡水はごくわずかである。また、淡水は、地球上に豊富に存在しているにもかかわらず、そのほとんどは塩水であり、淡水はごくわずかである。
- 5 水は、地球上に豊富に存在しているにもかかわらず、そのほとんどは塩水であり、淡水はごくわずかである。また、淡水は、地球上に豊富に存在しているにもかかわらず、そのほとんどは塩水であり、淡水はごくわずかである。
- 6 水は、地球上に豊富に存在しているにもかかわらず、そのほとんどは塩水であり、淡水はごくわずかである。また、淡水は、地球上に豊富に存在しているにもかかわらず、そのほとんどは塩水であり、淡水はごくわずかである。
- 7 水は、地球上に豊富に存在しているにもかかわらず、そのほとんどは塩水であり、淡水はごくわずかである。また、淡水は、地球上に豊富に存在しているにもかかわらず、そのほとんどは塩水であり、淡水はごくわずかである。

2. 単元の概要

発展的な学習

毎日水を飲んでいるのは当たり前じゃない。
 私は毎日水を飲むことが当たり前だと思っていたが、イエメンの地図を見ると、そう簡単には水を飲めないことがわかりました。そうすると、お風呂にゆつゆり入れるのはイエメンではできないと知りました。そして日本では水がいつでも手に入るから水を節約してほしいと思いました。日本はとて水に恵まれているんだなと思いました。
 イエメンは水をわざわざ取りに行かないといけないのに、なぜ日本はじゃでも簡単にひねると水が簡単にでてくるのは、それはそれだけダムではたっている人や、浄水場の人がどれだけ私たちのためにがんばっているのかわかりました。
 私は今回の授業でたくさん水のことを学びました。私は水のことが大好きになりました。これからもっと水を節約して水を大切にしたいと思っています。
 浄水場の人とダムの人たちが私たちのためにがんばってくれていることがわかりました。だから安心・安全に水を飲めることがわかりました。水はみんなの人ががんばってくれているから私たちは水を大切にしたいと思いました。

2. 単元の概要

発展的な学習

- 一人一人が取り組むには、使う水も減らすことができる。
- 最初は2回も洗濯してしまったのは、罪は3回して、自分が帰って来てあげたがっかりから、罪は2回でも減らした。
- 洗濯機で洗ってあげたかったらとあって、でたときどきかかって、勝手に洗しかつた。
- 洗濯機が壊れたら自動的に水を止められるからとって勝手に洗いかつた。
- 将来的には水を節約して洗いたいようにするからって、洗いかつけないように洗濯機を壊した。
- 水も大切にしようって思ったら、お風呂の水も節約したい。
- お風呂の水も節約したい。

2. 単元の概要

発展的な学習

水を節約するために必要なことはなんだろう？

1. 水を節約するために必要なことはなんだろう？	2. 水を節約するために必要なことはなんだろう？	3. 水を節約するために必要なことはなんだろう？	4. 水を節約するために必要なことはなんだろう？	5. 水を節約するために必要なことはなんだろう？	6. 水を節約するために必要なことはなんだろう？	7. 水を節約するために必要なことはなんだろう？	8. 水を節約するために必要なことはなんだろう？	9. 水を節約するために必要なことはなんだろう？	10. 水を節約するために必要なことはなんだろう？
--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	---------------------------

2. 単元の概要

発展的な学習

校内の環境にアンケートを実施して、どんなことを実践しているかな？

1. 校内の環境にアンケートを実施して、どんなことを実践しているかな？	2. 校内の環境にアンケートを実施して、どんなことを実践しているかな？	3. 校内の環境にアンケートを実施して、どんなことを実践しているかな？	4. 校内の環境にアンケートを実施して、どんなことを実践しているかな？	5. 校内の環境にアンケートを実施して、どんなことを実践しているかな？	6. 校内の環境にアンケートを実施して、どんなことを実践しているかな？	7. 校内の環境にアンケートを実施して、どんなことを実践しているかな？	8. 校内の環境にアンケートを実施して、どんなことを実践しているかな？	9. 校内の環境にアンケートを実施して、どんなことを実践しているかな？	10. 校内の環境にアンケートを実施して、どんなことを実践しているかな？
-------------------------------------	-------------------------------------	-------------------------------------	-------------------------------------	-------------------------------------	-------------------------------------	-------------------------------------	-------------------------------------	-------------------------------------	--------------------------------------

第3回ESDティーチャー・フォローアップ研修会 概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

1. 日時 2021年9月22日(水) 19時~20時30分

2. 方法 Zoomによるオンライン会議

3. 参加者 16名

4. 内容 授業構想の検討

「PALLET HOUSE JAPANを教材として」 奈良市立伏見小学校 圓山裕史先生

前回の研修時に大西が紹介した「PALLET HOUSE JAPAN」を題材に、どんな授業を展開できるか、圓山先生から提案があり、全員で検討を行った。

PALLET HOUSE JAPAN



PALLET HOUSE JAPAN は 2014年3月11日東大阪市に発足。

関西の若いクリエイターや職人、デザイナーが大阪市の小さな町工場に集まり関西の産業から出る木製廃パレットや建築足場古材を【ユニークな発想】【大胆なDESIGN】【本格家具製造技術】でヴィンテージ系デザイナーズ家具に。



『誰もやらない、誰もやれない』それを承知で世界的インテリアブランドを目指す！

最近ではそのコンセプトとEcoなデザインが評判を呼び、一般消費者向けだけでなく、飲食店やアパレル店舗、オフィスや中古住宅のリノベーションなど多方面に関わる。

(公式HPより)

倉庫や運送などで使われるパレットは、これまで古くなったものは捨てられるしかなかった。これを買取り、解体し、新たな家具として再生して販売しているのがPALLET HOUSE JAPANである。

SDG9、12に関連して、この会社の取り組みを題材にして授業化できないか、検討した。

- ・パレットの写真と完成した家具の写真を同時に見せることで、興味・関心を持たせることができるのではないかな。
- ・導入で子どもに課題意識を十分持たせたい。そのために、「本来捨てられるものが素晴らしいものに生まれ変わる」というところに、スポットを当てていきたい。
- ・私たちの身の回りにもそういうものがないか、探してみるとよいのでは。
- ・木材の利用ということでは、森林資源の学習とタイアップできる。
- ・ヴィンテージ系の一点ものがゆえに、価格が張る。それでも購入した人は、「なぜこの家具を買ったのか」というところを追究していくところに価値があるように思う。
- ・持続可能な社会づくりへの一番の行動は、私たちの消費行動である。その観点からも、この家具を購入した人の思いや願いに触れさせることはとてもよいと思う。



↓
堆肥化

PALLET HOUSE JAPAN では、加工時に大量に出るおがくずを府内の畜産業者に持って行って牛舎の下敷きに活用し、さらに古くなったものは堆肥化して農地に投入している。畜産業者の方も下敷きを安く購入でき、堆肥化することで循環するシステムが確立している。

- ・企業として、おがくずさえ無駄にせず地球環境に配慮した取り組みを行っているところの素晴らしさにも気付かせたい。
- ・社会全体で持続可能な社会を目指すことの大切さを学べる教材だと思う。
(会社も、家庭でも、とにかく一人一人が環境によいことをやることの重要性)
- ・こういう企業は、きっと他にも、どこの地域でもたくさんあると思う。汎用性のある学習になる。
- ・最近では企業がさかんに SDGs についてアピールしているが、本当に実のある活動をしているのかは疑わしいところもある。この会社のようなとことんこだわってやっているというものは大切にしたい。

第4回 ESD ティーチャーフォローアップ研修 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

◇開催日時 2021年11月2日(火) 19時～21時

◇方法 ZOOM を用いたオンライン研修

◇参加者数 14名

◇内容

総合的な学習の時間「BIWAKO TIME」：滋賀大学附属中学校：永田 郁子先生

1. 滋賀大附中の BIWAKO TIME について

- ・35年間、継続されている学習
- ・生徒の興味関心をもとに作成した3学年合同のベースルーム
- ・ベースルームから少人数のグループに分かれ、生徒自身が立てた「問い」を土台とした滋賀県に関することをテーマに、研究に約半年間をかける学習活動。
- ・アンケートを行ったところ、BIWAKO TIME に対して重要性を感じている生徒は少なく、マンネリ化しており、意欲的に取り組んでいるという状況ではないことが明らかになった。
- ・生徒の主体性を引き出すために、「問い」を立てることを大事にすることとした。
- ・グループの研究成果をSDGs（持続可能な開発目標）の17のゴールのいずれかと関連させる。
- ・「なぜ〇〇は△△なのか?」「〇〇はほんとうに△△なのか?」といった「問い」から出発し、調査研究を経て「〇〇を▲▲するにはどうすればよいか?」といった課題解決型の「問い」に更新させる。

・学習の構成

①ガイダンスを行ったのち、テーマ別に14のベースルームを提示し、希望制でベースルームへの所属を決める。

②個人研究：「しが統計ハンドブック」より関心のあるテーマを3つ選ばせる

滋賀県が目立っているデータに着目するよう伝える。

各自がインターネット等を活用した調査研究し、統計レポートを作成する。

統計レポート作成時の指導内容

- ・「問い」をもとにして調査し、論拠として統計資料を2つ以上用いること。
- ・自分が立てた「問い」に対して、「仮説」を立てながら調査し、その結果をまとめること。

③レポートの交流

④グループ研究

レポート交流から、具体的テーマに即したグループをつくらせたところ、72グループが編成された。思考ツール（ピラミッドストラクチャー）を用いる。論拠となる資料がそろわない場合は、やり直させるなど、ベースルーム内で個別に指導する。

・成果と課題

統計資料の活用からスタートすることで、研究はうまく進むが、行動化にはいたらないという、ESDとしては弱さがあった。本当は、日常的に探究のネタを見出させ、研究をスタートさせることが理想だと感じている。

2. 本実践に対する意見交流

・「問い」の交流について

問いの洗練化：問いを交流することで、本当に探究しがいのある問いが見つかるだろう。

独自性の発見：交流することで、個性的な問いであることに気づき、それは意欲につながるだろう。

問いの変容：問いの変容に着目することで、研究計画に対する見通しが持てるだろう。

- ・異学年による縦割りの学びについて

異学年の学び合いによって、生徒のモチベーションが向上すると思われる。

いつもとは違うメンバーによる学び合いで、多様な見方・考え方に接することができたのではないか。

生徒の発達には、学年でくることができない面がある。各学年の目標を立てているが、それをもとに個人着目したルーブリックを作成し、評価に生かした。

- ・グループでの学びについて

個人研究からスタートし、グループ研究といっても机上の研究に終始している。グループでフィールドワークを行うなどの体験的な学習を取り入れ、共通体験を踏まえると、学びが深まるのではないか。

- ・行動化を促すために

「人との出会い」が重要であろう。出会った人物への共感（あこがれ）は行動化につながりやすい。人物にもよるが、一般的でない見方にふれることで、多様な見方に気づく機会となる。

地域資源の開発により、生徒の切実感がまし、教材が生徒の心にうったえかけることで、学びが主体的になるとともに、学習成果としての行動化を引き出しやすいのではないか。

第5回 ESD ティーチャー・フォローアップ研修会 概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

◇開催日時 2022年1月27日(木) 19時～20時30分

◇方法 ZOOMを用いたオンライン研修

◇参加者数 8名

◇内容

6年 総合的な学習の時間「わたしたちのまち 美野島商店街 ～住吉っこにできることは何か～」

福岡市立住吉小学校：大島 英樹先生

【実践の背景】

学校近くの美野島商店街は、「博多の台所」として、多くの方々が商店街を頼りに買い物に来ていた。近隣に大型ショッピングモールやスーパーもあるため、人の流れは商店街よりもショッピングモールやスーパーに流れている。

商店街で働く方々の高齢化及び後継者問題、商店街に人が集まらないという課題もある。

(最盛期には160店舗あったものが、現在は40店舗ほど)

→ 子どもたちにとって美野島商店街は通学路ではあるものの買い物に行くところではない
まずは、近くの商店街がなくなってしまうかもしれないという課題意識をもたせたい(自分事化)

【実践の概要】(全10時間)

1. 美野島商店街元理事長をGTとして招き、自分たちの住んでいる町の歴史について講話を聞かせる
商店街の歴史や現状、課題、またそれに対する思いを語っていただいた。
「博多の台所 美野島商店街を復活させたい！」 手作りのプレゼン
2. 美野島商店街の現状や課題を見学・インタビューで調べる
(コロナ禍で授業では行けず、放課後各自に任せた)
 - ・時間によっては人が少ない。
 - ・新しい店舗もできている。
 - ・商店街は地域にとっては必要である。
 - ・子どもが買い物をするとおまけをくれる店があった。子どもに優しい。
3. 商店街が続いていくために自分たちにできることは何かを考え、話し合う
 - ・商店街に足を運んでもらうために、チラシを配るといいと思う。
 - ・お店にポスターを貼ることで、お店の人もお客さんも喜んでもらえると思う。
 - ・夏祭りのSNSで商店街のアピールをするといいと思う。
 - ・お店に飾りをつけて明るくするともっと人が集まると思う。

→ 現実的なもの、喜んでもらえるもの、継続的なものを6年生全体で考える
→ ポスター、チラシ、来店のお礼カード
4. 分担して作成
5. 商店街の人に渡す(贈呈式)
6. 住み続けられるまちづくりのために自分が今後も継続してできることを考える
SDGsの観点から、継続的にできることの視点を持たせ、自分ごととして再びとらえさせる。

【成果と課題】

- 美野島商店街は住吉のまちにとって大事なコミュニティの場であり、生活に必要な場であることを認識し、高齢世代から若い世代までが世代間を越えて守っていこうとする態度が生まれてきた。
商店街で買い物をする家庭が増えた 顔が見える買い物のよさ
- 商店街との関わりを通し、様々な人とのつながりが豊かな学びになっているという自覚が生まれた。
商店街の人たちと仲良くなって、毎日のように声をかけてもらえるように。
今も店にポスターを貼ってもらっている
- 他教科との関連から、カリキュラムマネジメントを考えていかないと単発の実践に終わってしまう。

【意見交流から】

- ・来年の6年生にこの活動を引き継いで、学校としての継続した取組として5年はやってほしい。
学校と地域が一体となった町づくりに関わって大事な視点だと思う。
5年生のあいだに取組を伝え、今の6年生の頑張りをしっかりと受け止めてもらえるといい。
→ 現在、来年度のカリキュラムについて校内で検討中。ぜひその方向で進めていきたい。
- ・この子どもたちが中学生になって、どういう活動をするかが楽しみ。
中学校では、小学校でどのような学びを経てきているかという連携不足が顕著。
本来はもっと校種間で連携していかなければいけないのだが・・・
小学校でも、もっと幼稚園・保育園と連携していく必要がある。
→ 小中連携校になっているので、カリキュラムの校種間連携はやりやすい。
- ・商店街の見学は、授業ではなく放課後自由に行かせたということだが全員行ったのか？
→ 約半数の子どもが自主的に見学に行ったり、インタビューを行ったりした。
行きたくても様々な事情により行けない子もいる。
そんな子のための対応策として、先生が商店街に行ってオンタイムでその様子を配信する実践も。
- ・この学習のカリキュラムマネジメントの具体的方策として
商店街のテーマソングづくり（音楽）
商店街のキャラクター作成（図工）
インタビューの仕方、キャッチコピーの作り方（国語）
商店街と学校がタッグを組んだイベント（総合で依然取り組んでいた相撲大会の賞品提供など）
いろいろな展開が考えられると思う。
- ・全国各地で見られる商店街の衰退に対して、どこでもできそうな実践である。
商店街の元理事長の思いに触れたことによって、子どもの意識が大きく変わった。
人との出会いの大切さ
- ・地域の商店街は単なる商業施設ではなく、地域における大事なコミュニティの場であるという認識が子どもの中に醸成されていったところがとてもよい。

第6回 ESD ティーチャー・フォローアップ研修会 概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

◇開催日時 2022年3月9日(水) 19時～20時30分

◇方法 ZOOM を用いたオンライン研修

◇参加者数 9名

◇内容

ユネスコクラブ実践報告 「奈良の林業の今とこれからの考えよう」

奈良教育大学附属中学校 中村基一先生

【実践の背景】

本教材は地域学習を通して、地域の指導者や林業に携わる人々から学ぶ、総合的な学習の時間の学習教材である。伝統文化や環境保全の一つとして、林業を取り上げる。都が建設された頃から、大量の木材が必要とされ、吉野では室町期から林業が営まれている。平城宮跡の大極殿の再建に際しては吉野林業発祥の地の一つである黒滝村の木材が使用されるなど、関わりも深い。多くの生徒は知識として、伝統的な産業として吉野林業を認識している。しかし、安くないと国産でも買わない、プラスチック製のような利便性がないなど、価格や、利便性に着目している生徒が多い。林業従事者やそれに関わる人々の思いや価値観に触れさせ、自身の価値観の変容を促す。また伐採現場の雰囲気を感じ、こうした伝統を守るために必要なことは何かを自分事として捉えさせたい。さらに林業従事者の高齢化や輸入木材との競争、災害対策など課題を関連付けてとらえ、林業の今後について考えることにした。

【実践の概要】(全10時間)

第1次(1時間) 奈良の林業について知ろう

第2次(1時間) 奈良の林業の課題を話し合おう

第3次(2時間) 黒滝村の林業に関わる人にインタビューをしよう

第4次(6時間) 黒滝村の林業を体験しよう

黒滝村で148年生の杉の大木を切る場面を見学する

大木が倒れる瞬間の雷のような音

命に関わる危険な仕事 重労働 生と死を感じる体験

年輪を数えたり、木の上に乗ったりする体験

親方の言葉「この木の命はここで終えたけど、木材としては今生まれたばかり。これから何十年、何百年とまた生きていく。」

(生徒の感想)

- ・今までよりも木が好きになった
- ・木材を見て感謝の思いを持つようになった
- ・木の家具を見ても、「あんなふうに切られて…」と想像するようになった。

帰りに、黒滝村の道の駅で買い物をしたとき、

吉野の割り箸は割高だが買う(日本の割り箸は気を無駄にしない工夫から作られている)

黒滝村のものを買うことで応援したい

でも、黒滝村の木を使ったものは売っていない。

(木材は吉野や大淀に行かないと買えない)

現在、黒滝村の地域おこし協力隊の方にお願ひして、卒業記念のベンチやテーブルを黒滝村の木材を使って作ってもらっている。

来年度は、生徒が実際に木材を使って何らかの製作をしたい。

法隆寺への遠足と関連させて、法隆寺の柱に使われている木材について考えさせたい。

【意見交流から】

子どもの価値観の変革をもたらしたものは？

→ 大きな木が倒れる現場に立ち会えた 命の終わりと始まりを感じた

木材製品の持っている本来の価値に気付くことができた

この実践をどのようにしたら普遍化させることができるだろうか？

(なかなかそのような場面には立ち会えない)

→ 「命」に視点を置くことがこの実践のキーではないだろうか

木は商品である前に「命」

野菜も命をもらっているわけだが、野菜ではなかなか命は感じられない

そうかと言って、鶏や牛・豚では重すぎる

木はそういう意味では「命」を考えるにはちょうどいいのかもしれない

親方の言葉をどう理解し、どう深めていくかが大事だと思う

食育を通じて命の大切さに気付かされる事はあったが、林業の場でも命の大切さに生徒たちが触れ、心を大いに揺さぶられた

木を伐採するときには、お神酒や塩などを供えるが、それはなぜなのかを考えさせる

150年の木を見たときに、それを植えた人や世話をしてきた人たちの思いを考える

そのうえで、では、今の林業家は同じように150年先を見据えて何をすべきかと考えられる
放置木材など、「命が無駄遣いされているもの」について考えることもできる

これからの林業について考える上ではとても重要な視点

価値観が変容した生徒のその後の様子は？

→ 天然ゴムを使用した消しゴムを見て、「それいいなあ」と言う(高いので買えないが)

ユネスコクラブではない生徒は「高い！」と言うだけ

黒滝村の取組に触れることで、「経済活動において環境を優先する価値観」も育まれたと考える

ESDの実践として、学習者の価値観が大きく変容したところに本実践の確かさがある。

安さや利便性だけではない、そのものの本当の価値について気付くことの大切さが感じられる。

令和3年度 奈良 ESD 連続セミナー開催要項

1. 目的

学習指導要領が改訂され、前文や総則に「持続可能な社会の創り手」の育成が明記された新学習指導要領が、幼稚園では2018年度より、小学校は2020年度、中学校は2021年度から全面実施、高等学校では2022年度より年次進行で実施される。新学習指導要領が求める教育を実施するためには、教育内容の捉え方の見直しや教育方法の改善が必須であり、ESDを適切に指導する資質能力の育成が、教員養成及び現職教員研修にとって喫緊の課題であることは間違いない。そこでESDの指導者として求められる資質能力を育成することを目的に、本連続セミナーを開催する。

2. 開催日時 時間はいずれも19時～21時

- ①5月6日(木)・②6月03日(木)：SDGsの理解促進
- ③7月01日(木)：ESDの理論研修 ④7月29日(木)：優良実践事例の検討
- ⑤8月26日(木)・⑥9月30日(木)：単元構想案の相互検討
- ⑦10月14日(木)・⑧11月11日(木)：学習指導案の相互検討
- ⑨1月06日(木)・⑩1月20日(木)：学習指導案の最終確認
- ⑪2月10日(木)：研修の振り返り

研修(6)(7)は、これ以外に実施予定

研修(6) 10月～12月(ESDカリキュラムマネジメント：オンライン)

研修(7) 11月～12月(ESDカリキュラム案の作成：対面)

3. 会場・方法 次世代教員養成センター2号館 多目的ホール

※当面はZoomを用いたオンラインで実施

4. 研修内容

- (1) 持続可能な開発目標(SDGs)の内容理解
- (2) ESDの学習理論
- (3) 優良実践事例の分析と単元構想案の作成について
- (4) ESD単元構想案の相互検討とESD学習指導案・実践報告の作成
- (5) ESD学習指導案・実践報告の相互検討
- (6) ESDカリキュラムマネジメント(オンライン研修)
- (7) ESDカリキュラム案の作成(対面)

5. プログラムのレベルと研修

(1) ESDティーチャーコース

- ①ESD連続セミナーへの5回以上の参加と毎回のミニレポートの作成
- ②ESD教材開発とESD学習指導案の作成、1月末日までに提出

(2) ESDマスターコース

- ①ESD連続セミナーへの7回以上の参加と毎回のミニレポートの作成
- ②ESD教材開発とESD学習指導案の作成、そして授業実践をふまえた実践事例を作成(6P程度)し、1月末までに提出(考察をしっかりと記載すること)。
- ③ESDティーチャー研修中の現職教員および学生の指導案作成指導

④研修（6・7）への参加

（4）ESD スペシャリストコース

①ESD 連続セミナーへの7回以上の参加と毎回のミニレポートの作成

②ESD 教材開発と ESD 学習指導案の作成、そして授業実践をふまえた実践事例を作成（6P程度）し、1月末までに提出（考察をしっかりと記載すること）。

③ESD ティーチャー研修中の現職教員および学生の指導案作成指導

④学会や研究大会での実践事例の発表か、ESD 研修会の開催と報告書の提出

⑤研修（6・7）への参加

※3月末に学長より ESD ティーチャー、ESD マスター、ESD スペシャリストの認定証が授与されます。

※作成された学習指導案や実践事例は近畿 ESD コンソーシアムの HP に掲載します。

※発表のための研究大会参加旅費は、コンソーシアムが負担します。

2021 年度奈良 E S D 連続セミナー①：概要報告

担当者：中澤静男（奈良教育大学）

- ◇開催日時 2021 年 5 月 6 日（木）19 時～21 時 10 分
- ◇方法 Zoom を用いたオンライン
- ◇参加者数 学生（11 名）、現職教員等（16 人）、大学教員（6 人） 計 33 名
- ◇内容 S D G s の理解促進①

○2021 年度の連続セミナーや授業づくりセミナー、公開講座のご案内

1. S D G s について

Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）

2015 年 国連持続可能な開発サミット

「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」

その中核が持続可能な開発目標（2030 年までに達成する 17 の目標と 169 のターゲット）

◇持続可能な開発目標（SDG s）（出典：外務省仮訳）

- 目標 1（貧困）：あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。
- 目標 2（飢餓）：飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。
- 目標 3（保健）：あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。
- 目標 4（教育）：すべての人に包括的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。
- 目標 5（ジェンダー）：ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う。
- 目標 6（水・衛生）：すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する。
- 目標 7（エネルギー）：
すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する。
- 目標 8（経済成長と雇用）：包括的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する。
- 目標 9（インフラ、産業化、イノベーション）：強靱（レジリエント）なインフラ構築、包括的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。
- 目標 10（不平等）：各国内及び各国間の不平等を是正する。
- 目標 11（持続可能な都市）：
包括的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する。
- 目標 12（持続可能な生産と消費）：持続可能な生産消費形態を確保する。
- 目標 13（気候変動）：気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。
- 目標 14（海洋資源）：持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する。
- 目標 15（陸上資源）：陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の促進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する。
- 目標 16（平和）：持続可能な開発のための平和で包括的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包括的な制度を構築する。
- 目標 17（実施手段）：持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。

○持続可能な社会の実現（SDGsの達成）のための条件

①国際協力（例えばSDGs）、②技術革新（CO₂削減技術など）

③市民参加型社会（持続可能な社会のために一人ひとりが自分にできることを考え、行動する社会）

このような市民が「公民」です。

2. 第二次大戦後からSDGsまでの流れ

(1) 第二次大戦後、多くの植民地が独立し、途上国に

東西冷戦：西側（資本主義諸国）、東側（社会主義諸国）の対立と途上国への経済開発支援

(2) 経済開発の失敗と人間開発の推進

人間開発とは

教育・健康・貧困・飢餓・平等などの改善により、その人が本来持っている能力の実現を図る

人間開発によって、社会・経済の問題を解決する → ミレニアム開発目標

①MDGs（Millennium Development Goals: MDGs）

2015年までに達成する8つの目標

- 目標1. 極度の貧困と飢餓の撲滅
- 目標2. 初等教育の完全普及の達成
- 目標3. ジェンダー平等推進と女性の地位向上
- 目標4. 乳幼児死亡率の削減
- 目標5. 妊産婦の健康の改善
- 目標6. エイズ、マラリア、その他の疾病のまん延防止
- 目標7. 環境の持続可能性確保
- 目標8. グローバルなパートナーシップの推進（実施手段）

②残された課題

- ▼約8億人が極度の貧困状態
- ▼経済格差の拡大
- ▼男女間の不平等
- ▼地球温暖化
- ▼生物多様性の保全
- ▼戦争・紛争により毎日
42000人が難民となっている



SDGsの採択

(3) MDGsからSDGsへ

「我々の世界を変革する／持続可能な開発のための2030アジェンダ」

・我々の世界を発展する、でも成長させる、でも豊かにするでもなく、「変革する」

環境問題のクローズアップ

(4) 企業にとってのSDGs

①CSRとCSVの違いは？

②ESDへの関心が高い企業は将来性があると認識されるのはなぜ？

3. SDGsに親しむ

(1) SDGsを分類してみる

①SDGsの17のゴールの中でMDGsの①～⑥を引き継いだゴール(6つ)

②特に環境問題に関するゴール(3つ) _____

③特に経済問題に関するゴール(4つ) _____

④その他社会問題に関するゴール(3つ) _____

⑤実施手段(1つ) _____

ちょっとした質問①

あなたが「文化」だと思うものを10個書いてください。

それらの「文化」を「見える文化」と「見えない文化」に分類してください。(見えない文化を○で囲んでください)

あなたらしさを規定しているのは？

ちょっとした質問②

あなたは、仕事などの都合で、海外に引っ越すことになりました。10年は海外生活になりそうです。次の問いに答えてください。

問い1. その国の言葉を覚えて使えるようになりたい? はい ・ いいえ

問い2. なるべく現地の方々と親しくなりたい? はい ・ いいえ

問い3. その国の習慣などを覚えて、できるだけあわせるようにしたい? はい ・ いいえ

問い4. その国の食文化にもなじめるようにしたい? はい ・ いいえ

問い5. もっと親しくなるために、その国の宗教に改宗したい? はい ・ いいえ

▼SDGsにないもの

①

②

③

(2) SDGs はこれから達成すべき目標です。ということは、そこには解決しなければならない地球
的課題が存在するという事です。次の問題は、SDGs のどの目標と関わっているでしょうか？

() に目標番号を書いて下さい。ただし、1つとは限りません。

- ①7 億人が深刻な水不足に陥る恐れがある。()
- ②予防可能な病気で毎日 15000 人が亡くなっている。()
- ③5 人に 1 人の子どもが学校に通うことができていない。()
- ④若者の 5 人に 1 人は、学校にも仕事にも参加できていない ()
- ⑤インターネット普及率は、先進国 (81%)・開発途上国 (40%)・後発開発途上国 (18%) ()
- ⑥20 億人はごみ収集サービスを利用できていない。()
- ⑦気温は上昇し続けている。()
- ⑧世界で 5 億 3500 万人 (4 人に 1 人) の子どもが紛争地域で暮らしている。()
- ⑨絶対的貧困者の 46%は 14 歳未満の子どもである。()
- ⑩世界の 8 人の大富豪が、世界人口の半分である 36 億人分の資産を持っている。()
- ⑪8 億人が栄養不良の状態にある。()
- ⑫5 歳未満に亡くなる子どもが 540 万人いる。()
- ⑬海洋酸性度は、産業革命前と比較して 26%上昇している。()
- ⑭読み書きができない大人が 7 億 8100 万人いる。()
- ⑮42 億人が安全に管理されたトイレを使えていない。()
- ⑯1 億 5200 万人の子どもが児童労働に従事している。()
- ⑰10 億人が電力供給を受けていない。()
- ⑱年間で 521 万ヘクタールの森林が破壊されている。()

4. 地球的諸課題の核心を考える

2021 年度奈良ESD連続セミナー②:概要報告

SDGsの理解促進・後半

担当者：中澤静男（奈良教育大学）

- ◇開催日時 2021 年 6 月 03 日（木）19 時～21 時
- ◇方法 ZOOM を用いたオンライン
- ◇参加者数 36 名
- ◇内容

1. SDGs について

◇SDGsのキーワード：「誰一人取り残さない」

SDGsが目指しているのは、すべての人にとって幸福な世界
すべての人：空間的・時間的「すべての人」

2. SDGs と ESD

SDGs：2030 年までにやるべきこと

「国際協力と技術やシステムの革新」 トップダウン的

ESD：持続可能な社会づくりに積極的に参加・参画する人を育てる教育 ボトムアップ的
単なる行政サービスの担い手→社会の担い手・社会の創り手

ところで

①現在、世界の核兵器保有国は9ヶ国です。国名を書いて下さい。

アメリカ、ロシア、イギリス、フランス、中国、インド、パキスタン、イスラエル、北朝鮮

②国連の安全保障理事会の常任理事国（5ヶ国）を書いてください。

アメリカ、ロシア、イギリス、フランス、中国

①・②から感じること

- ・国連は本気で核兵器の廃絶に取り組んでいるとは思えない
- ・核抑止力、核兵器に依存した平和は空論でしかない
- ・SDGsに核兵器の廃絶が記されていないわけだ

3. SDGs にないもの

- (1) 核兵器の廃絶
- (2) 互いの宗教の尊重
- (3) 音楽・美術・スポーツなど人々を幸せにする文化への言及もほとんどない

SDGs を絶対視してはいけない。改良途中のものだと捉える必要がある。

4. SDGs はこれから達成すべき目標です。ということは、そこには解決しなければならない地球の課題が存在するということです。次の問題は、SDGs のどの目標と関わっているでしょうか？

() に目標番号を書いて下さい。ただし、1つとは限りません。

- ①7億人が深刻な水不足に陥る恐れがある。(6)
- ②予防可能な病気で毎日15000人が亡くなっている。(3)

- ③ 5人に1人の子どもが学校に通うことができていない。(4)
- ④ 若者の5人に1人は、学校にも仕事にも参加できていない(4・8)
- ⑤ インターネット普及率は、先進国(81%)・開発途上国(40%)・後発開発途上国(18%)(9)
- ⑥ 20億人はごみ収集サービスを利用できていない。(3・11)
- ⑦ 気温は上昇し続けている。(13)
- ⑧ 世界で5億3500万人(4人に1人)の子どもが紛争地域で暮らしている。(16)
- ⑨ 絶対的貧困者の46%は14歳未満の子どもである。(1)
- ⑩ 世界の8人の大富豪が、世界人口の半分である36億人分の資産を持っている。(10)
- ⑪ 8億人が栄養不良の状態にある。(2)
- ⑫ 5歳未満に亡くなる子どもが540万人いる。(3)
- ⑬ 海洋酸性度は、産業革命前と比較して26%上昇している。(14)
- ⑭ 読み書きができない大人が7億8100万人いる。(4)
- ⑮ 42億人が安全に管理されたトイレを使えていない。(6)
- ⑯ 1億5200万人の子どもが児童労働に従事している。(4・8)
- ⑰ 10億人が電力供給を受けていない。(7)
- ⑱ 年間で521万ヘクタールの森林が破壊されている。(13・15)

4. 地球的諸課題の核心を考える

次の地球的諸課題を5こずつ書いて下さい

(1) 環境

気候変動、生物多様性の劣化、資源の枯渇、海洋プラスチック、PM2.5

(2) 平和

アメリカと中国の対立、核兵器、タリバンの復活、北朝鮮のミサイル発射実験、難民

(3) 社会

ジェンダー不平等、高齢化、人口爆発、SNSによる誹謗中傷、子どもの貧困

(4) 経済

巨大多国籍企業の横暴、貧困層の拡大、格差の拡大、コロナ禍による企業の倒産
企業による内部留保

◇ 2つ以上の問題が一挙に解決できる

「海洋プラスチックと資源の枯渇」「米中対立と多国籍企業の横暴」「内部留保と子どもの貧困」

「米中対立・タリバン・北朝鮮・一部の難民」「ジェンダー不平等と人口爆発」

「格差と子どもの貧困」

▼ トレードオフの関係にあるもの。○△を解決しようとするれば◇◇が悪化する

「企業の活動拡大と資源の枯渇」

2021年度奈良ESD連続セミナー③ 概要報告

ESDの学習理論の理解促進

担当者：中澤静男（奈良教育大学）

◇開催日時	2021年7月1日（木）19時～21時
◇方法	ZOOMによるオンライン
◇参加者数	28名
◇内容	ESDの学習理論の理解促進

1. 行動の変革を促す3つの方法

- ・罰を与えて行動を規制する 幸せな社会づくりに矛盾する
- ・ナッジ 意識せずに（価値観はそのまま）行動の変革を促す
- ・ESD 意識して（価値観を変革し）行動を変革できるように促す

(1) 行動経済学を用いたナッジ (Nudge) 理論

強制することなく、その人がよい行動をするように（環境を調整することで）そっと促す

①ナッジ・デフォルト

そのようにしてほしいことがデフォルト（標準）になるように設定しておく。

（例）コンビニのレジ前や駅のプラットフォームに描かれた矢印

②ナッジ・フィードバック

ある行動をすると、ある特定の反応が返ってくる仕組みをつくる（統一する）。

（例）冷蔵庫のドアが開放されている時間が長くなると鳴り出す音

③ナッジ・インセンティブ

ある行動をすると得する仕組みをつくる。

（例）「今だけ、先着〇〇名様に、プレゼント！」

④ナッジ・選択肢の構造化

ある行動や特定の選択肢に導く仕組みをつくる。

（例）居酒屋やレストランのメニュー表示「本日のおすすめ」

(2) 意識して（価値観を変革して）行動の変革を促すESD

ESDで育てたい価値観

- ・世代間・世代内の公正を重要視する価値観
- ・自然環境や生態系の保全を重要視する価値観
- ・人権・文化を尊重する価値観
- ・幸福であることを大事にする価値観

◇これらの価値観を育てる活動

- ・利他的活動・ボランティア活動、自然との交歓、人との交歓

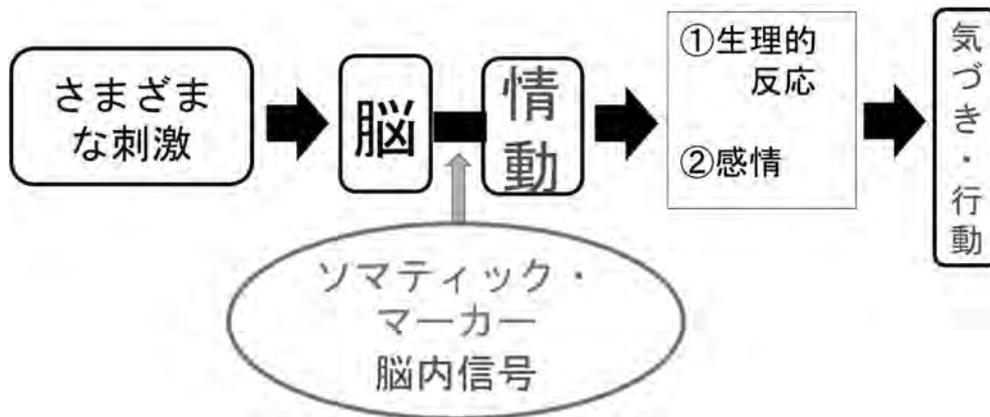
◇ボランティア活動を促すために



マズローの欲求の5段階説

- ・人は、下位の欲求が満たされることで、上位の欲求に向かうことができる。
- ・自己実現の欲求（社会のために役立つことがしたいというボランティア活動に直結する欲求）に向かうためには、承認の欲求が満たされることが必須。
- ・承認の欲求に大きな役割があるのが保護者であり、教員である。

2. ソマティック・マーカー仮説：気づく力こそが重要



ソマティック・マーカーテスト

(1) ソマティック・マーカー装置を鍛える

繰り返し経験し、繰り返し学習することで、知識の網の目を細かくする

→ カリキュラム・マネジメントの必要性

3. カリキュラム・マネジメントの概要

◇学校としてESDで育てる子ども像を明確な言葉で表現する（フワッとした言葉でなく）

◇それに向かって、各学年でESDで育てる子ども像を具体的な子どもの姿で表現する。

← 振り返り・洗練化が容易になる

◇活動・学習内容は簡潔に（年度で変更可）

◇目標とする子ども像を明記（これに即していれば、年度途中の変更も可）・いつもそこにもどって見直しできるよう。

◇カリキュラムに記載したらいいこと

- ・各学年のE S Dで目指す子どもの姿、各単元でE S Dで目指す子どもの姿

◇記載内容のカテゴリー例

- ・人との交歓・体験的な学習、自然との交歓・体験的な学習、利他的活動（ボランティア）
- ・データ化のスキルを育てる場面、ロールモデルとの出会い（あこがれ）の場の設定

4. E S Dの視点（見方・考え方）

ソマティック・マーカーで気づいたら、着目し、評価する（判断する）E S Dの視点

見方・考え方	身の回りでよさの見つけ方	課題の見つけ方
①多様性	色々なものがある 色々な方法が用意されている	画一的、多様性に乏しい、選択肢がない
②相互性	つながっている方がいい 循環しているのはいいこと	孤立している・循環していない
③有限性	ものには限りがあるという認識 物を大切に修理しながら長く使う	大量生産—大量消費—大量廃棄 使い捨てが当たり前
④公平性	個別に必要な支援を与え、公平な 状態にしようとしている。	不公平、今さえよければ、自分さえよければ
⑤連携性	できるだけ多くを巻き込んでいる 分け隔てしていない	分断、排除している
⑥責任性	協調性がある・やりとげている リーダーシップを発揮している	責任転嫁、やりっ放し、言いっ放し

①・②・③は社会環境・自然環境、④・⑤・⑥は人物の行動や発言を評価する視点

5. E S Dで育てたい資質・能力

- ①クリティカル・シンキング（物事を問い直し、新たな方法を見いだす力）
- ②システムズ・シンキング（物事を総合的にとらえる力）
- ③長期的思考力（データに基づき、先のことを見通す力）
- ④コミュニケーション力（人の意見を聞いたり、自分の意見を発信したりする力）
- ⑤協働的問題解決力（他の人と協力して最後まで取り組む力）

※教科におけるE S Dでは、教科の目標があるので、直接的にE S Dの価値観や視点の育成を目標にできない場合があります。その場合でも、「能力」については、育成できるよう授業を考えます。

6. E S Dの学習過程（探究的な学習）と育てる資質・能力

①教員による工夫のある導入：ソマティック・マーカーが発せられる 「？」「！」

②その「こと・もの・ひと」をE S Dの視点で検討し、
学習課題をつくる。→クリティカル・シンキング

（答えが複数存在する問い：「なぜ～？」「どうして～？」「どのように～？」）

③仮説をつくる

仮説を作る際には知識の構造化が必要になる→概念的知識、見方・考え方の獲得

システムズ・シンキング、長期的思考力

④調査活動（グループ学習）：コミュニケーション力、協働的問題解決力

調査結果のまとめ：

コミュニケーション力、協働的問題解決力、システムズ・シンキング、長期的思考力

⑤話し合いと考察：長期的思考力、システムズ・シンキング、コミュニケーション力

⑥発信・行動化：協働的問題解決力、コミュニケーション力

※学習過程において、このような資質・能力を養うことができるということを、指導者が理解して指導に当たる（アドバイス、指示、問いかけ、声かけ）ことが、子どもの資質・能力を育てる。

①～⑥の繰り返しで育つESDの価値観とそれに基づくソマティック・マーカー装置、ESDの視点の洗練化、資質・能力の育成を一体的に育むことが可能になる。



2021年度 第4回奈良ESD連続セミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

◇開催日時 2021年7月29日(木) 19時～21時30分

◇方法 ZOOMを用いたオンライン研修

◇参加者数 46名

(大学生・ESD連続セミナー受講現職教員、ESDサポーター受講者等)

◇内容 ESD学習指導計画の分析

1. 「つなごう 吉野・大牟田の宝」6年生・総合：大牟田市立吉野小学校・島俊彦氏

吉野の町を盛り上げよう

テーマ：地域の一員として関わるよさに気づき、能動的にまちづくりに他者と協働して参画する

子どもの育成（目指す子ども像）

商店街の再生に向けて努力する人々との協働

(1) 自分たちが思っている吉野のよさ（既習事項の振り返り）

住みやすさ、自然の豊かさ、地域の方々との協力（つながり）、地域の方々のやさしさ（あいさつ）

でも、保護者アンケートを見ると、自分たちが思っている吉野のよさとはちょっとずれがあることに気づいた。→ちゃんと、吉野のことを知ることから始める必要がある。

(2) 商店街のお店がつぶれていっている（現状把握）

商店マップに記載されているお店にも、閉店してしまっているところが多い。→なんとかしたい！

(3) これからの学習の見通し

・吉野のよさを広げていきたい

現地調査をしてお店の人の願いや地域住民の思いなどを聞き取り

FWやインタビュー調査を通じて、商店街の問題の自分事化を図る

・商店街を活気づけるために、自分たちにできることを考える

商品開発（弁当）、ポスター制作、動画制作 → 発信

(4) 本学習指導計画を踏まえた意見交換・考察

①本学習の意義

商店街の衰退は、全国的な課題であり、課題解決には至らないであろう。

指導者としては他市町村の情報を調べておく必要があるだろう。

地元を知る事自体に意味があるのではないか。地域の活性化に子どもが関わることには、「子どもが地域のつながりをつくる存在」になりうるという期待がある。

俯瞰的な視点も必要であるため、行政プラン（総合計画等）を参考にし、最終的に市長に提案する（上からの行動化）を促す方法もある。

子ども目線による課題解決策「プロの素人」の意見を促すことは、地元への関心を高める

②本学習の成立に関わって

商店街の方々との目的の共有が大切。学校・子どもの一方的な思い込みはよくない。

地域の人による地域の活性化を促すことが基本

地域の人たちの商店街の活性化への協力を促すために、お店のストーリーを見つけ、発信

そこに店を出した経緯、これまでの苦労や喜びなど、お店側のストーリー

お店との関わりで忘れられない思いでなど、消費者側のストーリー

それらのストーリーが関心を高める起爆剤となる。お店と地域の方々とのコミュニケーションによって、居心地のいい空間になっていく。そのことが、地域の人による地域の活性化につながる。商店街のイベントに参加することも、地産地消の1つの形であることをおさえる。

③評価について

ESD の場合、行動が変わることがポイントになる。テーマに関わる子どもの変容を具体的に、多様に想像する必要がある。

2. 単元：6年生外国語科 Unit5 「We all live on the earth.」(全10時間)：教職大学院・藤原愛子氏 外国語活動における ESD の単元づくり

目標：食物連鎖について調べた情報を整理し、相手との対話を通して自分の考えを深め、発表することができる。また、地球の現状を批判的に捉え、地球に住む生き物が置かれている状況についても情報を収集し、抱えている問題を解決しようとする態度を養う。加えて、食べる食べられるの関係や生き物が住んでいる場所等、基本的な語句や基本的な表現を理解する。

(1) 主発問と補助発問を軸として、児童の予想される反応からストーリーを組み立てる

「見つめる」身近な生き物についての問題点を出し合う 地球環境・生態系への関心を高める

①主発問(単元を貫く発問)：「わたしたちは、自然とどのように関わっているのだろう」

「調べる」食物連鎖が崩れてしまう要因は？そこから気づく、自分の生活との関わり

We all live on the earth.

「深める」

②補助発問(新たな知識や既存の取り組みへと広げる発問)：

「人間もその他の生き物も、安心して暮らすためには、どうすればいいのだろう」

・企業の取組を調べる × 消費者の取組を調べる

③補助発問(自分の考えを再構築し、行動につなげる発問)：

「広げる」

「動物や自然を守るためには、わたしたちにどんなことができるだろう」

・学校や学級でできそうなこと

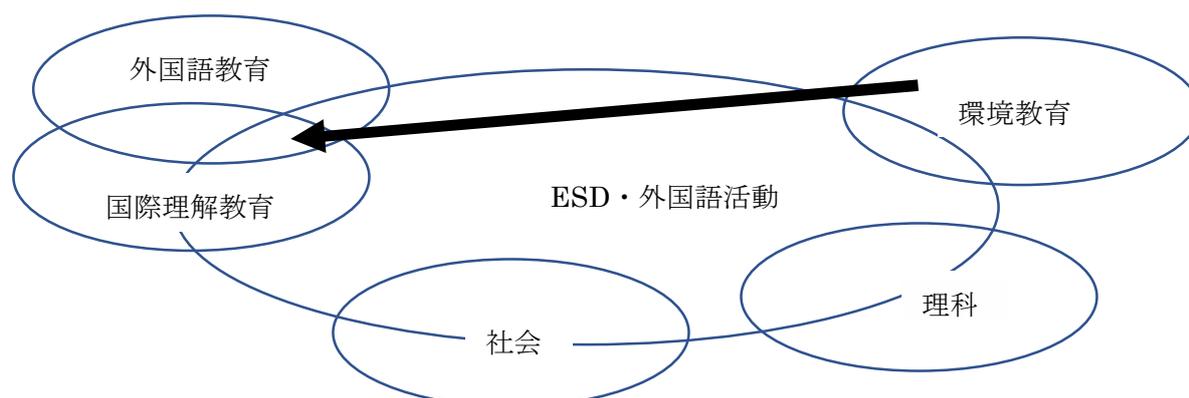
・個人でできそうなこと

(2) 評価について→ 【パフォーマンス課題で活用するルーブリック】参照

(3) 本学習指導計画を踏まえた意見交換・考察

・学習内容が多岐にわたっているという印象。理科の食物連鎖のヒエラルキーから問題点を生物多様性の保全にしばって展開していくのもいいのではないか。(すべての生き物がつながり、生態系を保全する役割をもっている)生物多様性を意識した消費行動。

・英語で学習するよさを子どもに感じさせるにはどうすればいいのか？



※「英語なら海外の友達と一緒に取り組めるよ！」という形になればいいが。(藤原先生のこれまでのJICA等での人間関係を生かして)

・「言葉」は文化を反映している

環境に関わる英語表現での名言・言い伝えは生き物に対する文化的相違点や共通点を含んでいる。

【パフォーマンス課題で活用するルーブリック】

得点	言語的コミュニケーションの視点	非言語的コミュニケーション	プレゼンテーション全体の内容	視覚物とメンバーとの連携	外国語の運用能力
3	<ul style="list-style-type: none"> 適切な声の大きさ 話のスピード 聞き取りやすい 	<ul style="list-style-type: none"> アイコンタクトができている ジェスチャーを加えている 表情豊かで表現力がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 話の論点が明確で、分かりやすく表現されている 学びの深さが感じられる 	<ul style="list-style-type: none"> 聞き手を意識した視覚物 他のメンバーとの息の合った姿 	<ul style="list-style-type: none"> 学習した表現、及び関連する語句について十分に理解している 食物連鎖や自分の考えなどを話す技能を十分に身に付けている
2	<ul style="list-style-type: none"> 概ねできているが、一部聞き取りにくいところがある 概ねできているが、一部分かりにくいところがある 	<ul style="list-style-type: none"> アイコンタクトが概ねできているが、完璧ではない ジェスチャーが概ねできているが、完璧ではない 表情が概ねできているが、完璧ではない 	<ul style="list-style-type: none"> 概ね話の論点が明確だが、一部分かりにくさがある 学びの深さが感じられる 	<ul style="list-style-type: none"> 視覚物に一部分かりにくいところがある 他のメンバーとの息の合った姿 	<ul style="list-style-type: none"> 学習した表現、及び関連する語句についてある程度理解している 食物連鎖や自分の考えなどを話す技能をある程度身に付けている
1	<ul style="list-style-type: none"> 声が小さい 話すスピードが速すぎる 話すスピードが遅すぎる はっきりと話していない 	<ul style="list-style-type: none"> アイコンタクトが一部適切に使えていない ジェスチャーが一部適切に使えていない 表情が一部適切には使えていない 	<ul style="list-style-type: none"> 話の論点が明確だが、一部分かりにくさがある。 新情報に乏しく、学びの深さがあまり感じられない 	<ul style="list-style-type: none"> 視覚物に一部分かりにくいところがある 他のメンバーとの連携があまりできていない 	<ul style="list-style-type: none"> 学習した表現、及び関連する語句についてあまり理解していない 食物連鎖や自分の考えなどを話す技能をあまり身に付けていない
0	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーションが成立していない。 	<ul style="list-style-type: none"> アイコンタクト、ジェスチャー、表現、すべて使えていない 	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーションの内容が伝わっていない 	<ul style="list-style-type: none"> 視覚物が不適切または不十分 メンバーと意思疎通ができていない 	<ul style="list-style-type: none"> 知識、技能を身に付けていない

2021年度 第5回奈良ESD連続セミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 8月26日(木) 19時～21時
- ◇方法 ZOOMを用いたオンライン研修
- ◇参加者数 38名
- ◇内容 現職教員の単元構想案の相互検討

1. 竹取物語を通じた地域の価値の発見 (真美ヶ丘第一小・6年・総合：蔵前先生)

(1) 単元計画の概要

①竹取物語 (1000年以上前に作られた話。作者不明だが、万葉集に掲載されている)

クイズ→知っているようで意外と知らないことに気づかせる

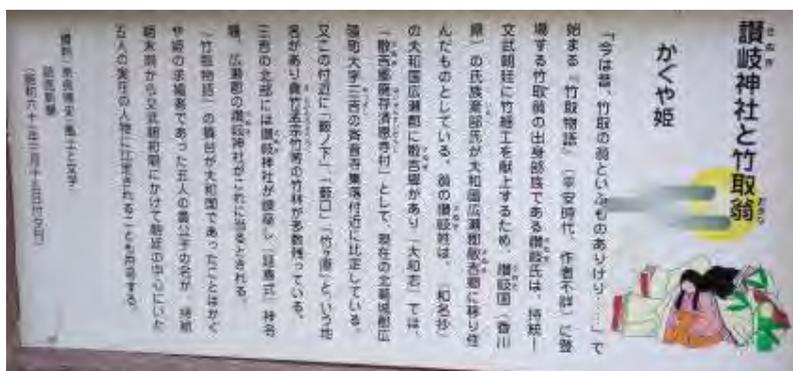
②竹取物語を調べる 讃岐神社で広陵町文化財課の方・ボランティアガイドの方に教わる 万葉文化館を訪問し、学芸員の方に教わる

広陵町がゆかりの地となっている 竹取の翁—讃岐神社との関係

・竹取翁の出身部族：讃岐氏

讃岐(香川)より、忌部氏が竹細工を天皇に献上するために、移住してきたという説もある。

かぐや姫に求婚する5人の貴公子が持統朝末期から文武朝初期に朝廷に実在した5人の人物に比定する説もある。



問い：作者もわからない物語が、1000年以上受け継がれているのはなぜだろう？

竹取物語に魅力を探そう

調査：地域の人たちは、地域にゆかりのある竹取物語の魅力を知っているのかな？

→ 真美ヶ丘第一小校区は、新興住宅地である。大阪への通勤に便利だという理由で、転居されてこられた方がほとんどで、竹取公園もあって利用したりはしているものの、地域と竹取物語の関係などは知らないと思われる。

・讃岐神社の池に竜のモニュメント 貴公子が探していた「竜の玉」をモチーフに？

→ 保護者や地域の方に竹取物語を知ってもらいたい：真美—かぐや姫プロジェクト

(2) 本単元構想に関する意見交流

①子どもの主体性を引き出す

今の単元計画では「教えてもらう」ことが主で、子どもの主体的な学習となり得ていない

この地域には、竹取物語に関係するモニュメントが散在しているが、子どもにも地域の方にもほとんど知られていないという現状がある。子どもが足を使ってモニュメントを探して、マップ化する活動を取り入れるとよいのではないか。モニュメントには竹取物語の場面も描かれているので、写真で撮影し、並べてみることで、モニュメント巡りのコースも作るができるだろう。

②学校間交流への手がかかり

竹取物語とのゆかりを主張する地域は、他にも多数ある。それらの学校と万葉文化館学芸員を交え

て交流学习することで、子どもの意欲も高まると思われる。

③学習内容と学年進行について

古典を学ぶのは中学校からなので、どの程度内容に踏み込んだらよいのだろうか。万葉文化館の学芸員とよく打ち合わせして、古典文学への関心を高めるようにしてほしい。

④アンケートについて

コロナ禍のため、直接アンケート調査をするのは困難である。保護者や地域住民を対象に、グーグルフォームなどを活用して、非接触型のアンケート調査を行う。発信の仕方にも考えていく必要がある。

アンケート内容を子どもに考えさせるのもよい。もともと地域教材は、子どもの関心を高める効果があるが、+ワンアクションで更に高めることができる。

ここから2グループに分かれてのブレイクアウトセッション

ブレイクアウトルーム① 奈良教育大学 大西 浩明

2. 「みんな生きている」・・・福住学と合わせて（2年生生活科：天理市立福住小中学校 永原智子）

（1）単元展開の概要

- ・福住の豊かな自然を実感させたい → いろいろな生き物をできるだけ見つけさせたい
- ・今年から小中学校になって、福住以外の地域から通っている子どももいる
- ・運動場、水路、家の近くで生き物探しをし、場所によって見つかる生き物が違うことに気付かせる
「なぜに見つかる生き物がちがうのか？」 福住の水のきれいさに気付けるのでは
福住にはいない生き物を持ち込ませないよう、指導もしていきたい
- ・2年生段階でどこまで理解できるものなのか、これでは少し難しい気がしている

（2）本単元計画に関する意見交流

- ・「豊かさ」には、たくさんいることと、いろいろいると両方ある。福住はどちらも気付けるのでは。
- ・アメリカザリガニやアカミミガメなど、汚い水に住む生き物は福住にはいない。それだけ福住の水はきれいだということが気付けると思う。
- ・ただ見つけるだけでは実感できない。見つけた生き物や数を地図に表すなどして「見える化」することが大切だと思う。
- ・外来生物を持ち込まない大切さについては、ぜひ指導してもらいたい。
- ・生活科は活動を通して「自ら気付く」ことが大切で、そのためにも「見える化」することは大切。教科としての生活科として扱う部分、福住学として扱う部分を明確に教師が持つておくことが重要。

3. 「わたしたちの住んでいる奈良県」－地域の資源を保護・活用している地域 奈良市－

（4年生社会科：天理市立福住小中学校 藤田桃子）

（1）単元展開の概要

- ・奈良のシカを取り上げる → 奈良のシカについて様々な側面から調べさせたい
「奈良の人々はシカとどのようにくらしているのだろうか」を中心課題に
- ・観光資源としてのシカが奈良の人とどのような関係にあるのか
もう一つ、自分の中で方向性が定まっていない

（2）本単元計画に関する意見交流

- ・この単元の目標や内容から見て、中心課題は違うと思う。「奈良市ではシカをどのように保護・活用して町づくりを進めているのか」などのようになるのでは。

- ・そのために導入をどうするか。コロナ禍の観光客減少によって多くのシカが道路や街中に出てきていることや、「シカ飛び出し注意」の道路標識、みやげ物やキャラクターにシカが多く使われていることなどは使えるかも。
- ・近くの小学校ではシカが侵入してきて育てている植物を食べたりしている。こういうことは聞いてみないと分からないことでもあるので、奈良市の小学校と交流するとよいのでは。
- ・奈良の人にとってはシカがいるのが当たり前であって、それを観光資源としてどのように活用しているかを調べたり考えたりするのがこの学習であると思う。
- ・福住でもシカが農作物を食い荒らす被害がある。奈良のシカも同じ野生のシカであり、同様の被害が深刻で捕獲も始まっている。どのように共存していくか考えることも大切な視点ではないかと思う。

ブレイクアウトルーム② 奈良教育大学 中澤 静男

4. 梅干し作りから地産地消を考えよう（平群中学校2年生・家庭科：井阪先生・教職大学院M1）

（1）単元計画の概要と意見交流

- ・食べ物に関する課題意識にゆさぶりをかけたい
- ・校務員の〇〇さん（生徒から信頼のある人物）からいただいた校内の梅の木から採れた梅の実「梅干しを作ってみよう」
- ・梅干し作りに必要な材料を調べる。（塩と赤紫蘇、焼酎）
 - 販売されている梅干しには、安さや手間を省くために、本来必要のない保存料や添加物が含まれていることに気づくだろう
 - 作り方、歴史、梅干しの効用を調べる。
 - 疲労回復、抗菌作用
 - 梅酢 防腐・食中毒の予防、抗ウイルス作用、血圧抑制、がんの予防
消毒、掃除、「おにぎりの手水、など多数
 - 「本当の梅干しを食べてみたい」という気持ちが高まる
- ・食育推進協議会に方と一緒に作ってみよう スキル・ポイントを学ぶ
- ・試食ーホンモノにふれる満足感
- ・地元の食材をつかって食べる体験
- ・地産地消のよさを考える（消費者・生産者・地域社会・自然環境）
知識構成型ジグソー法を用いることで、多面的・多角的思考を育てる
近江商人の「三方よし」から「四方よし」へ

5. 「みのむしのうた」をもちいた小学校低学年音楽科（柚木先生・大学院M2）

（1）単元展開の概要と意見交流

- ・音楽とESDの関係
 - 音楽から「音楽の多様性」のよさに気づくことができる
 - みのむしのうたを教材にすることで身の回りの生き物の有限性に気づく契機となる
（みのむしは絶滅危惧種でもある）
 - みんなで頑張るといい歌になるという経験から連携性を大切にする態度を養うことができる
 - 「みんなですると楽しい」という経験がコミュニケーション力の育成にも効果がある
- ・本単元の目標と中心発問

- ・この歌を通して、子ども達はミノムシを見つけてみたいという心情を高めるだろう。自然環境への関心を高めるという意味でも、優れた教材である。
- ・一方、中心発問が知識中心になっている。子どもの発達から考えて、よさを感じるという程度でいいのではないだろうか。

2021年度 第6回奈良ESD連続セミナー 概要報告

奈良教育大学 大西浩明・中澤静男

- ◇開催日時 9月30日(木) 19時～21時
- ◇方法 ZOOMを用いたオンライン研修
- ◇参加者数 26名
- ◇内容 現職教員の単元構想案の相互検討

【重要な連絡】

- (1) 2022年2月19日(土)に日本ESD学会近畿地方研究会を奈良教育大学を会場に開催する(対面式)ので、参加を予定してほしい。
- (2) 単元構想案の検討は、あと2回で終了するので、本日参加している学生は、来月のセミナーで単元構想案を発表してもらいたい。現職の先生方も、スケジュールを考えて発表してもらいたい。単元構想案の検討は、11月で終了する。

【セッション1】中澤 静男

1. 高島町の生物多様性を保全するための授業(山形県立高島高等学校・3年:佐藤先生)
学校設定科目「実践生物」対象生徒:9名(将来、高島町で暮らすと思われる)、週2コマ

(1) 単元計画の概要

①生物多様性及び外来種について学ぶ(座学)

- ・なぜ生物多様性の保全が重要なのか。
遺伝子の多様性、種の多様性、生息エリアの多様性
- ・外来種が生物多様性にどのような影響を与える可能性があるのか。
外来種発生の経緯を学ぶ→人間活動

②高島町の外来種の状況を調査する

- ・魚釣りにおけるブラックバスなど、生徒の経験を引き出すと共に、役場に協力を要請し、高島町全体の状況の把握につとめる。

③在来種と外来種の区別

- ・図鑑で判断する
- ・実験を行う:抽出したDNAの電気泳動実験を行う。(DNAの長さに差がある。電気泳動槽(自作する)の中では長いものほど動きが遅い。これによってDNAを区別して在来種か外来種かを判断できる)

④生物多様性を守ることの重要性を幼稚園児に伝えるために紙芝居を作ることを生徒に依頼する。

- ・幼稚園児に理解させるためには、高校生はよほど勉強して詳しくなる必要がある。学習意欲や学習の必然性を高める手立てとしたい。
- ・外来種だけにこだわらなくてよい
- ・在来種を守るために、「外来種すべてを撲滅する」ことは正しいのだろうか。「命」について考える機会にもしたい。

⑤幼稚園児だけでなく、高島町役場の職員にも紙芝居を見てもらい、コメントをもらおうとともに、今後の外来種についての活動や生物多様性の保全活動を役場と連携して実施する足がかりとしたい。

(2) 本単元構想に関する意見交流

①本単元で高校生につけたい力

- ・学校のまわりには田畑が広がっているが、高校生の生き物に対する関心は低い。この実践を通して身近な生き物に対する関心を高めたい。
- ・生物多様性への理解の程度は、多様性＝ややこしいという捉え方でいいと思っている。
- ・外来種＝悪 という考え方にならないようにしたい。

②命について考える一道德への発展の可能性

外来種が在来種の生息域を圧迫しているのは事実だが、もともと人間が持ち込んだものである。人間の都合で、外来種を撲滅することは、本当に正しいことなのだろうか。

③幼稚園児を対象とした紙芝居の作成について

- ・幼稚園児に伝えるための言葉を選ぶのは大変。高校生の言葉では通じないだろう。
(年齢に応じた伝え方の重要性)
- ・幼稚園児に理解してもらうには、かなり単純化する必要がある。
(ターゲットを絞り込む必要がある)
- ・小学生を対象にした方がよいのでは。小学3年生の理科には昆虫の体を学ぶ単元がある。高学年では食物連鎖にふれる学習もある。それらを参考に小学生の理解を深める目的で作成するならば、小学校側のニーズとも合致するため、受け入れてもらいやすくなるだろう。

④紙芝居にこだわる必要はないのでは。動画作成の方が高校生にも適しているのではないか。

動画ならユーチューブにしてUPすれば、色々なところから感想がもらえる。

⑤幼稚園児に伝えるのは、幼稚園の教員にまかせたほうがいい。幼稚園の教諭を対象とした研修材料の作成としてみるのもよい。

2. 伝統的な工業がさかんな地域（平群町立平群北小学校4年生・社会科：中澤哲也先生）

社会科としての単元目標

- 副読本や関係資料から、伝統的な工業がさかんになるための3つの要因（環境・技術・社会）に沿って必要な情報を読み取り、それぞれが関連し合っていることを理解する。（知識及び技能）
- 3つの要因のそれぞれの役割について考えることを通して、伝統的な工業が盛んになるために3つの要因は相互に関連し合っていることを考え、表現することができる。（思考・判断・表現）
- 3つの要因の大切さに気付くとともに、それらの要因を持続させていくための地域・人の在り方について問い続けることができる。（学びに向かう力、人間性等）

(1) 単元計画の概要

①県内の伝統工業品をクイズ形式で紹介する。

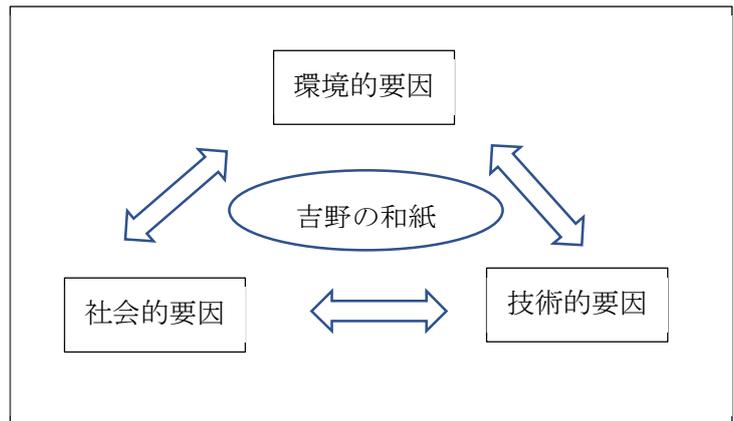
その中で特に和紙でつくられたグローブを提示し、児童の関心を高める。

問い「和紙と普段使っているパルプ紙の違いはなんだろう？」

手作業、時間がかかる、値段が高い、昔から作られている、丈夫、奈良県では吉野町で盛ん
中心発問「なぜ、吉野町では和紙づくりが行われているのだろうか？」

②吉野町で和紙づくりが行われている理由を調べる

- ・原料（こうぞや水）を得るために、自然環境が重要。
- ・伝統技術を受け継ぐ人材を育てることが重要。
- ・買ってもらわないと、生業として成り立たない。



③吉野町の和紙づくりの現状を把握する



- ・機械化により大量生産される安価な洋紙の参入で、和紙の使用量が激減
- ・和紙の需要低下
- ・後継者不足

④深める発問

「吉野の和紙を守り続けるために必要なことは何だろう？」

- ・普通の便箋と、和紙で作られた便箋の比較
- ・和紙利用者へのインタビュー

→ 4つ目の要因として、消費者（自分も含めて）の行動

自分たちが吉野の和紙を選ぶことで、奈良の伝統を守り続ける活動に関わることができる！

⑤県内の他の伝統産業についても調べよう

- ・本単元で得た見方・考え方の普遍化

(2) 本単元構想に関する意見交流

- ・伝統工業の捉え方

吉野の和紙づくり（伝統工業）、社会的要因・環境的要因・技術的要因の3つから捉えさせてのは秀逸だ。ESDの場合は、社会・経済・環境の3つのバランスが重要視される。本実践のばあい、「環境：自然環境、技術：修業・後継者、社会：需要減」という捉え方がなされているが、「環境的要因：自然環境、経済：需要減、社会：生活様式の洋風化」という整理のしかたもあると思われる。この方が、他の伝統工業の整理にも効果的なのではないか。つまり、⑤で県内の他の伝統工業を調べ、共通する課題を捉える際に、環境・経済・社会の視点での把握の仕方を生かすことができるのではないか。

- ・ ESDでもとめる行動化について

ESDでは理解するだけでなく、行動の変革を促す必要がある。これについて意見交換した際、児童の「自分も特別なときなどに、普通の紙ではなく、和紙を使ったり、送ったりして、和紙のもつよさを考えながら使っていきたい」という発言に対して、特別な場合は必ず和紙と筆を用いることにしている、という発言もあった。卒業式の学校長の式辞なども和紙に書かれていることを見せると、「特別な場合に和紙を使用する」という意味が、児童にも伝わりやすいであろう。

- ・ 伝統工業における行動化について

伝統工業全般において、このような伝統工業品の利用の仕方が、一般的であろう。購入することが、支援することになるという捉え方でよいのだが、児童が値段の高い伝統工業品を簡単に購入できるわけではないので、「特別なときには」という捉え方でいいだろう。

- ・ 伝統工業の位置づけ

特別なときには伝統工業品を使うということから、伝統工業が「多様性」の保持という役割をになっていることがわかる。

- ・ 児童の発言への対応

「百均などにも同じような商品がたくさん並んでいるけれど、それって本当にいいことなんだろうか？」という児童の発言は、それまで気にしていなかった百均商品をクリティカルに捉え直そうとする姿勢がうかがえる。それを児童にほめるとともに、学級全体で考える機会とするとよいだろう。持続可能な社会づくりの観点から、一概のどれがよいのかが判明していないのが現実である。よくわからないが、考え続け、自らの行動を選択するときに思い起こすことができるといいのではないか。

【セッション2】大西 浩明

1. 平和学習とSDGs（6年生・総合 奈良市立朱雀小学校 中村友弥先生）

（1）単元構想案の紹介

これまで修学旅行で広島に行くにあたって平和学習を進めていたが、今はそれができない。その中で、これまでの取り組みと変わらぬ成果を上げられる平和学習にしたい。

SDGsには核兵器の項目がないと聞いて、18番目の目標に必要なかを考えさせたい。

社会科の歴史学習や国際連合の学習とうまく関連させて、SDGsの視点から平和や核兵器について考える学習を組み立てている。

広島で被爆された（当時5歳）方のお話

奈良で空襲を体験された（当時小学4年生）方のお話 二人の語り部さんから学ぶ
いかに戦争や平和を自分ごとにさせるか、なかなか難しく悩んでいる

（2）本単元構想に関する意見交流

- ・ 平和記念資料館で様々な本物を見てこそ感じることもある。見学できないのは仕方ないが、頭でっかちにならないだろうか。
- ・ 戦争の要因は様々なはずで、単に資源を奪い合うというものではないと思う。それこそ、SDGsの目標のすべてが戦争の要因になるはずで、そういう見方ができるようにした方がよいと思う。
- ・ 「平和」の意味を「戦争や紛争がないこと」だけの狭い見方にしないことが大切。
- ・ 「戦争と平和の境界線」について、子どもたちに考えさせることを出発点にするとよいのでは。

- ・身のまわり半径5メートルのところからできることを考えさせたい。まずは、「未来のことを約束できることが幸せだ」と感じる事が大切。

2. 町のすてきをつたえたい (2年生・生活科 奈良市立朱雀小学校 本多雄大先生)

(1) 単元構想案の紹介

町のすてきをあつめよう → すてきをつたえるじゅんびをしよう → 町のすてき発表会をしよう → 朱雀のすてきをふりかえろう

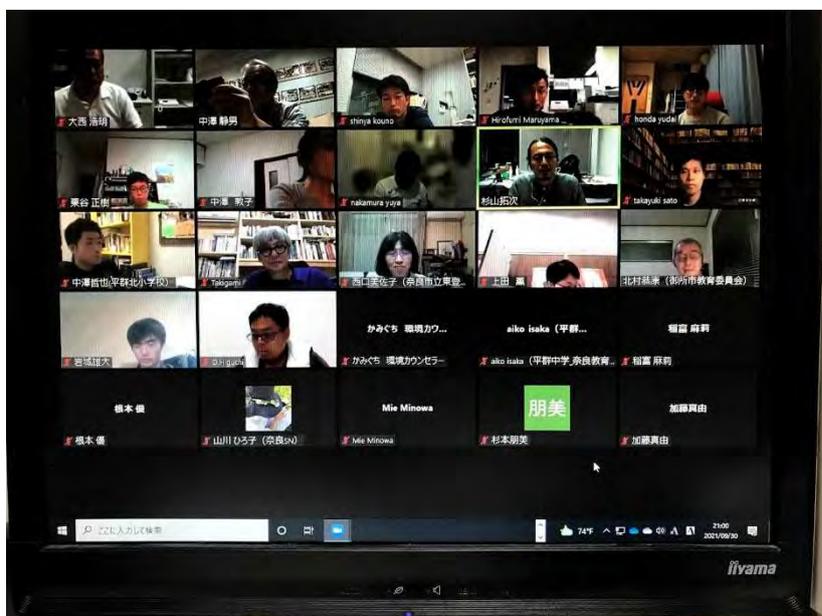
公園についてまとめさせたい

いろいろと外に行かせたいが、自分の力不足からうまくまとめられない

なかなか教科書から抜け出せないのが自分の課題

(2) 本単元構想に関する意見交流

- ・公園にしぼるのはどうか？ いろいろな「町のすてき」を見つけるのがこの単元の重要なところ。
- ・大人にアンケートを取るより、子どもの知識や経験の中から生まれてくる「すてき」を大事にしたい
- ・大人にとっては、「なんだこんなもの」というものが、その子にとってはとてもすてきなものなのかもしれない。
- ・「伝える」ことも大事だが、この学習は子どもなりのいろんな「すてき」を見つけることに重点を置いた方がよい。「町のすてきをあつめよう」に注力すべき。様々な「すてき」が集まってくるからこそ、最後の「朱雀のすてき」を話し合うとより実感的ものになるのではないか。
- ・教科書越えのE S Dを創っていこう！



2021年度 第7回奈良ESD連続セミナー 概要報告

奈良教育大学 大西浩明・中澤静男

- ◇開催日時 10月14日(木) 19時～21時
- ◇方法 ZOOMを用いたオンライン研修
- ◇参加者数 31名
- ◇内容 現職教員・大学生の単元構想案の相互検討

【セッション1】大西浩明

1. 安曇野の水 (小学4年生社会科:根本さん)

(1) 単元展開の概要

- ・今でこそ米づくりがさかんな長野県安曇野市
- ・もとは、水が少なく農業に向いていない土地だった
- ・拾ヶ堰(じっかぜき)という用水路を作った等々力孫一郎を取り上げたい。
- ・工事に反対する人に襲われても、莫大な借金を抱えそうになってもやり遂げた信念を感じさせたい。
- ・よりよい未来を創りたいと生きた孫一郎の生きざまに共感させたい。

(2) 本単元構想に関する意見交流

- ・授業者が、「どうしてもこの人物を取り上げたい」という熱い思いを持っていることは重要。
- ・その人物の、どこに焦点をあてて学んでいくのかをもう少し明確にするとよい。
- ・「調べる」段階で、何を、どのように調べさせるのか、何が分かればよいかを構想図に表現してほしい。
- ・「ふかめる」ための問いは、「なぜ拾ヶ堰をつくろうと思ったのだろうか?」では、深まらないと思う。「なぜそこまでして拾ヶ堰をつくったのだろうか?」のようにすることで、孫一郎の思いや人々の願いに迫ることができるのではないか。
- ・すべて人力で、多くの人に関わった大工事であったことを実感させたい。
- ・農家の人たちに、拾ヶ堰に対する思いをインタビューさせてもよい。
- ・最後に、拾ヶ堰のすごさを伝えるだけではもったいない。
→ 用水路そのものに目を向けて、生き物調査をすると広がりがあるかも。

2. 作文教材 (小学6年生国語科:岩城君)

★文章を論理的に構想して作文し、相手に伝わりやすくすることが苦手な子どもが多い。

(1) 単元展開の概要

ネタは 例えばカレー

1次 先生が実際にカレーを持ってきて美味しそうに食べ、児童に食べたいと思わせる。

(ワクワクさせること・児童に興味を持たせ、動機づけを行う)

最終的には自分の好きな人に美味しいカレーを作ってあげる(学習の見通しを立てる)

2次 先生の食べていた美味しいカレーの作り方を学ぶ(論じ方、書き方を同じネタで学ぶ)

3次 2次で培った力を使って自分のお気に入りのカレーを作る(自分で学んだことを使ってみる)

未来次 自分の好きな人にカレーを作ってあげるにはどのようにすればよいか考える

・家庭科ではなく、国語科なので、カレー作りのところを作文にする。ネタは児童の実態に即した形にしていくために「カレー」ではなく、「今年の運動会がなくなったこと」などに注目させていけたら

いいなと考えている。

(2) 本単元構想に関する意見交流

- ・カレーや運動会を全員が肯定的に捉えるだろうか。カレーが嫌いな子、運動会がなくなってホッとしている子にとっては、スタート時点でワクワクできないかも。
- ・作文はもともと論じるものではない。→ 意見文として書くということでもいいのでは。
- ・「豊かに書く」ためには、その様子を具体的に表現するというではないのか。
- ・お互いに書いたものを交流して、評価し合う時間も大切だと思う。
「すごく分かりやすい」「とてもよく分かる」表現方法をシェアできるようにしたい。
- ・未来次の「自分の好きな人に・・・」という相手意識を持たせることでワクワクできると思う。
ただ、それがカレーかと言われたら違うような気がして。他に何かインパクトのあるものがないか。

3. 防災について考える（小学校高学年・総合：佐藤さん）

(1) 単元展開の概要

- ・地震の怖さを知り、被災した時の行動を想定することができる。また、自分たちの防災意識を高め、それを行動に移すことができるようにする。
- ・学校での避難方法、家庭での防災対策、避難所は本当の安全か
- ・避難訓練が学校行事化していて真剣ではない → 自分事にさせたい
- ・地震発生当時の映像を見る 体験した人の話を聞く
- ・学校で地震が起きたときは？
- ・家庭で地震が起きたときは？ 家庭での防災対策についてチェックしてみる
- ・避難所はどこ？ その避難所は安全？ 学校の体育館や地域の避難所を調べてみる
不備があれば、校長先生や地域の管理者に伝える活動

(2) 本単元構想に関する意見交流

- ・防災の学習で、災害の怖さを伝えてから始まるのはどうなのか。
→ 精神的にダメージを負う子もいるのでは。
- ・それより、公園にある「かまどベンチ」や「防災トイレ」などを例に、興味関心を引き付けて学習に入る方がよいと思う。
- ・家庭での防災チェックも、したくてもできない家庭もあるはず。
- ・経験者に話を聞くのも、「避難所で〇〇したらうまくいった」という話など、よかった例を出してもらうと、安心感を与えるような前向きな防災の学びになるように思う。
- ・もちろん、どこかでは災害の事実や怖さを伝える場面も必要ではある。
それが、「後世に伝えていかなければならない」という気づきにつながる。

【セッション2】中澤 静男

1. 環境を守る私たち（小学5年生社会科・総合：奈良市立平城西小学校・樋口先生）

(1) 単元計画の概要

①教科書を用いて京都市の鴨川での取り組みを学ぶ

- ・ボランティアの活動や行政の取り組みで水質浄化できた鴨川

②校区を流れる秋篠川

- ・児童の関心は低い

- ・秋篠川そのものと秋篠川に関わって活動されている人々への関心を高めたい

③秋篠川には何が集まってくるだろう

④秋篠川をきれいにするために自分にできることを考えよう。

(2) 本単元構想に関する意見交流

①もともと秋篠川への関心が低い児童の関心を高めるために

- ・ただ、秋篠川沿いを散歩するだけでは高まらない。

②秋篠川と児童の距離を小さくする手立て

- ・水質調査 生物指標調査と化学調査（パックテスト）

パックテストの方が手軽だが、その時の水質しか反映しない。生物指標調査はやり方さえ身に付ければ、児童でも簡単に繰り返しできる。その時の水質だけでなく、全体的な水質の程度を反映した結果を得ることができる。

- ・透視度計

ペットボトルを使って簡単な透視度計を作成することができる（にごり具合の調査）

- ・水際の土と水を採取し、かき混ぜることで、マイクロプラスチックについて調査できる。秋篠川の源流は、大淵池なので、プラゴミの影響があるかもしれない。そこから、海ゴミの学習に発展させることができる。

- ・秋篠川は、平城京建設時につくられ、運河として利用されていた。秋篠川の歴史的側面からアプローチすることで関心を高める子どももいるだろう。

③秋篠川に関わる人々との出会い

- ・秋篠川源流を愛し育てる会が活動しているので、一緒に活動したり、GTとして招いたりすることで、人物を通じた学びから、「自分も秋篠川のために何かやってみたい」という思いを引き出すことができるだろう。

2. 安全なくらしを守る（小学3年生社会科・総合：加藤さん）

(1) 単元計画の概要

直前の学習として、火災を防ぐ消防署の学習を終えている。

①みんなが暮らしやすい町って、どんな町だろう

事故がない町、火事がない町

②みんなが暮らしやすい町にするために働いている警察官

- ・警察官にどんな仕事をされているか、インタビューを行う。
- ・警察官の仕事にどんな人が協力しているだろうか。ボランティアに視点をあてる。

見守り隊、交通安全教室

③そもそもどのようなルールがあるだろうか

歩きスマホはだめ 自転車の条例

④みんなが安全に暮らせるまちにするために私たちができることって何だろう。

交通ルールの見直し 安全マップづくり

(2) 本単元構想に関する意見交流

- ・みんなが暮らしやすい町と尋ねるよりも、「どんな町なら住んでみたいかな・」と尋ねる方が、児童

が自分事として考えるようになるのではないか。

- ・社会科であるので、警察官に仕事をインタビューするだけでは、教科の目標を達成できない。まず、意図的、計画的にシステムとして捉えさせる必要がある。その上で、誇りを持って取り組んでいる警察官へのインタビューによって、システム以上の働きをされているところや、願いや苦勞、努力などを聞き出すことが大切。
- ・子どもにとって、警察は距離がある。落とし物を拾って交番に届けた経験などを子どもの中から引き出して、身近な存在であることを確認させる必要がある。
- ・警察官は組織の一員という自覚の元で町の安全に取り組んでいるが、見守り隊のようなボランティアの方々はどのような思いで活動されているのだろうか。ここを知ることが、学習後の児童の取り組みたい行動化に影響を与える。
- ・警察官と見守り隊の方を一緒に教室にお招きし、対談してもらってはどうか。
- ・3年生にできることは「あいさつ」だと思う。あいさつが防犯の役割を担っている。

3. プラスチックの使用について考える（中1総合的な学習の時間：稲富さん）

（1）単元展開の概要

①日常生活におけるプラスチック利用の現状把握（ペットボトル、ビニール袋など）

なぜ、たくさん使うんだろう？

→ 軽い、丈夫、便利、などプラスチックのよさの確認

②しかし、近年、ビニール袋が有料化された

なぜ、非常に便利なビニール袋が有料になったんだろう？ 使用量をへらすため。

③プラスチックの大量使用によって起こっている問題の把握

年間約800万トンのプラスチックごみが海に流れている。たくさん海の生物の死。

プラスチックゴミがいっぱい。処理に二酸化炭素も発生する。

④プラスチックゴミを減らすために私たちにできることを考えよう。

エコバックを使う マイボトル・マイ箸を使う。 洗って分別してリサイクルに

（2）本単元構想に関する意見交流

- ・海洋プラスチックの問題については、動画も多いので利用するといい。
- ・自分たちがどれだけプラスチック包装などを使っているか「実感」させるため、一週間分のプラスチックゴミを集めて、量で示すのが効果的。
- ・どんなプラスチックゴミが多いのかがわかると、購入時に考えるようになるかもしれない。
- ・教室のプラゴミをゼロにしようと、児童と一緒に取り組んだことがあるが、ゼロにするのは無理だった。理想的だが、具体的行動を考えるとできなくなる。
- ・プラゴミ問題は日本だけの問題ではないので、海外のプラゴミ問題やプラゴミ減少対策などと比較してもいいのでは。
- ・プラスチック＝悪者という考え方にならないようにすべきだろう。どうしてもプラスチックが必要とされる利用場面があるだろう。
- ・どんなプラスチックなら使用してもいいのかを考えさせることが、日常生活での行動の変容につながる（考え方を構築するので）。考える場面を設定することが大切。

使用を減らすために、これは使わない。こういう使い方しているものは購入しない。

- 1回しか使わない利用の仕方と繰り返し利用するもので区別するのもいい。長く使うものという区別の仕方もいいのでは。
- 「マイ箸」は林業家の副収入源であり、森林の更新にとっても間伐材の利用は重要だ。

2021年度 第8回奈良ESD連続セミナー 概要報告

奈良教育大学 大西浩明・中澤静男

- ◇開催日時 11月11日(木) 19時～21時
- ◇方法 ZOOMを用いたオンライン研修
- ◇参加者数 31名
- ◇内容 現職教員・大学生の単元構想案の相互検討

【セッション1】大西浩明

1. 安曇野の水 (小学4年生社会科：根本さん)

(1) 単元展開の概要

- ・今でこそ米づくりがさかんな長野県安曇野市
- ・もとは、水が少なく農業に向いていない土地だった
- ・拾ヶ堰(じっかぜき)という用水路を作った等々力孫一郎を取り上げたい。
- ・工事に反対する人に襲われても、莫大な借金を抱えそうになってもやり遂げた信念を感じさせたい。
- ・よりよい未来を創りたいと生きた孫一郎の生きざまに共感させたい。

(2) 本単元構想に関する意見交流

- ・授業者が、「どうしてもこの人物を取り上げたい」という熱い思いを持っていることは重要。
- ・その人物の、どこに焦点をあてて学んでいくのかをもう少し明確にするとよい。
- ・「調べる」段階で、何を、どのように調べさせるのか、何が分かればよいかを構想図に表現してほしい。
- ・「ふかめる」ための問いは、「なぜ拾ヶ堰をつくろうと思ったのだろうか？」では、深まらないと思う。「なぜそこまでして拾ヶ堰をつくったのだろうか？」のようにすることで、孫一郎の思いや人々の願いに迫ることができるのではないか。
- ・すべて人力で、多くの人に関わった大工事であったことを実感させたい。
- ・農家の人たちに、拾ヶ堰に対する思いをインタビューさせてもよい。
- ・最後に、拾ヶ堰のすごさを伝えるだけではもったいない。
→ 用水路そのものに目を向けて、生き物調査をすると広がりがあるかも。

2. 作文教材 (小学6年生国語科：岩城君)

★文章を論理的に構想して作文し、相手に伝わりやすくすることが苦手な子どもが多い。

(1) 単元展開の概要

ネタは 例えばカレー

1次 先生が実際にカレーを持ってきて美味しそうに食べ、児童に食べたいと思わせる。

(ワクワクさせること・児童に興味を持たせ、動機づけを行う)

最終的には自分の好きな人に美味しいカレーを作ってあげる(学習の見通しを立てる)

2次 先生の食べていた美味しいカレーの作り方を学ぶ(論じ方、書き方を同じネタで学ぶ)

3次 2次で培った力を使って自分のお気に入りのカレーを作る(自分で学んだことを使ってみる)

未来次 自分の好きな人にカレーを作ってあげるにはどのようにすればよいか考える

・家庭科ではなく、国語科なので、カレー作りのところを作文にする。ネタは児童の実態に即した形にしていくために「カレー」ではなく、「今年の運動会がなくなったこと」などに注目させていけたら

いいなと考えている。

(2) 本単元構想に関する意見交流

- ・カレーや運動会を全員が肯定的に捉えるだろうか。カレーが嫌いな子、運動会がなくなってホッとしている子にとっては、スタート時点でワクワクできないかも。
- ・作文はもともと論じるものではない。→ 意見文として書くということではいいのでは。
- ・「豊かに書く」ためには、その様子を具体的に表現するという事ではないのか。
- ・お互いに書いたものを交流して、評価し合う時間も大切だと思う。
「すごく分かりやすい」「とてもよく分かる」表現方法をシェアできるようにしたい。
- ・未来次の「自分の好きな人に・・・」という相手意識を持たせることでワクワクできると思う。
ただ、それがカレーかと言われたら違うような気がして。他に何かインパクトのあるものがないか。

3. 防災について考える (小学校高学年・総合：佐藤さん)

(1) 単元展開の概要

- ・地震の怖さを知り、被災した時の行動を想定することができる。また、自分たちの防災意識を高め、それを行動に移すことができるようにする。
- ・学校での避難方法、家庭での防災対策、避難所は本当の安全か
- ・避難訓練が学校行事化していて真剣ではない → 自分事にさせたい
- ・地震発生当時の映像を見る 体験した人の話を聞く
- ・学校で地震が起きたときは？
- ・家庭で地震が起きたときは？ 家庭での防災対策についてチェックしてみる
- ・避難所はどこ？ その避難所は安全？ 学校の体育館や地域の避難所を調べてみる
不備があれば、校長先生や地域の管理者に伝える活動

(2) 本単元構想に関する意見交流

- ・防災の学習で、災害の怖さを伝えてから始まるのはどうなのか。
→ 精神的にダメージを負う子もいるのでは。
- ・それより、公園にある「かまどベンチ」や「防災トイレ」などを例に、興味関心を引き付けて学習に入る方がよいと思う。
- ・家庭での防災チェックも、したくてもできない家庭もあるはず。
- ・経験者に話を聞くのも、「避難所で〇〇したらうまくいった」という話など、よかった例を出してもらおうと、安心感を与えるような前向きな防災の学びになるように思う。
- ・もちろん、どこかでは災害の事実や怖さを伝える場面も必要ではある。
それが、「後世に伝えていかなければならない」という気づきにつながる。

【セッション2】中澤 静男

1. 環境を守る私たち (小学5年生社会科・総合：奈良市立平城西小学校・樋口先生)

(1) 単元計画の概要

①教科書を用いて京都市の鴨川での取り組みを学ぶ

- ・ボランティアの活動や行政の取り組みで水質浄化できた鴨川

②校区を流れる秋篠川

- ・児童の関心は低い

・秋篠川そのものと秋篠川に関わって活動されている人々への関心を高めたい

③秋篠川には何が集まってくるだろう

④秋篠川をきれいにするために自分にできることを考えよう。

(2) 本単元構想に関する意見交流

①もともと秋篠川への関心が低い児童の関心を高めるために

・ただ、秋篠川沿いを散歩するだけでは高まらない。

②秋篠川と児童の距離を小さくする手立て

・水質調査 生物指標調査と化学調査（パックテスト）

パックテストの方が手軽だが、その時の水質しか反映しない。生物指標調査はやり方さえ身に付ければ、児童でも簡単に繰り返しできる。その時の水質だけでなく、全体的な水質の程度を反映した結果を得ることができる。

・透視度計

ペットボトルを使って簡単な透視度計を作成することができる（にごり具合の調査）

・水際の土と水を採取し、かき混ぜることで、マイクロプラスチックについて調査できる。秋篠川の源流は、大淵池なので、プラゴミの影響があるかもしれない。そこから、海ゴミの学習に発展させることができる。

・秋篠川は、平城京建設時につくられ、運河として利用されていた。秋篠川の歴史的側面からアプローチすることで関心を高める子どももいるだろう。

③秋篠川に関わる人々との出会い

・秋篠川源流を愛し育てる会が活動しているので、一緒に活動したり、GTとして招いたりすることで、人物を通じた学びから、「自分も秋篠川のために何かやってみたい」という思いを引き出すことができるだろう。

2. 安全なくらしを守る（小学3年生社会科・総合：加藤さん）

(1) 単元計画の概要

直前の学習として、火災を防ぐ消防署の学習を終えている。

①みんなが暮らしやすい町って、どんな町だろう

事故がない町、火事がない町

②みんなが暮らしやすい町にするために働いている警察官

・警察官にどんな仕事をされているか、インタビューを行う。

・警察官の仕事にどんな人が協力しているだろうか。ボランティアに視点をあてる。

見守り隊、交通安全教室

③そもそもどのようなルールがあるだろうか

歩きスマホはだめ 自転車の条例

④みんなが安全に暮らせるまちにするために私たちができることって何だろう。

交通ルールの見直し 安全マップづくり

(2) 本単元構想に関する意見交流

・みんなが暮らしやすい町と尋ねるよりも、「どんな町なら住んでみたいかな・」と尋ねる方が、児童

が自分事として考えるようになるのではないか。

- ・社会科であるので、警察官に仕事をインタビューするだけでは、教科の目標を達成できない。まず、意図的、計画的にシステムとして捉えさせる必要がある。その上で、誇りを持って取り組んでいる警察官へのインタビューによって、システム以上の働きをされているところや、願いや苦勞、努力などを聞き出すことが大切。
- ・子どもにとって、警察は距離がある。落とし物を拾って交番に届けた経験などを子どもの中から引き出して、身近な存在であることを確認させる必要がある。
- ・警察官は組織の一員という自覚の元で町の安全に取り組んでいるが、見守り隊のようなボランティアの方々はどのような思いで活動されているのだろうか。ここを知ることが、学習後の児童の取り組みたい行動化に影響を与える。
- ・警察官と見守り隊の方を一緒に教室にお招きし、対談してもらってはどうか。
- ・3年生にできることは「あいさつ」だと思う。あいさつが防犯の役割を担っている。

3. プラスチックの使用について考える（中1 総合的な学習の時間：稲富さん）

（1）単元展開の概要

①日常生活におけるプラスチック利用の現状把握（ペットボトル、ビニール袋など）

なぜ、たくさん使うんだろう？

→ 軽い、丈夫、便利、などプラスチックのよさの確認

②しかし、近年、ビニール袋が有料化された

なぜ、非常に便利なビニール袋が有料になったんだろう？ 使用量をへらすため。

③プラスチックの大量使用によって起こっている問題の把握

年間約 800 万トンのプラスチックごみが海に流れている。たくさん海の生物の死。

プラスチックゴミがいっぱい。処理に二酸化炭素も発生する。

④プラスチックゴミを減らすために私たちにできることを考えよう。

エコバックを使う マイボトル・マイ箸を使う。 洗って分別してリサイクルに

（2）本単元構想に関する意見交流

- ・海洋プラスチックの問題については、動画も多いので利用するといい。
- ・自分たちがどれだけプラスチック包装などを使っているか「実感」させるため、一週間分のプラスチックゴミを集めて、量で示すのが効果的。
- ・どんなプラスチックゴミが多いのかがわかると、購入時に考えるようになるかもしれない。
- ・教室のプラゴミをゼロにしようと、児童と一緒に取り組んだことがあるが、ゼロにするのは無理だった。理想的だが、具体的行動を考えるとできなくなる。
- ・プラゴミ問題は日本だけの問題ではないので、海外のプラゴミ問題やプラゴミ減少対策などと比較してもいいのでは。
- ・プラスチック＝悪者という考え方にならないようにすべきだろう。どうしてもプラスチックが必要とされる利用場面があるだろう。
- ・どんなプラスチックなら使用してもいいのかを考えさせることが、日常生活での行動の変容につながる（考え方を構築するので）。考える場面を設定することが大切。

使用を減らすために、これは使わない。こういう使い方しているものは購入しない。

- 1回しか使わない利用の仕方と繰り返し利用するもので区別するのもいい。長く使うものという区別の仕方もいいのでは。
- 「マイ箸」は林業家の副収入源であり、森林の更新にとっても間伐材の利用は重要だ。

2021年度 第9回奈良ESD連続セミナー 概要報告

◇実施日時 2022年1月6日(木) 19時～21時30分

◇方法 ZOOMを用いたオンライン

◇参加者数 19人

◇内容 現職教員のESD学習指導案の検討

【第1セッション】奈良教育大学 中澤 静男

1. 「世界遺産のある奈良に住んでいる私たち～古都奈良の文化財の魅力～」第5学年：総合
奈良市立伏見小学校：梁川千尋、尾崎ひとみ

(1) 単元目標

- ・未来に遺したい『世界遺産』の魅力进行调查し、考える活動を通して、大切な文化財であることを理解する。(知識及び技能)
- ・調べたことをタブレットのスライドにまとめ、聞き手に分かりやすく表現する。(思考・判断・表現)
- ・世界遺産のある奈良に住んでいることに誇りを持ち、今後自分が積極的に調べた遺産の良さを発信する意欲と態度を持つ。(主体的に学習に取り組む態度)

(2) 単元展開の概要

①古都奈良の文化財の概要を知る。「古都奈良の文化財の魅力ってなんだろう？」

②調べる。古都奈良の文化財から1つ選んで調べ、スライドを作成する。

③オンライン講座：春日山原始林への理解を深める

講師：春日山原始林を未来へつなぐ会事務局長 杉山氏

④現地学習 春日山原始林・春日大社・元興寺・興福寺でのグループ見学後、全員で東大寺を見学

⑤古都奈良の文化財の魅力についての発表

⑥大牟田市の小学校との交流

⑦文化財を受け継いでいくために自分にできることを考える

⑧伏見地区で次世代に残したいものを書いて、個人でスライドを作成する。

(3) 意見交流

①地元のことをよく知る教育的効果とは何か

古都奈良の文化財についてグループで調べたことと、オンライン講座での話の内容において、「大切なものとは何か」といったイメージでしかなかったものが、重ねることであらためてきたのではない。それをオンラインでの話し合いを通じてスライドを作成する上での意見交流において、友達と共有できたことが、満足感や充実感(学んでよかった)につながった。

②スライド作成時の指導のポイント i

何を伝えたいのかを明確にすることと、4年生に伝わる伝え方を考えるよう指導した。その後で、スライドに掲載する資料や写真を選択させた。この順序が逆になると、伝えたいことのポイントがぼやける。

③スライド作成時の指導のポイント ii

調べる内容を自由に選択させたので、学びが主体的になった反面、うわべだけの理解に終わることが懸念された。うわべだけの理解にとどまっていたり、難しい言葉をそのまま使っていたりした場合は、教員側が積極的に質問して、もっと調べる必要があることに気づかせるようにした。

2. 「梅干作りから地産地消を考えよう！」技術・家庭科（家庭分野）

平群町立平群中学校 井阪 愛子

（1）単元の目標

- 食品や調理用具等の安全と衛生に留意した料理や材料に適した加熱調理の仕方について理解しているとともに、加工食品について理解し、地域の食材を用いた基礎的な日常食の調理が適切にできる。
(知識及び技能)
- 市販の梅干と手作りの梅干の比較から問題を見出し、「地産地消」が「消費者」「生産者」「環境」「持続可能な社会」にとってどのようなメリットがあるのか考察し、理論的に表現できる。
(思考力・判断力・表現力等)
- 「地産地消」の視点から、よりよい生活の実現に向けて、どのように生活を工夫し、実践していくのかまとめることができる。
(主体的に学習に取り組む態度)

（2）単元展開の概要

- ①用務員の方から「梅干しづくり」を依頼されたことを生徒に伝え、意欲化を図る。
- ②作り方や材料を調べる 「市販されている梅干しと調べた材料との違いに気づかせる」
市販されている梅干しに使われている添加物
- ③地域のボランティアと一緒に梅干しづくりを体験する
手作りが「基本」であることを実感させたい
地域ボランティアとの交流を通じて「地産地消」のよさに気づかせたい
- ④梅干しを使った調理実習
自分たちでつくった梅干しだから「安全」「安心」
調理技術のスキルアップ
- ⑤地産地消のよさを考える
「四方よし」（消費者・生産者・環境・持続可能な社会）それぞれの立場で考えることができるように、ジグソー法を用いて意見交流を深める。
- ⑥振り返り
地元産の食材や伝統的な加工食品を調べる

（3）意見交流

- ①「安全」と「安心」について
安心は感覚的なもの。安全だけれども安心できないものがある。食べたときに感じたものを交流することで、「安心」の意味がつかめてくる。
- ②4つのポイントの抽出について
生産者、消費者、地球環境、持続可能な開発に担い手 の4つのポイントを生徒側から出せるのは難しい。このポイントについては教員が説明し、発展段階で、他の地元産品について、聞き取り調査等を行い、4つのポイントで整理する学習を行うことで、具体的な理解を促す。

3. 「伝統的な工業がさかんな地域 ～吉野の和紙から奈良の伝統工業～」第4学年社会科

平群町立平群北小学校 中澤 哲也

（1）単元の目標

- 副読本や関係資料から、伝統的な工業がさかんになるための3つの要因（環境面・技術面・社会面）

に沿って必要な情報を読み取り、理解することができる。(知識及び技能)

○3つの要因のそれぞれの役割について考えることを通して、伝統的な工業が盛んになるために3つの要因は相互に関連し合っていることを考え、表現することができる。(思考力・判断力・表現力等)

○3つの要因の大切さに気付くとともに、それらの要因を持続させていくための地域・人の在り方について問い続けることができる。(学びに向かう力・人間性等)

(2) 単元展開の概要

①奈良県内の伝統工業のクイズ

和紙で作られたグローブを提示することで吉野町の和紙づくりへの関心を高める。

②吉野町で和紙作りが行われてきた理由を調べる

地形・自然環境 吉野川と竜田川を比べる

③紙すき体験 手漉きだけでなく、最近は機械でもつくられるようになっていくことを伝える

④和紙作り職人について 映像資料：和紙工房の植浩三氏から読み取る

⑤吉野町の町おこしと和紙作りの関係を調べる

⑥伝統工業の継承に必要な要素を抽出する

自然環境、職人・技術、行政・町おこし、私たち・消費者の関係を考える

⑦洋紙と和紙を比較し、これからの自分たちの行動と結び付けて考える

「特別な時には和紙を使うことで、応援したい」消費することは応援すること

⑧県内の他の伝統工業について4つの要素で分析する。

(3) 意見交流

①伝統工業の継承に必要な4つの要素

自然環境：美しい水と楮

技術：技術を伝えている職人

社会：和紙作りを町づくりに生かそうとしている行政

和紙を購入する消費者（私たち）

4つ目に「私たち」を入れることで、自分事化が可能となっている。

この4つの要素は、他の地域での学習にも普遍的に用いることができるのではないかな。

②体験的な活動

コロナ禍のために、実際に現地を訪問して見学したりインタビューしたりすることはできなかったが、学校において紙すき体験をしたことで、職人の技術を疑似体験し、教材と児童の距離が縮まったと思われる。コロナ禍においても、できることがあると気づかされた。

【第2セッション】：大西浩明

4. 「～大切にしよう！自分にとっての平和とそれぞれの平和を～」6年総合 平和学習

奈良市立朱雀小学校 中村友弥

(1) 単元展開の概要

どうしても形骸化してしまいがちな平和学習を深く考えさせたい。

子どもは戦争や原爆に対して断片的な知識は持っているが、他人事から脱しきれない。

→ 二人の語り部の方から生の声を聞く

・秋山さん（5歳で被爆された）

・大木さん（奈良市で焼夷弾の被害に遭われた）

当事者でしか語れない言葉の重みに気付くことができた（自分事になっていったきっかけ）

戦争と平和の境界線を考える活動を行う。

「〇〇だったら戦争、〇〇だったら平和。戦争と平和の境界線を考えよう。」

ある女の子の言葉

「うちのお姉ちゃんは部活ですごい頑張っていたのに、コロナのせいで発表する機会がなくなった」

「平和が当たり前と思っていたけど、当たり前じゃないことが戦争なんじゃないか」

今回の成果発表会に参加してくれた女の子たちは、普段そんなに学習に前向きでない子。

それが自ら希望して参加するまで高まったのは、課題を自分事化できたからではないか。

課題として、最後の平和集会は結局教師からの指示だったので、子どもから自主的に「集会をやろう」

という方向にもっていきかけた。きっとできたと思う。

平和のカタチはいろいろあること、戦争をしないことだけが平和ではないこと、日常を脅かすものすべてが戦争につながることなど、身近な問題として捉えられたと思う。

多様性の尊重という点でも大きな成果があったのではないか。

今回の協議から「成果と課題」を整理して追記する。

5. 「これまでの秋篠川、これからの秋篠川」 5年総合

奈良市立平城西小学校 樋口大介

(1) 単元展開の概要

・秋篠川は身近な川であるものの、住んでいる場所によっては通学路として使用しない児童もおり、桜並木を歩いたことがない児童もいる。

・登下校の見守りに関しても通学路によっては、地域の方と出会わない児童もおり、地域で活動する方達の姿を実感しづらい児童もいる。

・「秋篠川源流を愛し育てる会」の方達の活動を中心に地域の方達の努力と活動を感じられるようにしたい。

・地域の「桜まつり」が去年、今年とコロナ禍によって中止になった。

「育てる会」の方で、「あんなに情熱的だったひとなのに…」というような方がいる。

▼子どもに秋篠川の未来の絵を描かせると、人の姿がない。

→ 水の汚れ具合や生き物、川の周り様子など、様々な角度から調べさせたい。

・地域への想いを聞き、自分できることを具体的に考え、行動させたい。

◇上口さんから教えていただいた、ペットボトルで作る簡易透視度計を使って水の汚れを調べる。

学校の前の水はきれいだが、少し下流へ行くと急に汚くなる。

実際に子ども自らが調べて比較することで、「なぜ下流へ行くと汚くなるのか」という課題意識が生まれる。 → 実感的な理解が必要（そのためには外へ出ていくことは必須）

・「秋篠川源流を愛し育てる会」のように外部人材を活用するときは、ただ教えてもらうのではなく、協働的に活動していこうとする横の関係でありたい。

→ 秋篠川を守るために、共に考え、共に活動できるように

・会の方の一番の思い…「活動してくれる若い人を増やしたい」

この思いを受け止められるように、人に焦点をあてた学びになるように、問いを精査する必要あり。

これからの実践になるので、終了後「成果と課題」をまとめ追記する。

6. 「町のすてき もっとしりたい たんけんたい」 2年生活

奈良市立朱雀小学校 本多雄大

(1) 単元展開の概要

- ・夏の町探検では、
「安全に配慮した道路がある」「車やバイクが通れない道がある」安全面に関すること
「コープがある」「パン屋さんがある」飲食に関すること
「ABC公園がある」「街区公園がある」公園に関すること など多くの朱雀の特徴が見つかった。
- ・建物や事柄を踏まえて町探検のルートを決定する。
- ・公園が最も出てくることが予想されるので、公園を中心としたルートを探検する。
 - 朱雀のよさ、「すてき」を見つけさせたい。
 - 保護者や地域へのインタビューによって、「すてき」を見つけるきっかけを作りたい。
- ・朱雀の町の良さは、世代によって様々な意見があることや、学校行事や地域行事はたくさんの人がそれぞれの立場で力を合わせて取り組んでいることを実感させたい。

(2) 意見交流

- ・生活科の目標、内容をクリアしているか、明確にする必要がある。
- ・子どもの変容について、
 - ・公園に対する捉え方が変わった。(〇〇があるだけでなく、人の営みにも目向くようになった)
 - ・行ったことがない公園が身近になった
 - ・町のよさに気付き、言えるようになった
- ・生活科では「気付き」が大切。その気付きを交流することで新たな気付きにしたり、次の活動への意欲につなげたりしたい。そのためには、活動したら交流する場を保証することが大切ではないだろうか。
 - 気付きの質を高めるということ そこが少し足りないのでは。
(比較・関連・総合して思考する基礎を培う)

2021年度 第10回奈良ESD連続セミナー 概要報告

奈良教育大学 大西 浩明・中澤 静男
大分大学 河野 晋也

- ◇開催日時 2022年1月20日(木) 19時～21時30分
- ◇方法 ZOOMを用いたオンライン研修
- ◇参加者数 36名
(大学生・ESD連続セミナー受講現職教員、ESDサポーター受講者等)
- ◇内容 学生が作成したESD学習指導計画の相互検討会

【第1セッション】

(1)「広陵町の未来」中学校3年生総合的な学習の時間 国語教育専修 3回生 杉本朋美さん

【概要】

現状：町に関心のある人が少ない。

大阪に通勤・通学するのに便利な町という認識で、選んで住んでいる方が多い。

世代交代もなく、子どもは他所に出ていってしまい、そのまま高齢化していくと思われる。

ゴール：自分の生活と広陵町のつながりを考える

町の魅力に気がついていない。授業で取り上げることで気づかせたい。

地域への誇りを持つことが、定住につながるのではないかな。

方法：①他の町と比較して、広陵町の独自性に気づかせる。

②フィールドワークして体感的に捉えさせる。

③中学2年生なので、職場体験と連動する方法もある。例えば、地場産業である靴下製造企業の方をGTとして招聘する。

導入について

・町役場の方をGTとして招聘し、役場としての取り組みを紹介していただく

・広陵元気プランの紹介：6つの政策目標

→ 地域の一員であることを意識させるために、竹取公園の魅力向上計画に取り組みさせる
地域住民にインタビューして、住民主体の整備計画をつくる。

【意見交流】

・行政は、取り組み紹介を中学生などにしたがっている。また、中学生からのアイデアを求めているので、遠慮せずに自治体と連携した方がいい。

・6つの政策目標のそれぞれを担当する役場の方を招聘し、それに関心のある中学生とグループディスカッションするなど、もっともっと活用した方が、お互いにとってよい。

(2)「天皇中心の国づくり」小学校6年生社会科 社会科教育専修 3回生 長滝谷幸子さん

【概要】

竹之内街道の教材開発

・日本最古の官道 難波宮と飛鳥をつないだ

仏教もここを通して飛鳥に伝えられたはず・周囲には寺院が多数ある

聖徳太子ゆかりの施設が残っている

まず、教科書を用いて社会科の学習内容をおさえる

①発問・課題「中国の文化は、どこを通過して都に運ばれたのだろうか」

②グループでの調べ学習、地図を見てルートを考える

③最古の官道である竹之内街道の紹介とフィールドワーク

竹之内街道の現状：昔の町並みはあまり残っていない。堺市あたりには整備されている。

④国づくりにおける「道」のもつ役割を考える 外交・信仰（宗教）・経済

【意見交流】

町の成立、継続、発展などを交通の面から考えさせるところがおもしろい。

少し昔の面影が残っているところと、大きな道路になっているところを歩いて比較し、文化財の保全と経済発展のバランスについて考えさせるのも良いのでは。

(3)「誰一人取り残さないーパラリンピック調査隊ー」小学6年生総合的な学習の時間

特別支援教育専修 3回生 山中彩加さん

【概要】

障がい者スポーツの目的

- ・健康や福祉の増進
- ・障がい者のスポーツではなく、誰とでも公平にできるスポーツ

パラリンピックとオリンピックの違い

- ・オリンピックは国と国のメダル争い
- ・パラリンピックは障がい者のオリンピックではない。国は関係ない。

個人が障害を乗り越え、人間の限界に挑んでいるところに感動がある。

パラリンピックでは選手個人に対して応援をしている。本来的なグローバル・パートナーシップがある。

- ・障がい者スポーツを体験することで、自らが持つ無意識の偏見に気づかせる
- ・社会の中にあるバリアは実は心の中にある。日常生活において、必要なお手伝いが想像でき、行動できるようにしたい。

【第2セッション】

①「水を長生きさせよう」小学校4年総合的な学習の時間

保健体育専修3回生 田中 涼子さん

【概要】

社会科の学習と連動させて行う。

まず生活における水の利用から使用状況を把握させ、使用量の多さを実感させて意欲を持たせる。

放課中に教師が手洗い場にカメラを置き、子どもの手洗いの様子を撮影しておく。

→ あとでもう一度撮影して比較させる。「改善しなければ！」と実感させる

『水の博士になろう』（課題1） 5グループに分けて調べ学習 ポスター作成 発表会

「今わたしたちにできることは？」 『水を長生きさせよう』（課題2）

生活の中でできることを自分の課題として設定する。

(例) コップに水を汲んで歯みがき約 0.6ℓ 流しっぱなしだと約 6ℓ

シャワーをこまめに止めると約 12ℓ 流しっぱなしだと約 36ℓ など

1週間実践して、を参照し、10につき1ポイントとして節水の成果を計算し、記録しておく。

【意見交流】

1週間ではなかなか結果が見えにくい。もう少し期限を延ばしたい。

ワークシートをどう作るかが大事になってくる。

節水した量をポイントにして数値化することで見えてくることもある。

実践後のまとめとして発表会だけで終わっては、一過性のものになってしまう。

→ 実践の結果を交流して話し合う必要があるのでは。

まだ節水できそうな場面、もっと家でできる工夫など、新たな気づきをさせたい。

ここでの交流、共有化が、その後の行動化の継続につながると思う。

②「安曇野の水 一等々力孫一郎の意志」小学校4年社会科 社会科専修3回生 根本 優さん

【概要】

「なぜ等々力孫一郎が人々のために、命の危険にさらされながらも最後まで意志を貫き通したのか」副読本には載っているが、もっと多くの人に知ってほしい。

「なぜ難しい工事だったにもかかわらず、わずか3ヶ月で完成させることができたのだろう」

「なぜ等々力孫一郎はそこまでして拾ヶ堰を完成させたのだろう」

水不足で人々は貧しい暮らしをしていた。

人々の生活が豊かになってほしいという強い思いがあったのかな。

拾ヶ堰を守っている組合員、拾ヶ堰を使っている人へインタビューをする。

200年経っても拾ヶ堰ができたおかげでたくさんのお米を作ることができていることを実感する。

「拾ヶ堰を守っていくために、私たちにできることは何だろう」

孫一郎の願いを受け継いで、拾ヶ堰をこれからも守っていくことで、地域で守れるものは何かを考える。米作りをする上で水が大切であることや観光が地域に与える影響について触れる。

【意見交流】

最後に作るパンフレットは、保護者だけでなく図書館に置いてもらうなど多くの人に伝えたい。

郷土史を調べることで、孫一郎の様々な功績や違った側面が見えてくるかも。

どうしてもこの人物を取り上げたいという思いがあふれている。→ 授業づくりのエネルギー

拾ヶ堰をどうしていくかも大事だが、安曇野という地域をどうしていくかという視点でもいい。

地域の課題をしっかりと捉えたうえでパンフレットづくりをさせたい。

パンフレットには、孫一郎のすごさだけではなく、どんなことを呼びかけたいかを明確に。

拾ヶ堰が観光地化しているということは、ごみやマナーなどの問題もあるのでは？

③「春日大社の凄さってなに？」中学1年総合的な学習の時間 社会科専修3回生 岡本 真美さん

【概要】

春日大社にまつわるクロスワードクイズを行い、春日大社に対する理解を深める。

ゲストティーチャーを招き春日講についての講話を聞く。

春日大社の凄さってどこにあるのかということを考えてみる。

→ 春日大社の方をゲストティーチャーに招き、フィールドワークをしながら話を聞く。

さらに調べる。想定されるテーマ：鹿との共生、春日講、地域での自然保全、春日大社の行事など

→ 発表会で共有し、その凄さを後世に伝えていくための課題について考える。

課題解決のための支援方法について考える。

【意見交流】

導入のクロスワードクイズがいい。ぜひ作ってみてほしい。

ゲストティーチャーにいちばん語ってほしいことは？

- 春日講なら、ずっと続いていることの大切さと高齢化による担い手不足のこと
その解決方法としての具体策があるのかどうか

初めて知った春日講をなんとしても授業で取り上げたいという思いが、授業づくりのエネルギー
地域にとって「講」は、昔は地域の人同士をつなぐとても大切な役割があった。

「講」によってコミュニティが成り立っていた側面もある。

- 地域内のつながりの希薄さを考えたり、地域の行事に積極的に参加したりすることを目指せば

④「地域全体で防災意識を高めよう ～本当にその対策で安心？～」小学校5年総合的な学習の時間

音楽専修 3 回生 佐藤ころさん

【概要】

被災した時の行動を想定することができる。また、自分たちの防災意識を高め、それを行動に移すことができるようにする。

学校での避難方法、家庭での防災対策、避難所は本当に安全か

避難訓練が学校行事化していて真剣ではない → 自分事にさせたい

様々な場所で地震が起きたとき、どのように身を守るかを考える。

自分の家での防災対策を考える。(チェックリストを用いて) 調べてきたことを交流する。

「本当にその対策で安心なのかな？」 → 避難所に焦点をうつす

学校の避難所としての役割、設備、備品などについて調べる。

他の避難所についても同様に調べ、比較しながら問題点や改善策などをまとめる。

地域の人たちとともに避難所運営ゲーム (HUG) を実施する。

- 「本当にその対策で大丈夫だった？」

地震に対する意識の変化について考え、話し合う。

【意見交流から】

避難所運営ゲームがいい。体験することで得られるものが多いと思う。

地域も巻き込んで行う必要性が出てくる。

様々な「想定外」が体験できるといい。(いろいろな想定外があるはず)

せっかく避難所を体験するのだから、避難所に来る人をどう支えるかを考えてほしい。

援助される側にずっといれば、いつまでも援助する人にはなれない。

援助する側、支えられる人になれるように指導していきたい。

ワークシートやチェックシートを実際に作ってみるといい。

【第3セッション】

①「人と地球にやさしい料理のレシピ本を作ろう！」小学校6年国語

教育学専修 3 回生 岩城雄大さん

【概要】

総合的な学習の時間や家庭科において取り扱ってきた調理方法や SDG s になかった食材選びなどを

もとに、自分の体と地球環境にやさしい料理に関する説明的な文章・レシピを書き、内容を交流する。持続可能な社会を創るために自分たちはどの食材を選べばよいのかということ調べ、考えるという、ESD と国語科とを組み合わせた授業を構想した。

【意見交流】

- ・レシピを創るという発想が面白く、子どもたちも喜んで学習できそう。
- ・レシピを考えて、書き起こすという活動がなかなか難しいかもしれない。どのような食材や料理をとりあげるかは、子どもたちの自主性に任せつつ、その方向性についてはある程度設定してあげたり、学級で話しあう中で方向付けられるといいなと思う。
- ・これを国語科として行う意義を考えると、その書き方に着目した指導をするとよいのではないかと。自分や地球にやさしい食材と料理が考えられたら OK とするだけでなく、「なぜ環境にやさしいのか」という説明（背景）はなかなか文章で説明するのが難しいので、そのあたりをどうわかりやすく表現できているのか、ということなどに着目して「国語科としての ESD」を強調するといいいかな、と思います。

②「より少ないプラスチックで生活するために自分たちにできることを考えよう」

中学校1年総合的な学習の時間 英語教育専修 3回生 稲富麻莉さん

【概要】

2020年7月からレジ袋が全国で有料化されたことを取り上げ、その背景ある環境汚染の問題（海洋プラスチック、人体への悪影響など）に迫る。このまま莫大な量のプラスチックを使い続けてはいけないということを実感させるとともに、我々の生活が様々なプラスチックに囲まれて暮らしていることを踏まえ、プラスチック製品の使い方・捨て方を見直し、プラスチックごみを減らすために自分たちにできることを考えて行動を促す。

【意見交流】

- ・問答無用でプラスチックを削減すべきだ、とすすめるのではなく、まずプラスチックの良さに目を向け、安価で軽く丈夫という利便性や日常生活の中でたくさん使われていることを抑えることが良いと思った。
- ・レジ袋の有料化がどれくらいの効果があるのかはなかなかわからない、特に子どもには効果が見えにくい。でも、多くの人に「プラスチックごみが多くてまずい」ということを気付かせる上では大きな効果があったように思う。実際の脱炭素への貢献だけでなく、人の意識変容にも貢献しているのではないかと思う。
- ・どのように動機づけするのかという点で、工夫できそう。どうしてもプラスチックを減らす、ごみを減らすということがなかなか実感がわきにくい、効果が見えにくいので、うまく意識づけしてあげる必要がある。

③「みんなが暮らしやすい町ってどんな町だろう～安全～」小学校3年生社会科

社会科教育専修初等教育履修分野 3回生 加藤真由さん

【概要】

地域で発生する事件や事故についての学習を警察署の役割を中心に据えて構想した。警察署の役割と地域の人々との連携についてインタビューしたり、自分にできることをまとめた新聞を作成する活動を通して、警察などの機関や地域の人々が協力して安全や暮らしやすい町を形成していることに気づかせたい。

【意見交流】

- ・事故は普段目にしがたいものであるなので、身近になりにくい。学習の導入時でどのように動機づけをすることができるかが大切だと考える。
- ・社会科としての学習と ESD としての学習をどうつなげていくかが大切だと思う。学習者の行動の変容を促すという意味で、自分が何をしていくかという点に着目していく必要がある。「事故に気を付ける」にとどまらず、ESD らしさをどう見せていくかが重要だと思う。

2021年度 第11回奈良ESD連続セミナー 概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

- ◇開催日時 2022年2月10日(木) 19時～21時30分
- ◇方法 ZOOMを用いたオンライン研修
- ◇参加者数 16名
(学生・ESD連続セミナー受講現職教員、ESDサポーター受講者等)
- ◇内容 ESD実践報告の相互検討会

●生物基礎(LHR)「循環型クラスを実現させよう～モロッコとの交流を通して～」

東海大学山形高等学校 川合真澄先生

【実践概要】

年度当初、公益財団法人五井平和財団から声がかかり、「モロッコのエコスクールとSDGs、環境を通じた交流」の依頼があった。

→ 「環境保全」と「国際交流・国際理解」をテーマとしてESDの実践しよう

- ・モロッコのモハメド6世環境保護財団が指定するエコスクールとのビデオレターの交換
授業(生物、LHR)の中で、山形、自分の住む地域、学校の環境、環境を守るための取り組みなどを調べ、まとめる。ビデオを作成に向け、台本作成、撮影、動画編集を生徒のみで行わせ、これをモロッコのエコスクールに送る。

- ・ゲストティーチャーに話を聞く

1) 岩間ひかる氏…モロッコ在住で、サハラ砂漠にエコファームをつくる挑戦をしている

モロッコの文化、環境を学び、理解、自分たちが住む地域と比較する

「日本だけでなく。海外や様々なところに目を向けていきたいと思った。」

「毎日暑く、雨も降らない環境の中で、適した暮らしをしていることがわかった。」

「土地の特徴を活かして、水を利用したり、太陽光発電で電力を生み出していることに驚いた。」

「モロッコやサハラ砂漠の気候や文化、生活について学べた。」

「環境を大切に生活したいと思った。」

「少しでも国際問題に目を向けることが大事だと思った。」

「日本とモロッコの違うところや、共通点もあり、新鮮だった。」

「“モロッコでは降水量が少ない”という気候を生かした太陽光発電が行われている」ことに驚いた、という内容の気付きが多かったため、山形の気候を生かした自然エネルギー・再生可能エネルギーなど、環境に配慮したエネルギー利用を重点に置いて進められるいいきっかけとなった。

2) 佐藤翼氏…イマココ電力(熊本)

山形の自然、気候に合った発電方法や環境保全の例を学ぶ

「地球温暖化という言葉は今まで聞いていたが、深く理解していなかった。地球温暖化が自然にどのような影響をもたらすのかを初めて聞いた内容もあり、理解することができた。」

「自然エネルギーやそれを使った発電について、考えるいい機会になった。エコに対する常識が覆されるようなこともあった。」

「エネルギー一つとっても、様々な問題があり、生活の中でのエネルギーの使用について考えることができた。」

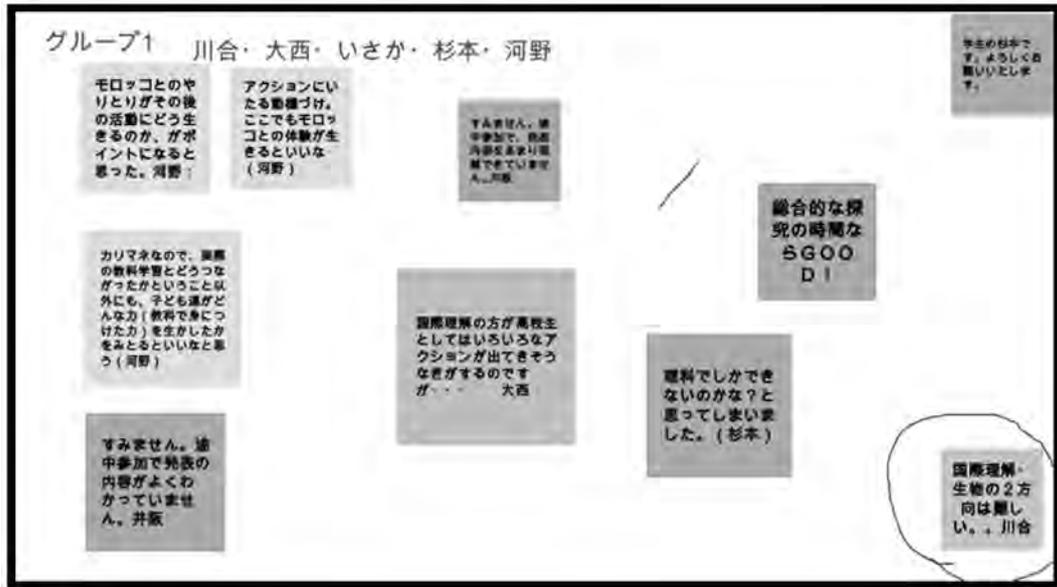
「今後、エネルギーのことを考え、自分にできることを模索していきたい。」

「地球温暖化防止のために気を付けていることはあるが、それ以外にももっと様々な面で気を付けなければならないと感じた。」

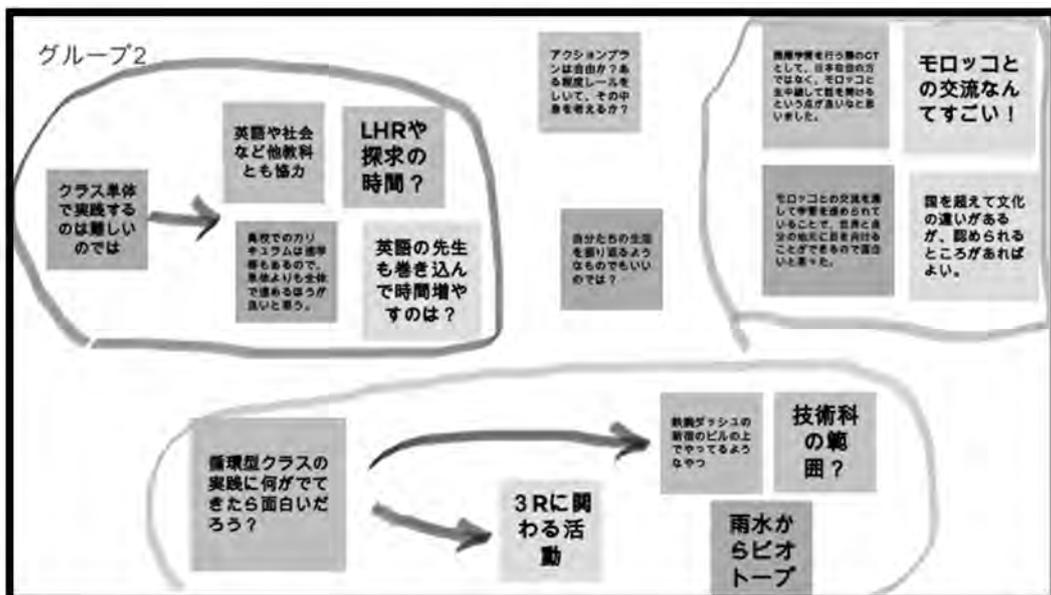
今後、クラスや学校でできる環境保護のアクションプランを作成し、実践させていきたい。

【意見交流】

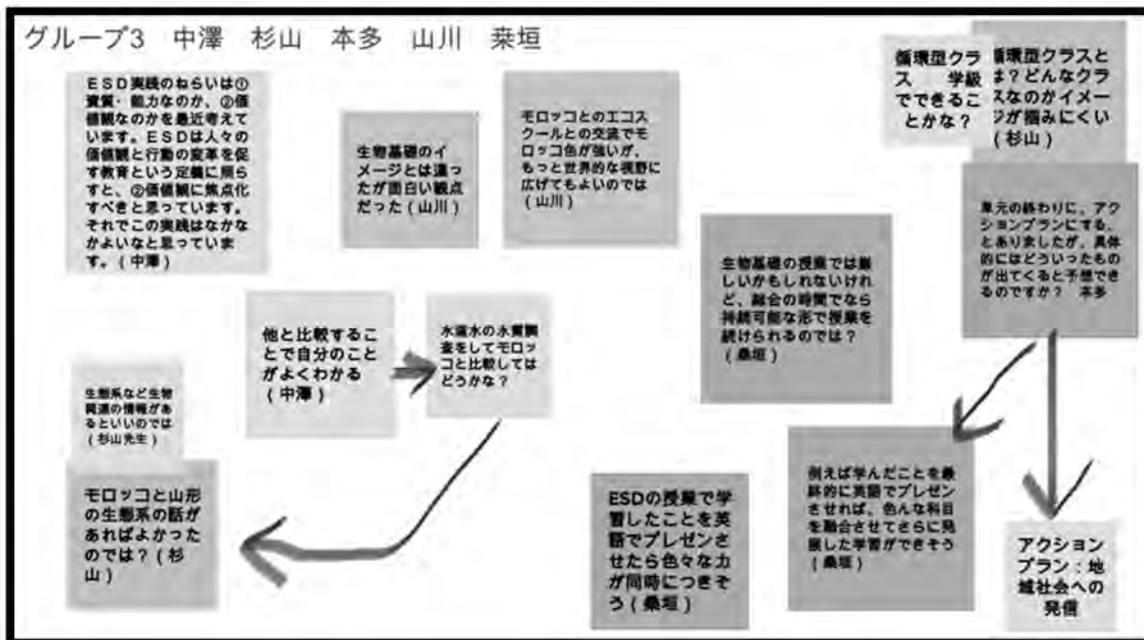
今回初めて Jam Board を使ってグループごとに意見交流し、それを見ながら全体共有した



- ・やはり、生物の授業として進めるのには無理がある。
 - 来年度から始まる総合的な探究の時間の先取りとしてなら理解できる。
- ・カリキュラムマネジメントの観点から、他の教科や学校行事との関連が図れるのではないかと。
 - 地理の教員などは興味をもって来て、学習に組み込むことが可能。
- ・アクションプランとして生徒が考えるものとしては?
 - 高校生だからこそできるものを考えてほしい。身近な生活に関わるもの。



- ・循環型クラスの実践で何ができれば面白いだろう？
 - 3Rに関わる活動、雨水からビオトープ、山形だからできること
- ・モロッコとアクションプランについて交流することで、自分たちの課題をより明確にしてほしい。
- ・その後の行動化と振り返り、また継続した取組については、学年をまたいででもやっていきたい。



- ・モロッコは雨があまり降らないということなので、水質調査の山形との比較をしてみてもは？
- ・モロッコと山形の生態系の比較などがあっても面白いのではないかな。
- ・ESD実践で重要な「価値観の変革」に関連して、なかなかいい実践だと思う。
- ・他の文化を知り、自らの文化について考えるという国際理解の観点からもいい実践と思う。

近畿ESDコンソーシアム・奈良県立万葉文化館 「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 開催要項

1. 目的

ESDを指導できる教員の資質・能力の向上には、継続的な研修を実施する必要がある。近畿ESDコンソーシアム活動の一環として、奈良県立万葉文化館と連携し、「万葉集・明日香村」を中心とした国語科・社会科や総合的な学習の時間等での授業づくりを中心とした連続セミナーを開催する。研究員による万葉集の内容や時代背景等に関する情報提供、大学教員等による単元デザイン作成に関する助言のもと、現職教員および学生が指導案を作成し、授業実践を行うことで、教員としての資質・能力の向上を目的とする。

2. 主催 奈良教育大学・近畿ESDコンソーシアム

3. 会場 奈良県立万葉文化館

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンライン開催とする場合もあり

4. 実施日

- ①令和3年 6月26日(土) 万葉集についての話題提供、館内見学
- ②令和3年 7月10日(土) 講演「飛鳥の歴史講座(仮)」、近隣のフィールドワーク
- ③令和3年10月23日(土) 授業構想案の検討
- ④令和3年12月11日(土) 学習指導案の検討
- ⑤令和4年 1月29日(土) 実践事例の報告会

※ いずれも10時より開催

5. 参加者

近畿ESDコンソーシアム構成団体に所属する教員等
奈良教育大学の学部生・大学院生・教職大学院生

6. 指導者

奈良万葉文化館 指導研究員 井上さやか氏及び研究員
奈良教育大学 准教授 中澤静男
奈良教育大学 特任准教授 米田猛
奈良教育大学 特任准教授 大西浩明

第1回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

- ◇日 時 令和3年6月26日(土) 10時～12時
- ◇場 所 奈良県立万葉文化館
- ◇参加者 村上(平城小)・藏前(真美ヶ丘第一小)・平田(桜井小)
吉岩・川田(学生)
井上・阪口・竹内・辻(万葉文化館)
中澤・米田・大西(奈良教育大) 計12名

◇内 容

1. 事業説明、自己紹介

2. 館内展示見学

井上指導研究員、阪口主任研究員の解説をいただきながら、一般展示室を見学



万葉集に登場する歌の分布地図を前に

万葉集に見える地名は約1200。そのうち大和の地名は約300を数え、大和周辺の諸国の地名が約300を超える。これに、石見を中心とした山陰の諸国、太宰府を中心とした九州の諸国、東歌や防人歌で知られる東国諸国、さらに瀬戸内海航路や北陸道、東海道といった往還の途次の地名が見られる。

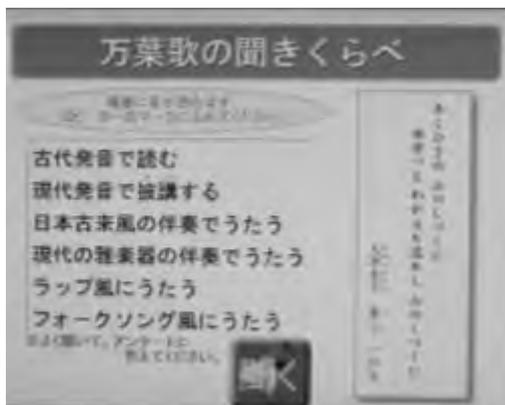
「歌の広場」

市は多くの人々の集まる場所であり、男女の出会いの場でもあり、歌垣が催された。歌の形式は掛け合いであり、挑むように歌いかけるのに対し、しっぺ返しをするように返歌する形で、機知に富んだ歌が好まれた。名を問うことが求婚を意味した。



「万葉歌の聞きくらべ」

万葉歌は文字として残されているが、実際どのように歌ったのか分かっていない。様々な歌い方によって、現代人が万葉歌にいちばん近いと感じるのはどれか、タッチパネル上でアンケートをとっている。





古代の文房具

筆、墨、硯、水滴の筆記用具のほかに、歌などの文字を記す紙や木簡、小刀などである。紙は貴重で、ほとんどは木簡を使用。

材質や形状から、筆は中国製、硯は朝鮮製と思われる。国内で生産されるようになるのは、奈良時代以降と考えられている。

万葉人の筆跡

万葉の歌人たち（聖武天皇、光明皇后、橘諸兄など）が書いた文字が正倉院古文書などに残っている。筆跡にその人の性格や心理が知られるとすれば、残された歌とともにその人柄を偲ぶこともできる。



その他、万葉劇場では、万葉歌人の歌とともに、人形、映像、特殊照明などを駆使した作品を上映しており、「柿本人麻呂」の回を鑑賞した。

授業化に向けては、現代とのつながりを意識させることで、万葉集を身近に感じ、楽しみながら学んでいく題材が多いと感じることができた。

【参加者の感想（現職教員）】

- ・遠足で何度か来ているが、研究員の方に解説していただくことで、今まで知らなかった視点で館内をめぐることができた。万葉集の音や言葉の響きに着目して、楽しみながら子どもたちが学べるように授業展開できたらと思う。
- ・万葉集ものにこだわるとは、どういうことかの広がりを得た気がする。内容だけでなく、人の思い、言葉、音の出し方など、昔のものではなく、現在までつながってきたものだと感じた。この感じたことをどう教材化するのかという点をこれから考えていきたい。
- ・万葉集から読み取れる当時の人の考え方や生活、風俗などが総合的に分かり、充実した研修だった。勤務校周辺を題材とした万葉集の歌もたくさんあるので、活用した授業ができればと考えているが、なかなかできずにいる。しかし、いろんなことを考えたり、学んだりしながら、いつか独自の教材ができたらと思っている。

※次回予定

7月10日（土）10時～12時

フィールドワーク「飛鳥における埋蔵文化財の調査と保存活用の実例」

第2回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

- ◇日 時 令和3年7月10日(土) 10時～12時
◇場 所 奈良県立万葉文化館とその周辺
◇参加者 村上(平城小)・藏前(真美ヶ丘第一小)・石田(佐保川小)
吉岩・川田・大竹(学生)
竹内・阪口・辻(万葉文化館)
中澤・米田・大西(奈良教育大) 計12名

◇内 容 フィールドワーク「飛鳥における埋蔵文化財の調査と保存活用の実例」

飛鳥京跡苑池 → 飛鳥宮跡 → 酒船石 → 亀形石造物 → 飛鳥池工房遺跡

竹内主任研究員に案内していただき、最新の研究成果から得られる様々な知見について詳しく説明していただいた。

飛鳥京跡の保存と活用については、2014年3月に明日香村により策定された「飛鳥宮跡保存活用構想検討報告書」においてその方向性が示され、それをもとに奈良県が2018年3月に「飛鳥宮跡活用基本構想」をまとめている。2030年が飛鳥宮の最初の宮である飛鳥岡本宮造営から1400年にあたることを念頭に、宮跡の活用に取り組むことが求められている。

1. 飛鳥京跡苑池



飛鳥京跡苑池の遺構

国内初の本格庭園とされる飛鳥京跡苑池の発掘調査で、南北二つあった池のうち、北池の西岸が全て石積みの階段状護岸だったことが分かった。南池が少なくとも3つの石造物を有し、断面が皿状になる石貼りの浅い池で、中島や島状の石積みをもつなど観賞用という色彩が強いのに対して、北池は底が深く、底面も平らであるなど実用的な性格が強いものとなっている。とくに南池は庭園全体がわかる最古のもので、位置的にみても、すぐ東側にあった歴代の宮殿と密接に結びついた施設であると考えられている。

2. 飛鳥宮跡

これまで「伝飛鳥板蓋宮跡」として史跡に指定されていたが、これまでの調査・研究によって、舒明天皇の飛鳥岡本宮、皇極天皇の飛鳥板蓋宮、斉明天皇・天智天皇の後飛鳥岡本宮、天武天皇・持統天皇の飛鳥浄御原宮が重層的に営まれた遺構が確認されており、2016年に史跡の追加指定とともに、「飛鳥宮跡」に名称変更された。



飛鳥宮跡

3. 酒船石遺跡



酒船石



亀形石造物

酒船石は江戸時代から多くの仮説が唱えられ、酒を造る設備、あるいは薬などを造るための設備ともされ、諸説あるが定かではない。江戸時代に高取城を築城するため石垣用の石材として利用しようとしたと思われる石割用の石鑿の跡が見られ、上面の造形が欠損している。

亀形石造物は、1992年に酒船石の北の斜面で石垣が発見され、2000年に大規模な発掘が行われ、砂岩でできた湧水設備とそれに続く形で小判形石造物と亀形石造物が発見された。斉明期に最初に造られその後、天武・持統朝まで継続的に使用され、平安時代まで約250年間使用された形跡があり、何らかの天皇祭祀が行われた遺構と推定される。

これらの遺構は石造物を中心として石敷や階段状石垣などによって立体的な空間を作り出している。遺構には多くの砂岩切石が使われており酒船石遺跡は、『日本書紀』にみえる「宮の東の山の石垣」、「両槻宮」との関係が指摘されてきましたが、今回の遺構はそれらをさらに補強するものである。

4. 飛鳥池工房遺跡（万葉文化館内）

金属製品やガラス製品などを作ったときに出るごみが大量に見つかった。その中には富本銭を作ったときの道具やごみが含まれていた。それらを作る炉がたくさんある。そこにごみを沈めて水をきれいにするための「水ため」が、棚田のように連なっている。遺構展示にあたり、本来のものは埋めてその上に展示を行うが、20年も経過すれば表面が劣化してきたり、苔が生えてきたりすることが、どの遺構展示においても問題である。



飛鳥池工房遺跡

【まとめ】

竹内研究員のお話から印象深かったのは、明日香村に多く残る石造物はその用途や意味など分からないことが多く、これまで「古代のロマン」として位置づけられてきたが、この20年ほどで様々な研究の積み重ねから科学的な知見のもとで語られるようになってきたことである。世界遺産登録を目指していることもあり、「よく分からないもの」から、学術的にきちんと価値づけられたものにする必要があるという視点が興味深い。

※次回予定

10月23日（土）10時～12時 授業構想案の検討

第3回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

- ◇日時 令和3年10月23日(土) 10時～12時
◇場所 奈良県立万葉文化館
◇参加者 村上(平城小)・藏前(真美ヶ丘第一小)
川田・東(学生)
井上・阪口(万葉文化館)
米田・大西(奈良教育大) 計8名



◇内容 単元構想案の検討

1. 広陵町立真美ヶ丘第一小学校 藏前拓也先生

「まみいちから伝える竹取物語の魅力 ～万葉集 古典に親しもう～」小学校6年総合

目標 万葉集や古典に親しむ活動から地域にゆかりのある竹取物語について知り、地域に対する愛着を持つとともに、地域をアピールするための行動化を図る。

広陵町ということで以前、国語科の研究大会の会場校として竹取物語を扱っていたが、総合的な学習の時間として再構築したい。

万葉集を紹介し、作者不明の物語が1000年以上も受け継がれているのはなぜか考えさせたい。

竹取物語を読む → 地域のボランティアガイドの方から広陵町についての話を聞く → 讚岐神社と竹取公園の見学 → 竹取物語と万葉集の関わりを調べる → 万葉文化館の阪口さんの出前講座 → 竹取物語の魅力について話し合う → まみいちかぐや姫プロジェクト

現在、すでにプロジェクトの実践段階に入っている。

- ・靴下のデザイン ・和菓子のデザイン ・切手のデザイン ・かぐや姫グッズの企画
- ・かるたや紙芝居の作成 ・万葉文化館への展示 など

【討議から】

竹取公園の池に龍のモニュメントがあるが、なぜ龍があるのか聞いても分からなかった。

家族など大人に聞いてもほとんど知らない。

しかし、調べてみるとやはり竹取物語と関係がある → 説明の看板を設置したい

竹取物語は竹取の翁の物語であって、イコールかぐや姫と捉えるのは少し危険。

万葉集に出てくる竹取物語とかぐや姫の話を比較し、その違いと共通点を探ることが大事。

讚岐神社の由縁など、上の学校種なら正しい情報を探る活動も必要だと思う。

阪口さんのお話に合った「歌にこもっている『こころ』は、今も昔も変わらない」という部分を大事にしたい。

靴下や和菓子、かぐや姫グッズなど、企業とコラボして商品化できたら面白い。

2. 奈良市立平城小学校 村上雄太先生

「ひらけ！ 万葉まきもの ～思いを伝える意味を万葉集から学ぶ～」小学校2年

目標 人に伝えることの意味やよさを感じることができるようにする

2年生にとって、万葉集はなじみが薄く内容も難しいが、戯書のようにユーモアのあるもの、昔話、わらべうた、コオロギなどの昆虫や花など、子どもたちにとって身近な内容も書かれている。

万葉集を用いて今とのつながりを感じることができる。

どうして昔の人は文字にして出来事を残そうとしたのかを考えるきっかけになる。

万葉集のよさを生かして、2年生の思い出を友達に伝える活動をする。

「万葉集の一日」として授業を行う

1時間目：算数：九九を使ったことば遊びを作ってみよう

2時間目：国語：昔話の読み聞かせ

3時間目：生活：昔遊びをしよう

4時間目：音楽：日本の歌を楽しもう

まとめ：国語「たのしかったよ2年生」

万葉まきものには、万葉集やその時代の遊びから抜粋した子どもたちに伝えたいことを書いておく。1時間ごとに「巻物が届いた！」という形で巻物を開き、学習の導入に活用する。

【討議から】

算数で「八十一里つつ」を「くくりつつ」など、クイズ形式のような形ですとおもしろい。

→ 戯書を紹介しながら万葉集に馴染みを持たせたい。

国語の昔話は、万葉集にある水江浦島子の原文を紹介し、何の話か子どもに見つけさせたい。

→ 結末を子どもに自由に考えさせるとおもしろい。

以前、万葉文化館のイベントでやったものがあるので活用されてはどうか
生活の昔遊びは、「もっと昔遊び」としたらどうか。2年生で「昔」はいろいろありすぎる。

→ さいころを使ったすごろくのような遊びは奈良時代以前からもある。

日本でも伝わった韓国のユンノリや的矢入れなどの道具なら、館にあるので貸し出せる。
音楽では、万葉集が歌であるということを紹介したい。

→ 万葉集は歌集である。文字だけよりもリズムがある方が頭に残る。

文字より前は声の文化。当時の独特な抑揚を聞かせるのも面白いかも。

柿本人麻呂あたりを境に、歌っていたものを万葉仮名に表したのものもある

2年生で万葉集を扱うものはこれまであまり例がないので、とても楽しみ。

次回、学習指導案として再度検討したい。

※次回予定

12月11日（土）10時～12時 学習指導案の検討

第4回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

- ◇日 時 令和3年12月11日(土) 10時～12時
- ◇場 所 奈良県立万葉文化館
- ◇参加者 村上(平城小)
阪口(万葉文化館)
米田・大西(奈良教育大) 計4名

- ◇内 容 学習指導案の検討 奈良市立平城小学校 村上雄太先生
「ひらけ! 万葉まきもの ～言葉で伝える意味を万葉集から学ぶ～」小学校2年

目標

- ・言葉には経験したことを伝える働きがあることに気付く。(知識・技能)
- ・自分の文章の内容や表現のよいところを見つける。(思考・判断・表現)
- ・言葉には思いを伝えられるよさがあるということに気付く。(学びに向かう力・人間性等)

・小学校2年生にとって内容が難しい万葉集を扱うため、「難しい」「分からない」などという先入観を持たせないようにしたい。

→ わくわく感を演出するために巻物を活用した学習展開に

1時間ごとに巻物を開き、学習の導入に活用

国語・算数・生活・音楽の教科一つ一つに巻物を用意→万葉集やその時代に由来する学習展開

学習の終わりには、万葉集を学んだ振り返り書き、それをもとに伝えることの意味を考えていく



・「万葉集の日」として、一日ですべての授業を行う。

→ 一日で行うことで、2年生の児童に万葉集というものを強く印象付けることができる

・単元の終わりに詩を書く活動に取り組む。

→ 平城を詠んだ歌を紹介する中で、自分も昔の人のようにやってみたいという思いを持たせたい

1時間目 算数 九九で文章をつくろう

万葉集の九九を使った一文を紹介 「八十一里つつ」(くくりつつ)

九九を振り返り、使えそうな言葉を探す 「はっぱ」「にし」「ごご」など

2時間目 国語 浦島太郎の話をつくろう

昔の原文を見せ、話を予想する

文部省歌「浦島」を聞く

風土記・万葉集の話を読み、似ているところをさがす
キーワードを残しながら自分の「浦島太郎物語」を作る

3時間目 生活 昔あそびをしよう

万葉集のさいころを使った一文を紹介する
昔のすごろくを紹介し、体験する

4時間目 音楽 わらべ歌であそぼう

万葉集は歌であるということを知る
「はないちもんめ」「ずいずいずっころばし」を体験する

5・6時間目 国語 万葉集から学んだことを生かそう

これまでの学習の振り返りをつなげ、巻物のもとにする
巻物の最後に自分の思いを書く

「奈良山の嶺の黄葉取れば散る 時雨の雨し間なく降るらし」(1585)を詠む

→ 一瞬の情景や心情をとらえたもので、それを表現したものが今も残っていることに気づく
昔の人がしていたことを自分もしてみたいという思い

身近な出来事も残す価値のある宝物になる どうすれば自分の思いを言葉にできるか
詩に書いてみる



【討議から】

万葉集 = 国語 ということに縛られがちだが、様々な教科でやろうとしているところ非常にいい
巻物を導入に使い、最後には児童一人一人が巻物をつくるというのが魅力的

万葉集は巻物だから「巻」で表す

万葉集は歌であり、当時の人々の生活そのものが表現されている

そんな身近なものであることに気づいてほしい

「1000年以上昔も今も同じなんだね」と気づける内容になっていると思う

世代間の公正の価値観もあるのではないか

わらべ歌は、ぜひ「ならのだいぶつさん」もやってほしい

最後の詩を書く題材は、平城小学校の好きなおところということにこだわらなくてもよいのでは

何気なく見ている日常の何でもない風景を題材にしてはどうか

あるときの一瞬見えるもの、感じるものがあるはず 紹介する万葉集の歌はまさにそういうもの

※次回予定

1月29日(土) 10時~12時 実践報告会



第5回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

- ◇日時 令和4年1月29日(土) 10時～12時
◇場所 奈良県立万葉文化館
◇参加者 村上(平城小)、藏前(真美ヶ丘第一小)、石田(佐保川小)
川田、東(学生)
阪口(万葉文化館)
米田、大西(奈良教育大) 計8名

◇内容 実践報告

1. 広陵町立真美ヶ丘第一小学校 藏前拓也先生

「まみいちから伝える竹取物語の魅力 ～万葉集 古典に親しもう～」小学校6年総合

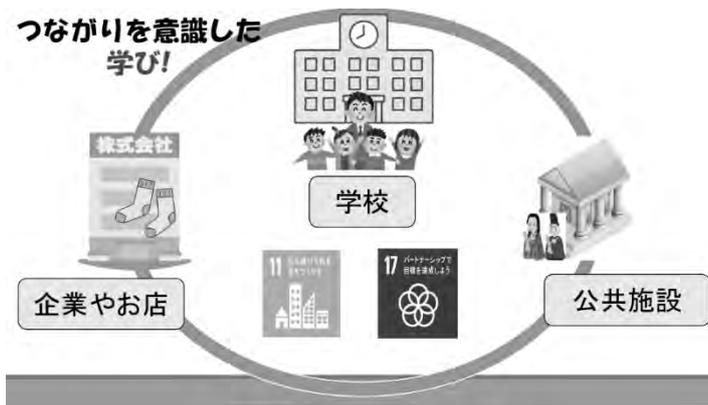
【概要】

知る	万葉集に親しもう 「万葉集クイズ」 竹取物語に親しもう 広陵町のキャラクター「かぐやちゃん」 広陵町と竹取物語のどんな関係がある？
調べる	ボランティアガイドの方をゲストティーチャーに招く 讚岐神社と竹取公園に行ってみよう 「竹取物語」のゆかりの地になっていることが分かることがら(竹、看板、モニュメント) 万葉文化館の阪口研究員に来ていただいて、万葉集について学ぶ 万葉集と竹取物語のつながりについて いろいろ話の内容が違っている 竹取公園の池の龍のモニュメント「何か意味がありますか？」 公園で働いている人も知らない。 → きっと意味がある！
まとめる	作者不明の物語が1000年以上も受け継がれているのはなぜ？ 竹取物語の魅力 大人たちでも知らないのだから、もっと知ってもらいたい
ひろげる	竹取物語の魅力を伝えるために、自分にできることは？ 「まみいちかぐや姫プロジェクト」 ・カルタ作成；下級生に発信 ・解説動画作成；家の人に協力してもらいながら自分で制作 ・和菓子のデザイン；地域の和菓子店に提供 → 現在商品開発中 ・靴下のデザイン；靴下会社に提案 → 現在商品開発中 など

【成果】

事前アンケートと比較して

- ・「広陵町は好きですか？」「地域のために何かしたいと思いますか？」大きく上昇
- ・「広陵町の自慢は？」 竹取物語、古墳 大きく上昇



- ・地域にゆかりのある教材を扱ったことで、地域にあるものの魅力や価値 再発見することができた。
- ・学校、行政、公的機関、企業などとの関わりの中で、学習することができた。

「学校での学びは地域や社会とつながっている」ということが実感できた。

【意見交流】



靴下会社に自分たちのデザインを提案



和菓子店に新商品のデザインを提案

- ・万葉文化館に見学に行けなかったのは残念だが、行くと万葉集への関心がより深まるだろう。
- ・家族や下級生に学びの成果を発信することで、より理解が深まる。
- ・竹取物語という地域の題材をきっかけとして、地域への関心が広がっている。
- ・地域の企業や店にとって、子どもからの提案はありがたいこと？

それでも、商品化を目指してくれているということは学校と地域がつながったということ。

「社会に開かれた教育課程」とは、まさにこういう実践のことを言うのだと思う。

- ・こういう実践は広陵町内の学校でみんなやってほしい。

靴下の商品化にあたっては、広陵町の許可があるのでそれも会社が動いてくれている。

2. 奈良市立平城小学校 村上雄太先生

「ひらけ！ 万葉まきもの ～言葉で伝える意味を万葉集から学ぶ～」 小学校2年

【概要】

巻物で1時間ずつの課題を提示する。

1時間目 算数 九九で文章をつくろう

万葉集の九九を使った一文を紹介 「八十一里つつ」(くくりつつ)
 二十とにいく(しごととにいく) す三十をする(すごろくをする)
 三十六びがいる(ろくろくびがいる)

2時間目 国語 浦島太郎のお話をつくろう

昔の原文を見せ、話を予想する
文部省歌「浦島」を聞く（歌を知っていたのは4人程度）
風土記・万葉集の話を読み、似ているところをさがす
「同じ浦島でもいろいろ話が違っておもしろい」
キーワードを残しながら自分の「浦島太郎物語」を作る



3時間目 生活 昔あそびをしよう

万葉集のさいころを使った一文を紹介する
昔のすごろく（バックギャモン）を紹介し、体験する

4時間目 音楽 わらべ歌であそぼう

万葉集は歌であるということを知る
「はないちもんめ」「ならのだいぶつさん」を体験する

5時間目 国語 万葉集から学んだことを生かそう

「奈良山の嶺の黄葉取れば散る 時雨の雨し間なく降るらし」（1585）を詠む
→ 一瞬の情景や心情をとらえたもので、それを表現したものが今も残っていることに気づく
昔の人がしていたことを自分もしてみたいという思い
身近な出来事も残す価値のある宝物になる
どうすれば自分の思いを言葉にできるか詩に書いてみる → はじめての詩
それぞれの子の個性あふれる詩ができた。
万葉集の五七調が分かりやすかったようである

【まとめ】

体験した }
楽しめた } 万葉集
出会えた }

「昔の人は『楽しい』を伝えてくれた。」

「万葉集の人たちはそのときの思いを言葉で残してくれている。」

これまでの学習の振り返りをつなげ、巻物のもとにする。（現在中断中）年度末までに完成させたい
巻物の最後に自分の思いを書く



【意見交流】

- ・2年生で万葉集というのは難しいと思ったが、こんなやり方なら楽しくできそう。
- ・一日まるごと万葉集にどっぷりと浸かるとするのが2年生としてすごくいいと思う。
- ・2年生でこのような形で万葉集に触れられたら、この後の学年での古典の学習では楽しそう。
- ・この子どもたちが万葉文化館に来たら、どんな思いを持つのか興味深い。

令和3年度 森と水の源流館 ESD授業づくりセミナー 開催要項

1. 目的

奈良教育大学を中心とする「近畿ESDコンソーシアム」の活動の一環として、川上村森と水の源流館と「水の恵み」や「森林環境」に着目した授業づくりセミナーに協働的に取り組めます。森と水源流館スタッフによる、自然環境保全の取組や水生生物などに関する情報提、大学教員等による単元デザイン作成に関する助言のもと、現職教員が指導案を作成し、授業実践を行います。これによりESDを指導できる教員としての資質・能力の向上につながる継続的な研修の機会となっています。

2. 主催

近畿ESDコンソーシアム（奈良教育大学内）、森と水の源流館

3. 会場

本年度はオンラインによる開催を予定

4. 開催日時と研修内容

- 第1回 令和3年6月19日（土）スタッフの紹介・ネタ提案、ESD理解促進
 - 第2回 令和3年7月 4日（日）優良実践事例の分析・ESD授業構想作成について
優良実践発表者：大牟田市立吉野小学校 教諭 島 俊彦
 - 第3回 令和3年7月31日（土）授業構想の相互検討
 - 第4回 令和3年9月 4日（土）学習指導案の相互検討
 - 第5回 令和4年2月26日（土）授業実践報告会：森と水の源流館にて
- ※ 開催時間はいずれの回も10時～12時（オンラインにて参加ください）

5. 参加者

近畿ESDコンソーシアム構成団体に所属する教員等
奈良教育大学の大学生・大学院生・教職大学院生
森と水の源流館 事務局長 尾上忠大 及びスタッフ
奈良教育大学准教授 中澤静男・大西浩明、研究員：杉山拓次ほか

2021年度 第1回森と水の源流館授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 2021年6月19日(土) 10時～12時15分
◇方法 ZOOMを用いたオンライン研修
◇参加者 現職教員等：遠入、橋本、岡崎、島、新宮、栗谷、井阪、中澤敦
源流館スタッフ：尾上、古山、成瀬、上西
川上村職員：加藤
奈良教育大学：大竹(学部生)、大西、杉山、中澤(教員) 計17名

◇内容

1. 本セミナーの趣旨説明(中澤)

教員を志望する学生、及び現職教員等がESDに関する理解を深め、持続可能な社会の創り手の育成への意欲を高めることを目的としている。また、森と水の源流館のスタッフや展示、イベントなどからESDの授業づくりへのネタの提供と単元構成への大学教員の支援によって、質の高いESDの授業を作成・実践していただくことで、先生方の力量アップと先生方の授業実践を通じた持続可能な社会の創り手の育成へ貢献していくことをねらいとしている。

第1回 令和3年6月19日(土) スタッフの紹介・ネタ提案、ESD理解促進

第2回 令和3年7月4日(日) 優良実践事例の分析・ESD授業構想作成について

第3回 令和3年7月30日(金) 授業構想の相互検討

第4回 令和3年9月4日(土) 学習指導案の相互検討

第5回 令和4年2月12日(土) 授業実践報告会：森と水の源流館にて

※ 開催時間はいずれの回も10時～12時(オンラインにて開催)

2. 参加者の自己紹介

3. 源流館の紹介と提供できる授業のネタ・支援の紹介

(1) 尾上事務局長

- ・3つのダム：大迫ダム・大滝ダムでは、現在水位を低下させている。1つは吉野川分水を通じて、大和盆地の田畑に水を配っているからであり、もう1つは、大雨の季節なので、洪水に備えて水をためるスペースを作っている。

森林環境は、降った雨を少しずつ流しているのので、これも洪水対策になっている。また、豊かな森林環境は水質の向上にも大きく関わっている。川上村の源流で育まれた美しい水が、吉野川分水を通じて、大和盆地の田畑の作物の質に影響を与えている。

- ・「川上宣言」はSDGsを体現している。「水を守る」ことは、直接的には目標6(水と衛生)、目標11(防災)、目標15(陸の豊かさ)と関連している。水の働きを考えると、目標2(持続可能な農業)、目標3(健康)、目標17(パートナーシップ)にも関係する。川上宣言そのものがESD学習教材として活用できる。

(2) 古山さん(昆虫担当)

- ・校庭での昆虫観察など、先生方の授業によりそった支援をしていきたい。児童・生徒が作成したものを源流館で展示させていただくことで、児童・生徒の意欲の向上につなげるという、先生と一緒に作る展示にも取り組みたい。
- ・昆虫嫌いを克服してもらうことが大切だと思っている。そのためにはまず知ることだ。知らないか

ら恐怖心が出てきてしまう。そこで、昆虫の模型なども使っていきたい。

(3) 上西さん (森林環境・生活担当)

- ・吉野林業の特徴やそれを作り上げた土倉庄三郎についての情報提供ができる。SDGs 目標 15 にある持続可能な森林経営の視点から、吉野林業や土倉庄三郎の事業の意義を見出すことができるかもしれない。
- ・森→水→畑→野菜 という水を媒介にした循環について考えてほしい。
- ・地元の人達と共に、郷土料理の継承に取り組んだり、地元の食材や最近問題になっているシカ肉を用いた新しいレシピにも挑戦している。
- ・最近気になっているのは、河川に放置されたバーベキューごみが増えてきていることだ。

(4) 木村さん (コケ担当・本日は他業務のため欠席)

- ・コケと学校というテーマで学校の授業でのコケの使い方を模索している。かつて大塔中学校と連携し、コケを指標にした大気汚染調査を行った。
- ・コケは空気の汚染状況の指標として活用することができる (育つコケから、空気の汚染状況を調べることができる)。
- ・川上村フィールドワークに取り組んでいる。

(5) 成瀬さん (城郭担当)

- ・『奈良県中近世城館調査報告書』が発行された。県内の城跡を調査したものだ。城というと歴史の勉強と結びつきがちだが、算数・数学 (幾何) で、活用できる。この報告書には、測量から作成された図面がたくさん紹介されている。この図面を用いて簡単な測量のしかたを学び、地域にある様々なものを測量することで、新しい学びを作ることができるかもしれない。
- ・県立図書館情報館には今昔写真がある。写真から昔の様子について関心を高めることもできる。

4. 川上村の取組：加藤さん

- ・川上宣言をテーマに大阪工業大学と連携して授業づくりに取り組んでいる。その 1 つに村民へのインタビュー動画の作成：50 年間河川のゴミを拾っている「げんにい」
- ・河川に放置されたバーベキューのゴミ・人がいなくなってから拾っている

5. ブレークアウトセッション

- ・参加者同士の意見交換・インスピレーションの交換

次回は 7 月 4 日 (日) 10 時～12 時

優良実践事例の分析：実践報告者・島先生

2021年 第2回森と水の源流館授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

◇開催日時 2021年7月4日(日) 10時～12時

◇方法 ZOOMによるオンライン研修会

◇参加者

加藤(川上村役場)、栗谷(卒業生)、遠入(福岡市立田隈小)、片山(長浜ユネスコ協会)、尾上・木村・古山・成瀬・上西(森と水の源流館)、川崎(耳成南小)、新宮(平城小)、中澤哲(平群北小)、加藤(二名小)、藤原(教職大学院)、大竹・山平・長尾(学部生)、中澤敦(近畿地方ESD活動支援センター)、大西浩明・杉山拓次・中澤静男(奈良教育大学) 計21名

◇内容 優良実践事例の分析

「川上村から学ぶ持続可能な水の流し方」 大牟田市立吉野小学校 島俊彦先生

本実践は島先生が平成29年度に大和郡山市立郡山西小学校で取り組まれた実践である。

(1) 単元の目標

- 川上村の取組みや身近な河川の現状を知り、きれいな水を流すために必要な情報を集めるとともに、課題の解決に向けて、それらを適切に活用することができる。(知識・技能)
- きれいな水を流すために自分たちにできることを考え、適切に表現することができる。(思考・判断・表現)

○きれいな水を流して自分たちの住む地域や下流域の環境を良くしようと願い、自分たちにできることを主体的・協働的に取り組もうとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

(2) 単元展開の概要

- ①7年連続「特A」を受賞している奈良県産ヒノヒカリを用いたおにぎりパーティー
おいしさの秘密について、地域の農家に聞き取り調査
おいしさには「美しい水(吉野川分水)」と「寒暖差」が関係していることがわかる。
- ②地図上で吉野川分水をたどる 源流が川上村であることがわかる
- ③川上村について調べる
GoogleEarth、PR動画(龍神見守る源流の森)の視聴
川上宣言があることに気づかせる
- ④川上村の人たちの取組みを調べる
副読本・パンフレット・インターネットを利用
- ⑤ゲストティーチャー(川上村水源地課加藤さん)の話を聞く
村全体できれいな水を下流に流す努力をしている
- ⑥水質調査
上流・中流・下流でのパックテストを比較する。「下流になるほど水質が悪化している」
身近な富雄川の水質調査 とても汚れている 富雄川の下流の大和川は「日本一汚い川」だったこともある。
- ⑦水質悪化の原因を調べる
県の河川課へのインタビュー 生活排水が原因であることを知る。←自分たちに原因の一端がある
- ⑧水質改善のために自分たちにできることを河川課のパンフレットから考える
- ⑨行動化

(3) 意見交流

①水質調査について

パックテスト以外の川の調査もあるとよい

- ・パックテストと生物指標調査の違い 環境を図るモノサシとして生き物を使う
- ・濾紙をつかった水質調査 沈殿するものの違いを調べる
- ・パックテストはその時だけの川の汚染を表す。指標生物は長い期間の川の汚染を示している。
- ・生き物指標の方が本当の環境の状況を示している。

②どのようにして児童と対象物を近づけるか

- ・世代間の違い（聞き取り調査）があってもよかったのでは。
- ・世代間のギャップを埋めていくようなことができたらおもしろいのでは。川や環境への意識も違うだろう。それによって自分の自然環境への意識化の特徴をメタに気づくことができる。

③川の水をきれいにするには

- ・川の水をきれいに → 生物多様性との関係
- ・海岸→河川 データ化の重要性。客観的にとらえることができるように。
- ・専門家を授業にうまく使う オンライン化で簡単になる
- ・専門家を招聘する上での文脈を意識しておく
- ・ミュージアムは日本に 5000 ヲ所（特に地方に）。モノ・コトを調べる専門家がいる
- ・学校があまり使ってくれない。伝えたいことはいっぱいあるのに。どんどん使ってください。
- ・これからのミュージアムの方向性 地域の課題に取り組んでいくための民主的な議論をして実践していく場

④行動化を促すことについて

- ・子どもの関心から始めた授業づくりが良かった
- ・体験を通した学びがよかった（水の試飲、おにぎりパーティ）
- ・行動化を考える・給食での写真→自分たちでできることを再考したところが重要
- ・1週間後の振り返り。1週間の体験を通した家族への影響はあったのだろうか。

⑤改善ポイント

- ・水質汚濁の原因を探ることで、町の暮らしそのものを批判的に捉えるきっかけになるのではないか。
- ・ダムによる負の影響にもふれることも大事なのは 水の恵みに焦点化した方が学習が深まる
- ・行政へ提案してもなかなか動かない、トップダウンになる。保護者や学校に提案した方が効果がわかりやすい（自己効力感）。
- ・川の調査などをするときの留意点：地域の方を巻き込む、成果を伝えていくことが大切

2021年度 第3回森と水の源流館授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 2021年7月30日(金)10時～12時
- ◇方法 ZOOMを用いたオンライン研修
- ◇参加者 岸下(辰市小)、新宮(平城小)、阿部(千歳小)、竹田(金橋小)、中村(朱雀小)
川崎(耳成南小)、遠入(田隈小)、中谷(あやの台小)、福留(屋久島町教育委員会)、加藤(川上村役場)、中澤敦(近畿地方ESD活動支援センター)、大竹(学部生)、尾上・上西・古谷・木村・成瀬(森と水の源流館)、杉山・中澤(奈良教育大学) 計19名

◇内容 屋久島町の学校と奈良市の学校のテーマ共有型授業について

1. 奈良市立平城小学校の2019年度に授業実践の紹介(新宮教諭)

(1) 単元展開の概要

- ・校区を流れる秋篠川に対する児童の関心は低い

1学期 初めて秋篠川に入り水質調査を行うが、秋篠川が児童にとって「自分事」になっていない。仮説：水質調査だけでは自分事にならない。川の多面的機能に気づくことで自分事化するのではないか。

2学期 森と水の源流館への遠足

AM：吉野川の恵みにふれる体験活動(水に関連する神社見学、川での遊び)

PM：源流館の展示より学ぶ

午前中の川遊びも含め、展示内容全てが「川の恵み」であることを伝える

川への関心が高まる→秋篠川にも役割はあるのだろうか？

吉野川の恵みに関する冊子を作成された、森と水の源流館事務局長の尾上氏を招聘し、秋篠川の役割を見つける調査方法を学ぶ。→地域の方々へのインタビュー調査

生物のすみか、野菜を育てる、米を育てる、魚を育てる、など

地域の方より昔、秋篠川で遊んだ話をしていただく → 汚れているのは当たり前ではない。秋篠川も昔は吉野川のような川だった。+農家の方から秋篠川の汚れで困っている話を聞く。

→秋篠川の汚れが児童にとって解決すべき「課題」になる。

3学期 →現状把握のためのゴミ拾い・分別。ゴミの分析

→川の汚れが海につながり、海洋プラスチック問題が世界の課題になっていることを知る
地域の課題と地球の課題がつながる

→ライフスタイルを変えよう

→やっぱり秋篠川のゴミはなくなる。無力感。→グretaさんの動画を見る

→自分たちも大人にうたえよう→地域での発信・世界遺産学習全国サミットでの発信

→地域での大人を巻き込んだチームの結成・地域でのイベント化

(2) 平城小学校の取り組みに関する意見交換

- ・始めから全ての展開を決めて授業実践していたわけではないと思うが、見通しがよくわからない授業をやっていく、柔軟性が素晴らしい。←5年間にわたる授業づくりセミナーを通した源流館との信頼関係が、根拠のない自信につながり、授業を作ることができた。

- ・校内に賛同者をつくっていく工夫は？→児童の変容を職員室で話題にし、関心層を増やした。
- ・児童に振り返りを作成させるポイントは？→うまく作成できた児童の振り返りを児童の前で紹介した。児童同士の学び合い。

2. 屋久島町教育委員会の取り組み（福留指導主事）

FURUSATO MIRAI MEETING 2021：テーマ共有型授業の展開

(1) 屋久島町のESDの課題と課題解決のきっかけ

屋久島型ESDに取り組んできたが、マンネリ化・イベント化し、現状維持になってしまっている
→2019年度奈良市世界遺産学習全国サミットに参加

ポスターセッション会場で「水」をテーマに発表されていた都祁小学校の岸下教頭に出会う
全体会で平城小学校の発表を見る。発表者である新宮教諭、質問した岸下教頭とつながる。

(2) テーマ共有型授業

①テーマ「水」

辰市小学校の取組（岸下教頭）

岩井川・ため池を活用した農業 ため池や川を大切にしている文化があることに児童が気づく
→ゴミ拾いするようになる

→水源地である山添村とつながる

②テーマ「川と海」

都祁・辰市・平城一口江良部島安房小学校

地域を知ることが大切

オンラインを積極的に活用し、発信力を高めることで、児童の責任感を育てる

(3) 共有型授業実践に関する考察

- ・想定外がしだいに想定内になっていく
→（岸下）広まっていくためには、教科の内容とつなげていくことが大事←教員の意識改革
企業や事業所とつながり、応援団をつくっていく←取組環境の整備
- ・奈良の子どもへのメリット 平城小の子どもには、川の役割を学んだ経験がある。共有型授業に参加することで、川と海の間が身近になっていく。
- ・オンラインでは知識や情報は伝わるが、「感覚」「感情」「感性」は伝わりにくい。手紙・作品交換・実物交換などのアナログも大切だ。
- ・つながる、つなげることの意義
人と人がつながることで、関心が高まる。探究する楽しさを体感できる。魅力ある授業の枠組みが徐々に見えていく。授業が変わっていくことで子どもの変容が見え、それが教員の変化につながる。
- ・テーマ共有型でスピードを維持するためには、グーグルフォルダーを使うと便利。
特別なイベントにしない。隣にあるクラスと共有するように、普段使いを心掛ける。
- ・教員・社会教育施設・実践者・大学などをつなぐオンラインコミュニティが求められている。
- ・屋久島は離島であるが、川上村も陸の孤島だ。よく考えると日本全体が島国だ。さらに近年はコロナ禍で全国の市町村が孤島になった。オンラインでの交流・教員研修が求められている。発信によって責任感を養うのは、その意味で全国に通用する方法。サミットで発信してほしい。特に動画による発信は、反応が期待できる。
- ・学校間の共有型授業で終始することなく、地域の方や観光関係者など、広げていくことも大切。

2022年2月10・11・12日に屋久島では世界遺産学習全国サミットを対面で開催予定



2021年度 第4回森と水の源流館授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 2021年9月4日(土) 10時～13時
- ◇方法 ZOOMによるオンライン研修
- ◇参加者 川崎・小川・古谷(橿原市立耳成南小)、赤松(和歌山市立雑賀小)
片山(長浜市ユネスコ協会)、米田(大阪エリーニユネスコ協会)
別府・渡邊(長浜市立西浅井中)、菅原(長野県山ノ内町立山ノ内南小)
新宮(奈良市立平城小)、中村(附属中)、北村(御所市教育委員)、
栗谷(本学卒業生)、大竹(学部生)、加藤(川上村役場)
尾上・成瀬・木村・古山・上西(森と水の源流館)
大西・杉山・中澤(奈良教育大学) 計23名

◇学習指導案の検討

1. 「地域と秋篠川のプラスチック汚染を解決しよう」(平城小・4年・総合:新宮先生)

(1) 導入について

コロナ禍のため、秋篠川に入るという体験はできない状況にある。体験ができれば、これまで身近にありながらも入ったことがない秋篠川に入ること、児童の関心を高めることができるのだが、工夫が必要となっている。

→ 歌(詩)を用いて関心を高める

- ・スーパーの鮮魚コーナーで流れている「おさかな天国」
- ・白浜のとれとれ市場で流れている「とれとれ音頭」
- ・紀ノ川じるしの見本市のBGM「水の旅のはなし」

→ 「おさかな天国」も「とれとれ音頭」も繰り返し流す理由はわかるが、なぜ紀ノ川じるしの見本市で「水の旅のはなし」を流しているんだろう? 「他のとはちょっと感じが違う」

→ 歌詞の意味を調べよう → 森と水の源流館への校外学習で吉野川の役割を教わる

→ 秋篠川にも役割があるはずだ。

→ 地域の人に秋篠川の役割などについて、インタビュー調査を行う。

(2) 学習課題の発見

- ・秋篠川にはゴミが多い。プラスチック系のゴミが多い。
- ・このゴミはどこから来て、どこへ行くのだろうか?

(3) 学校間交流

- ・ユネスコエコパークであり、海ゴミに取り組む屋久島の中学校との交流学習

(4) 本実践に関する意見交流

①秋篠川に入ることができない状況に対して歌を導入に活用するのはよいのではないか。

「おさかな天国」と「とれとれ音頭」は客を呼び寄せる曲だが、「水の旅のはなし」はどのような目的でつくられた歌なのか。歌の歌詞だけでなく、作詞家作曲家がおられるので、目的にも焦点を当てる方がいいだろう。

②体験的な学習ができない状況なので、標本を利用するという事も考えられる。

③学校間交流に力点を置いた方がいいだろう。相手もユネスコスクールなので、川を「テーマとしたプロジェクトとして「命のつながり」「自分とのつながり」をしっかりとっておきたい。

交流学習による児童の変容(ゴールの姿)をしっかりと予想し、学習計画を立てる。

児童自らのライフスタイルの変容 → 大人への発信へ

※同様の問題に取り組んでいる北海道の釧路の小学校を紹介できる（きんき環境館）

学校だけの学習に終わることがないように、行政も巻き込んだ方がいいだろう。

2. 「おとなりの国 韓国について学ぶ」（耳成南小・2年・道徳：川崎先生）

（1）単元の目的

- ・文化的な共通点・相違点を見つけ、その理由を考えさせる学習を行うことで、「相手のことを理解しようとする」態度を養う。人権教育との接点
- ・学んだことを「なかま集会」で発信できるようにしたい。

（2）導入について

ユンノリで遊ぶことで、韓国への関心を高める

GT（現在未定）とオンライン交流を行い、ますます韓国のことが知りたいという気持ちを高める

GTより韓国の文化について教わる

（3）これからの交流について考える

低学年用「なかま」に記載されている「アプロ（これから・将来）」の歌詞に込められた願いについて考え、自分のこれからの行動に結び付ける。

（4）本実践に関する意見交流

- ・小学2年生という発達段階で、学習後にどのような子どもの姿を目標とするのかを具体的に考え、そのために必要な手立てを考える。韓国と日本を比較し、文化的共通点と相違点を見出す上で、衣・食・住を切り口とするのがよいだろう。
- ・相違点をそのままにするのではなく、「違うけど、よく似ている」→仲良くしていきたいという心情を養うこと。また、道徳だけで11時間もとることはできないので、特別活動などと接続し、韓国だけでなくいろいろな国の人と仲良くしていこう という形に持っていけないか？
- ・日本の日常生活の中に、韓国文化で親しんでいるものはいっぱいあるので、それらを探って見つけていく活動をしてはどうか。
- ・本実践においては、GTの人選が1つの鍵になるだろう。GTを通して文化を知るというのは、その人を知ることと同じことだ。

3. 水のチカラ プロジェクト（耳成南小・4年・総合：小川先生）

（1）実践の概要

- ・校区を流れる米川と銭川が最近きれいになってきた。その背景にある人々の努力に気づかせる
- ・源流館を訪問し、川上村の人々の営みを知ることで、米川・銭川にも地域の人々の取り組みがあるのではないかと気づかせる
- ・校区の川の現状を把握するためにパックテストを行う
- ・パックテストの結果を校区地図にまとめる
- ・学習したことを発信する

（2）本実践に関する意見交流

- ・講義から学習に入るのは、4年生には難しいため、2次のフィールドワークを学習の最初に位置付け、直接体験・共通体験を持たせた方がいいだろう。
- ・教員は知識よりも、子どもの思考の流れを意識して授業を展開する。このことをあらかじめ、GT

に伝えておかないと、「答え」を言ってしまうことがよくある。GTと信頼関係を作り、事前によく打ち合わせを行うこと。

- ・アクリルたわしは、今、海洋のナノプラスチックの発生源として問題視されている。
- ・パックテストよりも生物指標調査の方がいい。パックテストは、その時の状況に影響された結果を示すが、生物指標調査は、より事実に近い結果を得ることができる。
- ・河川とため池でパックテストを行うと、ため池の方が「汚れている」結果が表れるが、ため池の方が生物多様性が豊か（栄養価が高い）である。「きれい」は誰にとっての「きれい」なのかを考えるきっかけにしてほしい。
- ・発信は、学校内だけでなく、地域の人を対象にして、地域を巻き込んだ行動変容を促してほしい。
- ・運動会などで「水リレー」をする。バトン代わりに水を「バトンタッチ」することから、川上村の川上宣言を耳成南にバトンタッチし、その内容を考える展開にしてはどうだろう。

4. その他

次回の第5回セミナーは森と水の源流館を会場にハイブリッドでの開催を考えている。そこに、「水の恵み」をテーマに取り組んでいる小中学校の児童生徒の発表の機会をつくることを考えていきたい。

今回参加していただいた、平城小学校、耳成南小学校、山之内南小学校、雑賀小学校、西浅井中学校、奈良教育大学附属中学校で、交流学习ができればと思う。



お・い・し・い・ね このお米
 どうしてつくっているのかな?
 農家さん 心をこめて
 そだててるから できるんだ
 でも は・て・な
 水がなければ どうなるの?
 むかし すくない雨 こまってきた奈良ぼんち
 夢がかなった よしのがわぶんすいのおかげで
 森からの水 ダムへとたまり 川をくだって
 田んぼにとどいた 山をもこえて

お・い・し・い・ね お魚も
 どうしてとれなくなるの?
 漁師さん 海をあいして
 とっているから つづくんだ
 でも は・て・な
 海にも川が そそいでる!
 とおい 森から里 田んぼ旅した水
 そこであった 命と力たくわえながら
 やがて海へと ながれてゆく ゆたかな海は
 つながってるんだ ゆたかな森と

つながってるんだ ぼくたちと

第5回森と水の源流館授業づくりセミナー実践報告会 概要報告

奈良教育大学 中澤静男

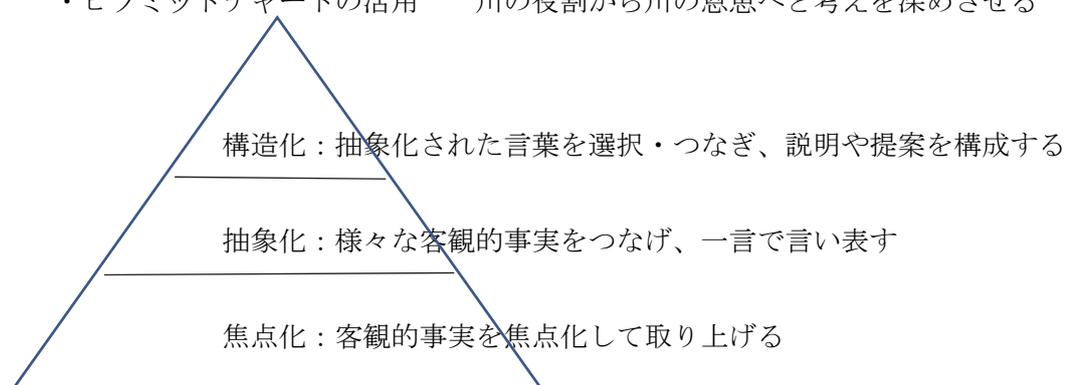
- ◇開催日時 2022年2月26日(土) 10時～12時30分
- ◇方法 川上村役場会議室からのハイブリッド方式
- ◇参加者数 会場(18名) + オンライン(23名) = 41名
- ◇内容

1. 実践報告

(1) 奈良市立平城小学校の実践：奥戸先生・新宮先生

川上村の教材化によって、子どもの学びに火をつける

- ・紀の川じりしの歌詞の意味を読み解き、川の役割に気づかせる
意味から歌詞に込められた思いを読み解く
- ・ピラミッドチャートの活用 川の役割から川の恩恵へと考えを深めさせる



- ・吉野川の役割、吉野川の恩恵より、秋篠川の役割や秋篠川の恩恵へと類推させる

(2) 長野県山ノ内町立南小学校の実践：菅原先生

ユネスコスクールであり、地域はユネスコエコパークでもある。

- ・学びのキーワード「つなぎたい」「残したい」
- ・体験的な学びから課題解決の学びへ、そして地域社会の改善へと行動化を図る
○単なる「ふるさと学習」に終わらせることなく、地域創生につながる学びの開発
- ・そとの施設等々の連携で、学びの多様化・深化を図る
きれいな水を下流に流すためには・・・信州大との連携
きれいな水を未来にまで残すには・・・サントリーとの連携

①地域で作っている雪白米が金賞を受賞した事実

②雪白米を育てた川の源流息を調査する

③役場の方をゲストティーチャーに招へいし、町の総合計画について座談会をもつ

「ユネスコエコパーク」や「ユネスコスクール」を核とした町づくりが行われていることを知る

④水の恵みを研究する森と水の源流館とつながって学ぶ

⑤中流域についての調査活動：天竜川総合学習館とつながる 「ざざ虫」

川を大切にする気持ちを醸成しようとして取り組んでいることを知る。

子どもの視野を広げることにもつながる

⑥下流域についての調査活動

修学旅行で氷見市の海岸を訪問し、ビニールごみの多さに驚く

(3) 川上村立川上小学校の取組：橘先生

「水のバトン」：ユネスコエコパークとしての川上村に暮らす

- ・村を大切に思う子どもになってほしい
- ・今の状況が当たり前でないことに気づかせたい
- ・水のつながりプロジェクトでの櫃原市立香具山小との出会いを大切にしたい

①教育長先生の「中奥の砂糖水」の話より水に対する関心が高まる

②源流域へのフィールドワーク 源流の水の味見をする

③川上村の各地域はそれぞれの水源の水を飲用水に利用している

「水の味比べ」をする：「地域の飲用水は地域ごとに少しずつ異なっている」ことを発見する

④香具山小に川上村のおいしい水をプレゼントする

⑤おいしい水をつくるために木を植える

木の利活用 → 川上村の主たる生業である林業の学習へ

2. 栗山村長との意見交流

○川上宣言に書かれていることに大人も子どもも巻き込んで地方創生につなげたい

川上宣言

- ・私たち川上は、かけがえのない水がつくられる場に暮らす者として、下流にはいつもきれいな水を流します。
- ・私たち川上は、自然と一体となった産業を育て山と水を守り、都市にはない豊かな生活を築きます。
- ・私たち川上は、都市や平野部の人たちにも、川上の豊かな自然の価値に触れ合ってもらえるような仕組みづくりに励みます。
- ・私たち川上は、これから育つ子ども達が、自然の生命の躍動にすなおに感動できるような場をつくりまします。
- ・私たち川上は、川上における自然とのつきあいが、地球環境に対する人類の働きかけの、すばらしい見本になるよう努めます。

○川上宣言に即した行政の取り組みを進めていくが、川上宣言は行政の指針であるだけでなく、宣言を行動化する主体は村民自身である。行政と村民が一体となって取り組んでいくことで、地方創生につなげたい。そのために、「教育」がカギだと考えている。

○「学びから行動へ」というE S Dの学びは川上宣言の具現化になくってはならない学びだ。

○令和6年4月 かわかみ源流学園が開校する 「源流」には「ことのはじまり」「ことのおこり」という意味を込めている。SDGsを核とした学校をつくっていききたい。

- ・龍谷大学では福島県で地域での様々な学びを博物館で展示することで地域に返す取組を行っている →源流館も現在リニューアルオープンの準備中。「水の恵み」をテーマとして全国の学校が取り組んだ学びの軌跡を展示できるスペースも構想中である。

2021年度 ESD ティーチャープログラム
春日山原始林・奈良公園フィールドワーク
担当：研究員：杉山

春日山原始林や奈良公園の自然環境をESDに活かすための場として様々なテーマでフィールドワークを実施する。また、五感を使うなど、自然と交感することで、持続可能な社会に必要な不可欠な自然環境保全の重要性の気づきを促す機会とする。

※日程は全て予定

■第1回 春日山原始林の夕暮れ～夜（春日山遊歩道）

2021年7月3日（土）18:00～20:30

■第2回 朝の春日山原始林（春日山遊歩道南部）

2021年8月6日（金）6:30～11:00

■第3回 奈良公園の夕暮れ～夜（東大寺二月堂周辺散策）

2021年8月21日（土）17:30～20:00

■第4回 高円山の自然（高円山）

2021年10月2日（土）9:00～14:00

■第5回 春日山1周ウォーク（滝坂の道～鶯の滝～春日山遊歩道北部）

2021年7月17日（土）9:00～16:00

■第6回 奈良公園の樹木とネイチャーゲーム（奈良公園・東大寺講堂跡）

2021年11月6日（土）9:00～13:00

■第7回 春日山原始林の自然と課題（春日山遊歩道北部～若草山）

2021年11月27日（土）9:00～14:00

■第8回 春日山の石仏（滝坂の道・芳山登山）

2021年12月4日（土）9:00～15:00

春日山原始林・奈良公園フィールドワーク 第1回 概要報告

奈良教育大学研究員 杉山 拓次

実施日：2021年7月22日（木）18:00~21:00

参加者：16名

現職教員等：5名 学生：6名 その他（講師関係者）：3名

担当：杉山、中澤

■実施場所：春日大社境内地・飛火野、春日山原始林

■第1回 春日山原始林の夕暮れ～夜（春日山遊歩道）

2021年7月22日（木・祝）18:00～20:30

概要：春日山原始林の夕暮れから夜にかけての時間を体験します。暗闇の中で森の音や空気を感じるともに夜の生き物たちの息遣いを感じます。

18:00 春日大社表参道（飛火野）バス停 集合

18:05 アイスブレイク（感性の体操、自己紹介）

18:15 御笠山遥拝

18:20～19:20 移動：春日大社表参道～春日山遊歩道南部

19:20～19:40 春日山遊歩道散策

19:40～20:10 夜を感じる（遊歩道に横になって過ごす）

20:10～20:40 春日山遊歩道を引き返す・解散

■概要報告

夕方に、春日大社境内の飛火野に集合し、夕方から夜にかけての春日山原始林のフィールドワークを実施した。冒頭はアイスブレイクとして、目を閉じて風、光、音を感じるアクティビティを実施したのち、自己紹介をかねて「自分の気に行った音」を紹介してもらった。その後は、春日大社の参道から、春日山原始林の遊歩道の南側から入り、道中の蝉の声や生き物（タゴガエル）等を観察しながら歩く。途中、森の中から月を眺めるなどして、ポイントまで移動し、軽食を取りながら夜の生き物として、ムササビについて紹介する。その後、遊歩道にそれぞれ横になり森を感じる時間とした。30分弱の体験の中で、風の音や虫の音を感じた、ムササビについては残念ながら姿を表すことはなかった。その後、もと来た道を引き返す形で途中の生き物（ヤマナメクジ、カマドウマなど）を観察しながら下山。遊歩道入り口にて解散した。

■解説ポイント

- ・感性の体操（目を閉じて、風の吹く方向、光の差す方向を感じる、周辺の音に耳を澄ます）
- ・飛火野からの御蓋山・春日山の景観を確認
- ・奈良のシカ愛護会「鹿苑」について
- ・ヒメハルゼミの大合唱を感じる
- ・ムササビについて（妖怪の例えについて）

■実施しての印象

- ・今回は、森を感じることに重点を置いて実施した。原始林そのものに対する解説は控え、五感で森を体感することを主として体験してもらうよう意識した。
- ・照葉樹林の特徴的な昆虫である「ヒメハルゼミ」の鳴き声を浴びるように聞くとともに、日が沈むとその声がパツパツと止むことなど、時間によって森の音も変化することを体感してもらった。
- ・寝っ転がっての体験については、ムササビの気配はわずかしか感じることはできなかったが、シカの気配や、木々の葉の揺れる音、虫の声、風の音を感じることができたのではないかな。
- ・月明かりが非常に美しく、人工的な光のない場所で月明かりを感じる機会となった。

■写真

		
飛火野で五感で感じる体験	御蓋山・春日山を遥拝	月が出ている
		
月明かりが明るかった	月の見える場所で写真撮影	懐中電灯をつけて森を歩く

春日山原始林・奈良公園フィールドワーク 第2回 概要報告

奈良教育大学研究員 杉山 拓次

実施日：2021年8月6日（金）6:30~9:40

参加者：5名

学生：4名 教職大学院生：1名

担当：杉山、中澤

■実施場所：奈良公園浮雲園地・春日山遊歩道・若草山

■第2回 早朝の春日山原始林・若草山

2021年8月6日（金）6:30~9:40

概要：早朝の奈良公園・春日山原始林を歩きます。朝の森の空気を味わって、若草山山頂から奈良盆地の光景を楽しみます。

6:30 奈良公園・浮雲園地集合

6:35 概要説明・出発

6:40 水谷神社・水谷川に関する解説

6:50 春日山遊歩道北部 散策

（ナギ・モミの樹齢の違い、外来種、仏頭石、月日磐、倒木のギャップ、保護柵等の解説）

7:40 五感の体操（風、光を感じる、音を聞く、寝っ転がる）

8:00~9:00 春日山遊歩道散策～若草山山頂

9:00~9:40 若草山下山 解散

■概要報告

早朝の春日山原始林を体験することを目的に実施した。実施当日は、曇りがちで、雨も降ってくる天気であったが、気温が高かったこと、原始林内が木立に覆われていたこともあり、不快なものではなかった。原始林内へ入ると少し涼しく感じることや、森の中で寝転んで時間を過ごすことなどを入れて、前回の夜の森と同様に自然との交歓を中心として実施した。若草山山頂からは、原始林から奈良公園まで森がつながっていることや、奈良盆地の景観を楽しんだ。

■解説ポイント

- ・水谷神社そばの崩落状況の確認
- ・樹種による成長の違い（ナギ・モミ）
- ・文化的背景に関する気づき（洞の仏頭石、月日磐、水谷川）
- ・葉っぱの手触りによる種の違いなどに関する気づき（ムラサキシキブ、ヤブムラサキ）
- ・奈良のシカの影響に関する気づき（森林ギャップ、保護柵の観察）
- ・キノコ、昆虫（センチコガネ）、ヤマビル等の観察
- ・若草山からの春日山原始林～奈良公園の景観について
- ・若草山のナンキンハゼの状況について

■参加した感想（一部ポートフォリオから）

- ・森で寝転んだ時、雨粒が空から降ってくるのを体験したことが印象に残った。
- ・以前歩いたことはあったが、森に詳しい人と歩くと新たな視点が数多くあって楽しかった。
- ・自然に対する世界が広がった。面白い虫や自然現象が至る所に見られて、身近にこんなたくさん面白いものが潜んでいるなんてと思えずごく面白かった。

■写真

		
春日山の歴史的背景の解説	倒木による土砂崩落（水谷川）	オオセンチコガネ
		
月日磐	葉っぱを触って違いを感じる	森で寝転がる
		
岩に張り付いた不思議な現象 （ヤマナメクジの通過跡）	ヤマビルの観察	若草山二重目から見下ろす東大寺大仏殿

春日山原始林・奈良公園フィールドワーク 第3回 概要報告

奈良教育大学研究員 杉山 拓次

実施日：2021年8月20日（土）18:00~20:00

参加者：20名

学生：11名、現役教員：4名 大学職員：1名 学外関係者：4名

担当：杉山、中澤

■実施場所：奈良公園浮雲園地・東大寺境内・春日野園地

■第3回 早朝の春日山原始林・若草山

2021年8月21日（金）18:00~20:00

概要：夕暮れ時の奈良公園・東大寺二月堂周辺を歩きます。二月堂からの景観や夜の奈良公園を歩き昼間の公園とは異なる奈良公園の魅力を体感します。

- 18:00 奈良公園・浮雲園地集合
- 18:10 ナンキンハゼに関する話
- 18:20 感性の体操
- 18:30 東大寺境内へ移動（吉城川・南大門・中門：兜跋毘沙門天）
- 18:50 鐘楼
- 19:00 二月堂（20分間、会話なしで静かに過ごす）
- 19:20 移動・月の出を眺める
- 19:30 移動（手向山八幡～鏡池～春日野園地～休憩所）
- 19:50 ふりかえり（各自感想）
- 20:00 解散

■概要報告

夕暮れから夜の東大寺周辺を散策し、千年以上続く境内の夜の空気を味わう機会とした。

主な趣旨が五感を意識して体験することだったため、目を閉じて行う「感性の体操」を冒頭に行った。移動中は、東大寺南大門や鐘楼の大仏様、俊乗堂などにも簡単に触れ、また、南大門では、ムササビの話、鏡池のワタカ、鹿の影響による公園の樹木への影響などについても簡単に説明した。

二月堂においては、日が沈み夜へと移行する時間帯を、一人でじっくり味わうことを目的に、会話をしないというルールを設けた。人と会話をしないことで、二月堂からの景観やお堂の常夜燈など普段はあまり気に留めていない事象に対して、ゆっくり向き合う機会とした。

二月堂から降りると、南東の空に月が出た。満月に近い月であったこと、周辺の街灯も少なかったことから、幻想的な風景を体験することとなった。

その後は、手向山参道でムササビの気配を感じたが、姿を見ることは叶わず鏡池から白蛇川を少し遡り春日野園地へ移動。若草山・春日山・御蓋山に月が昇る風景を楽しみながら、休憩所にて各自の感想を聞き、終了した。

■参加した感想

学生

- ・嫌なことを忘れられるような癒しの時間だった。
- ・神社をぶらぶらすることはあるが夜はなかなか来れないので新鮮だった。
- ・自然と一体化できる場所は限られるので、お寺や神社でそれを感じられるのは貴重だと感じた。
- ・東大寺は何度来ても飽きない場所だと思った。また昼に仏像を見に来て欲しい。
- ・雨上がりの匂いや音などの体験が新鮮で癒された。

現役教員

- ・(大阪から)奈良への遠足を予定している。子供たちは昼の体験となるが、夜の姿は全然違うということ伝えてたい。
- ・二月堂の風景を見て「奈良だなあ」と思った。こうした体験は奈良教育大ならではのと感じた。
- ・ずっと奈良に住んでいるのだが、こうして二月堂に来たのは初めて。こうした体験を子供達にもさせたい。
- ・二月堂にある神の印が二つあると教わったので次はそれを探したい。

学外関係者

- ・静かな二月堂が良かった。
- ・二時間ほどを何も考えずリラックスして過ごせて体が喜んでる。

■写真

		
二月堂からの風景	常夜燈	登廊
		
月の出	月齢 12.5 翌日が満月	休憩所でふりかえり

春日山原始林・奈良公園フィールドワーク 第4回 概要報告

奈良教育大学研究員 杉山 拓次

実施日：2021年10月2日（土）9:00～14:30

参加者：3名

学生：1名、大学職員：1名 学外関係者：1名

担当：杉山、中澤

■実施場所：高円山

■第4回 高円山登山

2021年10月2日（土）9:00～14:30

概要：春日山の南に連なる高円山。8月に戦没慰霊のために大文字の送り火の火床がある場所であり、かつて聖武天皇の離宮、尾上の宮があったとも伝えられる山です。春日山原始林と隣接する山ですが植生は大きく異なります。春日山との違いや、自然環境としての現状を確認しつつ、火床からの眺望を楽しみます。

9:00 大学正門集合

9:30 白毫寺町東山緑地にて鹿垣見学

10:00 高円山登山口付近の鹿垣、カシナガトラップ見学

10:20 高円山登山口登山開始（鹿による樹皮剥ぎ等を観察）

11:00 高円山火床到着・休憩

11:20 火床出発・山頂へ向け出発・途中鹿垣と思われる箇所、角とぎ痕など確認

12:00 山頂到着・折り返し

12:30 火床にて昼食

13:20 下山開始

13:40 滝坂の森へ到着・防空壕跡など見学

14:30 大学へ到着・解散

■概要報告

秋晴れの中、奈良教育大正門から、白毫寺町方面へ移動。東山緑地の鹿垣を見学。江戸時代に作られたとされる鹿垣の遺構を確認、また、周囲にある鹿の採食痕も合わせて確認。周辺森林のギャップには、ナチシダやナンキンハゼなどのシカの嗜好性植物のみが繁茂している状況を確認した。県有林エリアを抜けて、霊苑周辺の道から高円山登山口周辺に残る鹿垣を再び見学。東山緑地よりも石積みのはっきりと残っていた。

そこから高円山登山口へ抜け登山を開始。鹿の影響により下層植生がほぼない状況や、土砂の流出、倒木などが散見され、春日山同様、高円山もシカ、ナラ枯れ、気候変動の影響で一部崩壊が進んでいることを実感した。火床までの登山道では、ソヨゴやエゴノキなどに樹皮剥ぎ後が多く見られた。火床からは、景色が開け、北方は、春日山、若草山と奈良公園・東大寺大仏殿が見渡せ、駅前から森林がつながっている状況を確認できた。また、奈良盆地が一望でき、若草山三重目からとは異なる眺望を確認することができた。

火床から上がったエリアでは、クヌギやコナラ、アベマキなどの落葉広葉樹が多いこと、樹齢が低く

伐採後の萌芽更新によって根本部分が株立ちになっていたり太くなっているものが多く見られ、高円山が薪炭林として積極的に利用されてきたことが確認できた。また、林内に穴が開けられている箇所があり、戦時中の防空壕ではないかと想像される。

山頂までの道のりは薪炭林から、スギ・ヒノキの人工林に代わり、山頂付近は整地された平坦な場所にてた。周辺はナンキンハゼが繁茂しており、過去に駐車場と指定利用されていたと考えられる場所に出たのち、高円山ドライブウェイの展望休憩駐車場に出る。そこから数メートル車道をあがったところが山頂部で、過去には高円山ホテルがあったが2010年に廃業。現在は更地となっている。

そこから下山し、火床にて昼食。下山は、白毫寺ではなく、滝坂の道へ抜けるルートをとった。滝坂の道に隣接する県有林、通称「滝坂の森」はかつて防空壕であったと言われており、いくつもの横穴が掘られた痕跡が残っている。最後に高畑町周辺を歩き、春日大社末社の赤乳神社を見学後、大学へ帰着。春日山原始林とは異なる植生と、シカによる植生への影響、また過去に人が森を利用した痕跡が多く見られ、興味深い時間となった。

■写真

		
高円山登山口付近の鹿垣	樹皮剥ぎされた樹木	登山の様子
		
火床からの奈良公園方面	生駒方面	防空壕と思われる洞窟
		
シカによる角研ぎ	根上りしたスギ	高円山山頂付近の鹿垣



高円山山頂（ホテル跡地）



展望所にある歌碑



滝坂の森の防空壕跡

春日山原始林・奈良公園フィールドワーク 第5回 概要報告

奈良教育大学研究員 杉山 拓次

実施日：2021年10月24日（日）9:00～16:00

参加者：4名

学生：2名、学外関係者：1名

担当：杉山、阪本

■実施場所：春日山原始林

■第5回 春日山原始林

2021年10月24日（日）9:00～16:00

概要：春日山原始林を滝坂の道、春日山遊歩道をぐるりと1周歩きます。滝坂の道の石仏群や、遊歩道での杉の巨木、佐保川源流となる鶯の滝の自然を体感するとともに、原始林で起きている倒木被害や鹿による食害について学びます。1日を自然の中でじっくり過ごします。

- 9:00 春日大社国宝殿集合
- 9:10 滝坂の道へ移動
- 9:30 滝坂の道入り口にて、森を感じる体験
- 10:00 滝坂の道を歩き、石仏等を見学
- 11:30 首切り地蔵休憩所到着・休憩
- 12:20 大原橋休憩所にて昼食
- 13:10 鶯乃瀧到着
- 14:30 若草山山頂到着
- 15:00 遊歩道北部下山
- 16:00 水谷茶屋にて解散

■概要報告

春日山の滝坂の道～遊歩道～鶯乃瀧～ドライブウェイ～若草山山頂～遊歩道北部と全長12kmのコースを歩いた。滝坂の道の入り口にある苔の生えた広場（妙見宮の参道入口）では、しばらく森の中で寝転がって、音を聞いたりゆったりして過ごす時間を設けた。

その後、滝坂の道を上る。寝仏、夕日観音等の石仏のほか、ムクロジの実の泡立ちや、カギカズラなど春日山の特徴的な植物を観察した。また、倒木に生えた苔をルーペを使って観察するなども行い、森をゆっくりと味わいながら歩いた。首切り地蔵休憩所以降は、大杉を眺めたり、今年度設置された大規模の植生保護柵を観察したりしながらドライブウェイを歩いた。

昼食は大原橋休憩所で取り、世界遺産の碑で記念撮影を行なった。その後は鶯乃瀧を下りしばらく休憩。キッコウハグマの小さな花がたくさん咲いていた。

最後の急な登りとなる滝坂の道からドライブウェイまでの上り坂をあがり再び周遊道へ。その後は山桜などを見ながらゆっくりと歩き若草山山頂へ。山頂ではススキの穂が出て秋の深まりを感じさせた。最後に北部遊歩道を降りながら所々、印象に残った木を紹介し終了。

1日じっくり歩いた。

■写真

<p>森の中で寝転ぶ</p>	<p>寝仏</p>	<p>夕日観音</p>
<p>朝日観音</p>	<p>世界遺産石碑</p>	<p>鶯乃瀧</p>
<p>キッコウハグマ</p>	<p>春日山とススキ</p>	<p>御蓋山と奈良盆地</p>

春日山原始林・奈良公園フィールドワーク 第6回 概要報告

奈良教育大学研究員 杉山 拓次

実施日：2021年11月7日（日）9:00～12:00

参加者：4名

学生：1名、現任教員：1名 学外関係者：2名（うち未就学児1名）

担当：杉山、中澤

■実施場所：奈良公園・東大寺境内地（講堂跡周辺）

■第6回 奈良公園の樹木と自然あそび

2021年11月7日（日）9:00～12:30

概要：奈良公園には、多くの木々があります。特徴的な樹木を巡りつつ、自然の中でできる遊びを体験しながら、奈良公園を使って学ぶ手法などについて体験します。

- 9:00 奈良公園バスターミナル集合
- 9:10 屋上からの眺め、菊人形展を鑑賞・フィールドビンゴの用紙を配布
- 9:30 東大寺西大門跡周辺の樹木を観察（イチョウ、エノキ、ヤドリギ、イチイガシ）
- 10:00 依水園横から大仏殿裏へと抜ける（アキニレ、イヌシデ）
- 10:10 大仏殿横のシダレヤナギで葉っぱ笛の体験、瓦の観察（センダン、シラカシ、アラカシ）
- 11:00 大仏池にて観察（クスノキ、イチョウ、スダジイ、ラッパイチョウ）
- 11:30 講堂跡にてアクティビティ（色探し、葉っぱのグラデーション、妖怪みつけ）
- 12:00 終了

■概要報告

奈良公園バスターミナルから、大仏殿裏の講堂跡までのルート上の巨樹や特徴的な木々の観察をしたのち、葉っぱなどを使った自然遊びを行なった。冒頭に、フィールドビンゴを配布し、15マスあるお題をなんとなく意識しながら歩いてもらった。

東大寺西大門跡では、イチョウやエノキ、イチイガシなどを観察した。また、エノキに寄生していたヤドリギについて観察した。付近は、西大門跡のほか、南都八景の雲井坂についても紹介した。

東大寺境内では、シダレヤナギで葉っぱ笛を吹いた。簡単に大きな音が出るので楽しめた。また、周辺には古い瓦が落ちており、それらは非常に古いものであることなどを観察した。アラカシ、シラカシなどのどんぐりのほか、センダンやイチョウの実などさまざまな木の実を観察できた。

東大寺講堂裏では、ネイチャーゲーム（自然遊び）を行なった。

・日本の色探し

日本の伝統色のカラーチップを用意して、

周辺から自分のお気に入りの色を拾ってきて、日本の伝統色の何に該当するのかを探し、

日本の色の多様性に触れる。

・葉っぱのグラデーション

紅葉の段階を観察して他と比較して色の移り変わりを並べる。色彩について学んだり、葉っぱによって色や形、紅葉の仕方も異なることに触れる。

・葉っぱジャンケン

葉っぱの特徴を使ったじゃんけん。ギザギザやツルツルといった同定の際にも利用する観点について知る。

・妖怪みつけ

木々や葉っぱなどにある「顔に見える」ものを探す。自然の不思議な形に注目して、形の面白さを知る。また、木々や葉っぱを擬人化することで、植物に親しみを感じる体験をする。

最後に、フィールドビンゴの項目を確認してどの程度観察できたかを共有して終了。

■写真

		
柳の葉笛に挑戦	ナナミノキ	葉っぱのグラデーション

■フィールドビンゴ資料

春日山原始林・奈良公園フィールドワーク 第6回
奈良公園の巨樹と自然あそび

2021.11.07

奈良公園の自然さがし

奈良公園を歩きながら、枠内にあるものを見つけましょう！

 いい匂いのするもの	 木の实	 お気に入りの場所	 鳥の羽・野鳥	 日本の色
 グルグル	 人間以外のうんこ	 プツプツ	 昆虫	 花
 両生類	 妖怪 (顔や何か別のものに見えるもの)	 今日見つけた宝物	 ツルツルの手触り	 木の赤ちゃん
 は虫類	 いい音がするモノ・場所	 ピカピカ	 生き物のたべあと	 臭いもの
 ふわふわしているもの	 昆虫じゃない小さな生き物	 大きな木(巨樹)	 お気に入りの落ち葉4枚	 シカはなにをたべてるかな

春日山原始林・奈良公園フィールドワーク 第7回 概要報告

奈良教育大学研究員 杉山 拓次

実施日：2021年11月27日（土）9:00～14:00

参加者：4名

学生：8名、現任教員：2名、学外関係者：3名（うち未就学児1名）

担当：杉山、大西

■実施場所：春日山原始林・若草山

■第7回 春日山原始林の自然と課題（春日山遊歩道北部～若草山）

2021年11月27日（土）9:00～14:00

概要：世界遺産・特別天然記念物にも指定されている春日山原始林。指定された背景と現在も残っている史跡や自然の価値などについて学び、体感しながら歩きます。紅葉の春日山は独特の空気が流れています。遊歩道を抜けた先の若草山山頂からは、奈良公園を一望し、奈良の中心市街地に残されている自然環境について学びます。

9:00 春日大社国宝殿前集合

9:10 春日大社見学・参拝

9:30 水谷神社

10:00 春日山遊歩道

10:10 五感の体操

11:00 森で寝転ぶ

11:30 葉っぱジャンケン

12:00 雨天により、十八丁休憩所にて昼食

12:30 若草山山頂・見学

13:00 若草山下山

14:00 解散

■概要報告

春日山原始林北部遊歩道を若草山まで登るフィールドワーク。前日に公開講座で講師に来ていただいたカトリン・フंक氏にも同行いただき、秋の春日山原始林を楽しんだ。今回は「ESDと世界遺産」の受講生も参加したほか、奈良教育大附属中学校の教員のほか、前日講演の関係者なども参加し賑やかな会となった。

冒頭は、カトリン氏もいたこともあり、春日大社を見学・参拝からスタートした。春日山原始林と春日大社の関係について、確認したのち、春日山遊歩道を歩いた。原始林の中では、樹種による成長の違いや照葉樹林の特徴、現在起きている課題として、鹿の採食圧による植生の状況や、ナラ枯れ被害などについても見学しながら確認した。また、「森を体感する」体験として、恒例の目を瞑った五感の体験、森の中で寝転んでみる体験などを行った。紅葉が散りかけた状況であったため、寝転んでいるとシデの黄色い葉が舞い落ちる様子を見るなどゆったりと時間を過ごした。

途中、葉っぱを拾いながら行う「葉っぱジャンケン」を実施しながら散策したが、途中から雲行きが怪しくなり、雨に振られる。山頂間際であったため、奥山ドライブウェイ入り口の「十八丁休憩舎」

にて昼食をとった。ハイカーも多かったため、学生のうちには立って昼食を取るものもいた。その後、雨雲が通り過ぎて晴天となった頃合いを見て、若草山山頂へ到着。山頂からの風景などをながめ、記念撮影などしたのち、下山した。二重目からの大仏殿を見下ろす光景や、春日山・御蓋山・奈良公園と続いて近鉄奈良周辺まで森がつながっている風景を確認した。下山途中、再度雲行きが怪しくなり、雹が降り出した。下山したところで再び雲は晴れたが、天候が目まぐるしく変化する1日となった。

■写真

	
若草山山頂からの眺め	集合写真

春日山原始林・奈良公園フィールドワーク 第8回 概要報告

奈良教育大学研究員 杉山 拓次

実施日：2021年12月5日（日）9:00～15:30

参加者：学生：8名

担当：杉山

■実施場所：春日山原始林・滝坂の道・芳山

■第8回 春日山の石仏（滝坂の道・芳山登山）

2021年11月28日（日）9:00～15:30

概要：春日山原始林の南端を走る滝坂の道（旧柳生街道）には、鎌倉・室町期の石仏が多く残る地域です。森の中に突如現れる石仏は、春日山が春日大社の神山であっただけでなく、仏教にとっても重要な場所であったことを証明しています。フィールドワークでは、滝坂の道沿いの石仏と国の史跡指定されている春日山石窟仏、春日山の奥に位置する芳山の石仏をめぐる。昔の人がなぜ、この場所で石仏を掘ろうと思ったのか、何を祈ったのかなどに心を巡らせながら歩きます。

9:00 春日大社国宝殿前集合

9:10 春日大社見学・参拝

10:00 滝坂の道 みみの体操

10:30 苔の観察

10:40 寝仏・夕日観音見学

11:00 朝日観音見学

12:00 首切り地蔵休憩舎/休憩

12:20 苔仏見学

12:30 誓多林町公衆トイレ・八柱神社にて昼食

13:00 芳山登山

13:30 芳山石仏到着・芳山南峰経由で下山

14:20 春日山石窟仏

15:30 解散

■概要報告

春日山原始林南端となる滝坂の道を歩き、石仏をめぐるフィールドワーク。今回も、「ESDと世界遺産」の受講者6名が参加した。ティーチャープログラムでの参加は1名。

ESDと世界遺産受講者6名のうち、5名が1回生で、春日大社を訪れたことがない学生ばかりであったため、簡単に春日大社の本殿を見学後、上の禰宜道から、高畑へ抜け滝坂の道へ。

滝坂の道の妙見宮への入り口の広場にて、音を感じる体験を実施したのち、滝坂の道を上がる。シカによる影響について確認したり、ムクロジの実の泡立ち体験などを行いつつ、寝仏、夕日観音、三体地蔵を確認。滝坂地蔵については、場所の確認は行ったものの、双眼鏡を使っても確認ができなかった。その後、朝日観音を確認したのち、首切り地蔵にて休憩。滝坂の道途中にある、通称苔仏を確認したのち、峠の茶屋をこえて、誓多林町の公衆トイレ上の八柱神社にて昼食。

その後、芳山の芳山二尊石仏を目指し、登山。人工林エリアを登り鹿避けの柵を通過し到着。奈良時

代の作とされる阿弥陀如来の二尊の顔立ちの違いなどを確認、集合写真をとったのち、芳山を南峰を
經由して下山した。その後、春日山石窟仏を見学したのち、高山神社を經由して滝坂の道を下山し、
予定より 30 分程度遅れて到着。解散となった。

■写真



若草山山頂からの眺め



春日大社境内での解説



音を感じる体験



寝仏



朝日観音



苔の観察



苔仏の見学



柳生街道の崩落後地



峠の茶屋



昼食休憩



芳山の石仏



集合写真

2021年度 近畿ESDコンソーシアム 学が喜び・ESD連続公開講座 開催要項

1. 目的

新学習指導要領の前文および総則に「持続可能な社会の創り手」の育成が示されたことから、今後、全国の学校・園でESDの理念に即した学校教育が展開されていくと想定される。本公開講座は、学校教育の中核である学級経営や生徒指導、子ども理解や授業づくり、防災・減災教育、ESDなどについて、現職教員や教員経験者等、学校現場に詳しい方を講師に招へいすることで、学校教育やESDの実際について学ぶ機会として開催する。

2. 主催 奈良教育大学・近畿ESDコンソーシアム

3. 会場 奈良教育大学 次世代教員養成センター2号館 多目的ホール

4. 方法 ZOOMによるハイブリッド開催

5. 開催時間 19時00分～20時30分

6. 開催計画

第1回 令和3年 6月24日(木)「教育委員会が求める先生とは」

講師：前大牟田市教育長 安田 昌則 氏

第2回 令和3年10月26日(火)「教員としての6年間ー今、学生のみなさんに伝えたいことー」

講師：奈良市立飛鳥小学校 教諭 阿彌 茉央 氏

第3回 令和3年11月24日(水)「中学校家庭科の実践：食生活からエシカル消費を考える」

講師：奈良教育大学附属中学校 教諭 中嶋 たや 氏

第4回 令和3年11月26日(金)「タイムリミットはあと7年ーいま、わたしたちにできること」

講師：環境活動家 フルク・カトリン 氏

第5回 令和3年12月07日(火)「ESDの必要性を学校の教員にとって、一番大事なものをお伝えします」

講師：前八名川小学校長 手島 利夫 氏

7. 参加者

近畿ESDコンソーシアム構成団体に所属する教員等

奈良教育大学の大学生・大学院生・教職大学院生

8. その他

- ・参加料は無料
- ・ESDティーチャープログラムのESD演習にカウントできる

2021年度 第1回学が喜び・ESD 連続公開講座 概要報告

奈良教育大学 中澤静男

開催日時	2021年6月24日(木) 19時~20時30分
会場・方法	奈良教育大学次世代教員養成センター2号館 多目的ホール ZOOMによるオンライン・ハイブリッド
参加者数	対面式:10名、オンライン:58名 計68名
内容	「教育委員会が求める先生とは」 講師:前大牟田市教育長 安田 昌則 氏

1. ユネスコスクールのまち・大牟田



安田 昌則 氏

- ・かつては「炭の都」:石炭化学コンビナート
昭和30年代には20万人規模であったのが、10万人まで人口減少・高齢化
- ・大牟田は持続可能な街を目指さなければならないという使命感のもと「ユネスコスクールのまち 大牟田」の第1歩として、ユネスコスクールへ全市立学校が加盟申請。
- ・「ユネスコスクール・ESDのまち おおむた」宣言
- ・「まちづくりは人づくり」という基本方針の中、教育課程(ESD年間指導計画)・公務分掌(ユネスコスクール担当者)の中にESDを位置づけた。

- ・【基本理念】「社会を生き抜く力を身に付けた「おおむたっ子」の育成」
- ・大牟田市の教員の年齢構成:20代・30代が多い。40代は少ない。20代・30代の先生に、学校全体の運営への意識を持たせ、教員をどのように育てていくのが課題。

2. これからの教育観

(1) 現代:知識基盤社会

グローバル化。情報化・少子高齢化・資源の有限化・地域コミュニティ

- ・VUCAな世界(不安定 Volatility、不確実 Uncertainty、複雑 Complexity、不明確 Ambiguity)
- ・第4次産業革命 AI society5.0 に生きる子どもを育てるのが私たちの役割
- ・型の決まっていない非反復型の仕事を中心になっていく
- ・ラーニング・コンパス

VUCAな世界で満足のいく人生を過ごしていくために、生徒がウェルビーイングの実現(自分自身、他者そして地球の)に向けて自分をナビゲートするよう学ぶことが必要である。

- ・生徒のエンジェンシー

「生徒が自分自身の生活や周囲の世界に対して良い影響を与える意志と能力を有しているという信念」

「目標を設定し、変化を生じさせるために責任ある形で振り返り、行動する能力」

- ・OECD Education 2030 プロジェクト:変革を起こす力のあるコンピテンシー
①新たな価値を創造する力、②対立やジレンマを克服する力、③責任ある行動をする力

(2) 学習指導要領ではESDが基盤となる

①学びに向かう力・人間性に関して：どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか

ESD 的価値観と行動：ESD の学びを通じて多様性を尊重する態度や協働する力、主体的に持続可能な社会づくりに向けた態度や価値観の涵養

②思考力・判断力・表現力

ESD 的問題解決プロセス：ESD の探求・問題解決プロセスでの問題を発見する能力や、批判的、体系的。包括的な思考力等の育成と様々な場面に応じた判断力や意思決定能力の育成、協同的な学びのなかでのコミュニケーション力や表現力の育成

③知識・技能

ESD 的知識・技能：ESD のによる体験と関わり、探求や問題解決等の活動を重視した実感的かつ体系的な理解の促進と、観察や実験、探求等の実践的な技能の習得

(3) 学校現場における ESD のさらなる推進方策

- ・ ESD はアクティブ・ラーニングを実践する上で効果的である
- ・ ESD は学習指導要領に基づく指導内容を充実させるものである。

(4) 大牟田の学校では

- ・ ESD は子どもたちが地球規模の課題を自分の問題としてとらえ（自分事）、自分なりに考え、行動するための学びとしてとらえている。（自分自身と社会を変容することを学ぶ）
- ・ ESD を推進することが SDG s の達成に貢献することになる。

3. 教師の役割

- ・ 第 2 期 ESD 国内実施計画 教育者の能力構築の重要性が示されている
- ・ ESD に関する世界会議：ESD に関するベルリン宣言：ESD 推進のための教師の重要な役割が明記
- ・ 奈良教育大学の 3 つの柱：「持続可能な社会づくりに貢献できる教員の養成」

(1) ユネスコスクール教員へのアンケート

- ・ 教員のカリキュラム・教授法の変化について

- ①カリキュラムマネジメントを工夫するようになった
- ②授業等を見直す機会をもつようになった
- ③教材や資料、発問を工夫するようになった
- ④課題を発見できるようなカリキュラム開発をするようになった

- ・ 教員の学校運営の変化

- ①地域の方々と交流し、双方の信頼関係が深まった
- ②学校全体で ESD に取り組む機運が高まった
- ③継続的に実施できるような仕組みづくりをするようになった
- ④教員間で持続可能性に関する価値観を話し合う場をもつことができるようになった。

(2) 教師の姿勢

①ウィリアム・アーサー・ウォード

凡庸な教師は指示をする

良い教師は説明する

優れた教師は範となる

偉大な教師は内なる心に火をつける

②子どもたちが主体的に取り組む仕組みづくりが大事だ。

・修学旅行先で大牟田の産品を販売しよう

新しい特産品を考え、販売しよう HAKKO クッキーができた

大牟田の良さを知る。良さを発信しよう。

大牟田を知る。大牟田の課題を知る。高齢者の一人暮らしが多い ペアショッピング

共生社会に向け生徒たちなりに考え、行動する。

※中学校で ESD を学んだ子どもが大きくなって、大牟田市の教員になってくれたのがうれしかった。教育を受けるものが、自ら進んで学習に取り組む意欲を高めることが重要だ

ユネスコスクール・ESD 子どもが自ら学び、ともに学び合う 主体的で対話的で深い学びができる

(3) 心に火をつける教師

①人間的魅力

教師が自己を磨き、日々精進し事故を変えようとする。生徒一人一人を本気で育てようとする

②生徒に対する深い愛情

生徒一人ひとりの実態を十分に理解し、真剣に指導していく

③学び続ける姿勢

学習指導力、授業構想力、生徒指導力、集団指導力等教員の力量を高めるために学び続ける

(4) ESD を推進する教員に求める力

①世の中の動きに敏感で、現代社会の課題を理解していて、その課題の解決に教育が果たす役割を強く感じている。

②子どもの意志決定や主体的な学びを大切にする教育の姿勢をもち、人間的な成長を促そうとしている

③物事を関連付け捉え、考える力があること。

④ネットワークをつくり、多様な人々と協働することができる。

⑤カリキュラム・マネジメント力がある

・地域の教育資源を効果的に活用して教材をつくることができる (教材開発)。

・教科横断的なカリキュラムによる効果的な指導ができる。

・専門家活用するなどして子どもの探求的な学びを支援。指導することができる。

※大事なことは一生懸命な姿

※みんなと一緒に取り組んでいくんだという意欲

※令和の日本型学校教育：教員は伴奏者、スタッフとチームとなって取り組む

ルイ・アラゴンのことば

教えるとは希望を語ること

学ぶとは誠実を胸にきざむこと

奈良市立飛鳥小学校 教諭 阿彌茉央氏

参加者 57名

『初任校での6年間 ―大学生のみなさんに伝えたいこと―』

奈良教育大学心理学専修 卒業 教員歴6年目

担当学年：3・3・5・6・6・1年

自分が学生の時に知りたかったことを今日は話したい



1. 教員を目指したきっかけ

小学校6年生の時 金管クラブに入っていた

音楽の先生が顧問（授業ではやさしいのに、クラブではとても厳しかった）

夏の大会前 先生に呼び出される

「しんどそうだけど大丈夫？ いつもがんばっているからちょっと休憩しよう！」

自分のしんどかった雰囲気に気づいてくれていた → 自分もそんな人になりたい

高校3年の秋 その先生にコンクールの報告と進路の相談をしに行った

「あなたのような人にぜひ先生になってほしい！」と言われ小学校教員という道を決意した

奈良教育大学に進学し、教育実習後、決意が固まる

2. 小学校教員の仕事

授業準備	}	学級担任の仕事 + 校務分掌
教材研究		
授業		
丸付け		
生徒指導		
家庭連絡		

校務分掌…職員で分担してあたる仕事

特別活動主任、ESD・ユネスコスクール担当（ESDの研修、世界遺産学習の検討）

・運営委員会担当

・1年生を迎える会

・奈良公園オリエンテーリング

・6年生を送る会

・スペシャル部団会

行事の企画、運営

①私の一日（何もなかった日・1年生）

7時40分 出勤 授業準備 丸付け

8時20分 職員朝礼

8時30分 授業

休み時間→丸付け、あそぶ、生徒指導

15時 家庭連絡 丸付け 授業準備 校務分掌

18時30分 退勤

何かあった日（子ども同士のトラブル、保護者から問い合わせがあった など）

退勤時間は遅くなってしまう

②教員生活での学び・やってよかったこと！

学んだことをためてみる

（学級経営でためてよかったこと）

- ・毎日当番…一人ずつに毎日やる仕事が決まっている → 責任感
- ・会社活動…係活動（なくてもいいが、あったらみんなのためになる）実績を投票
給食優先権、席自由権、1時間自由権など → 自主性
- ・できたこと表 3・1年
- ・朝の会でのスピーチ 1年
- ・交換ノート 6年
- ・学級目標 覚えやすいインパクトのあるもの

本や周りの先生からとにかく積極的に学ぶ

授業・学級経営・仕事の進め方

尊敬する先生との出会い → そこから学んだこと

魅力的な授業、全員発表、体育での仲間づくり、交換ノート、大縄記録会・・・

いい学級って… （それまでは、ただ「楽しい学級をつくりたい」と思っていたが）

楽しんで、ただ楽しいだけじゃない

努力したからこそ味わえる本当の楽しいがある

子どもが成長する

学級みんなが楽しい、笑顔

みんないい顔、学級としての一体感が生まれる

子どもに対する思いをもつ

- ・授業づくり
- ・信頼関係（子どものことをよく知っていることが前提） → 子どもの安心感
- ・子どもが笑顔で過ごせる学級

子どものことを考えて行動することが一番大事

近畿 ESD コンソーシアム ESD 連続セミナーでの学び

- ・ほかの学校の先生との出会い
- ・授業っておもしろい！
- ・こんなことやってみたい！
- ・子どもたちが変わっていくのを間近で見る体験

【連続セミナーで実践した授業例】

『飛鳥スマイルキッズ ーよりよい「飛鳥」のためにー』（6年 総合的な学習の時間）

今までお世話になった地域の人を笑顔にしたい！

奈良や飛鳥のために、自分たちはどんなことができるだろうか

→ 観光チーム・環境チーム・イベントチーム

活動しての気づき 喜び 地域の人への感謝の思い

オン・オフの切り替えをしっかりとる

…いろんな職業の友達とおもいきりあそぶ！

教員の友達…仕事の相談、今自分が頑張っていること、励まし合い

教員ではない友達…仕事内容について教えてもらう

とにかく休日は遊びまくってリフレッシュすべし！

教員にとって必要な力って何？

- ・授業力
- ・学級経営力
- ・コミュニケーション力
- ・仕事を効率よく進める力
- ・物事を多角的に見る力



3. 教員になるまでにやっておいてよかったこと

①いっしょうけんめいになる経験

吹奏楽の部活動 目標を達成できなかった時の悔しさ、達成できた時の感動

いっしょうけんめいになることのしんどさや楽しさ 支え合う仲間の大切さ

支えてくれる周りの人への感謝の気持ち

自分の言葉で子どもたちに語れる体験

②野外活動センターでのボランティア活動

自然の魅力を知った 普通の大学生ができない経験 子どもと関わる楽しさや難しさ

③教員と関係のないアルバイト

服屋でアルバイトをしていた

服を上手にたためる コミュニケーション力の向上 どんな時でも笑顔 一般常識を学べる

学生のうちにもっとやっておけばよかったこと

学校でのボランティア

趣味を見つける

平日にしか味わえないことを満喫する

オールで遊ぶ

ならまちで遊ぶ

はめをはずす

最後に・・・小学校教諭の魅力

- ・ 1～6年生まで幅広い子どもと関われる
- ・ 成長を感じられる
- ・ いっしょに成長できる
- ・ 毎日が同じではない
- ・ 子どものエピソードで思い出し笑いができる
- ・ 夢中になれる



学生のみなさんへ

今のうちにしかできないことをいっぱいやっておくことが大事

それが教師になったときに必ず役に立つ とにかくいろんな経験をしておくこと
教師の仕事はよくブラックだと言われるが、自分が子どもと一緒に成長できる仕事
人と関わるということは、それだけ時間もかかる
気持ちの持ち方と仕事の工夫次第でなんとでもなる。決してブラックではない。

『食生活からエシカル消費を考える』 参加者 51名

1. 家庭科と ESD

2008年 ESD が本校のテーマに

「ESD を視野に入れた家庭科の授業の取り組み ～地産地消を意識したメニューづくり～」
生活を批判的に見る家庭科は、すべてが ESD !

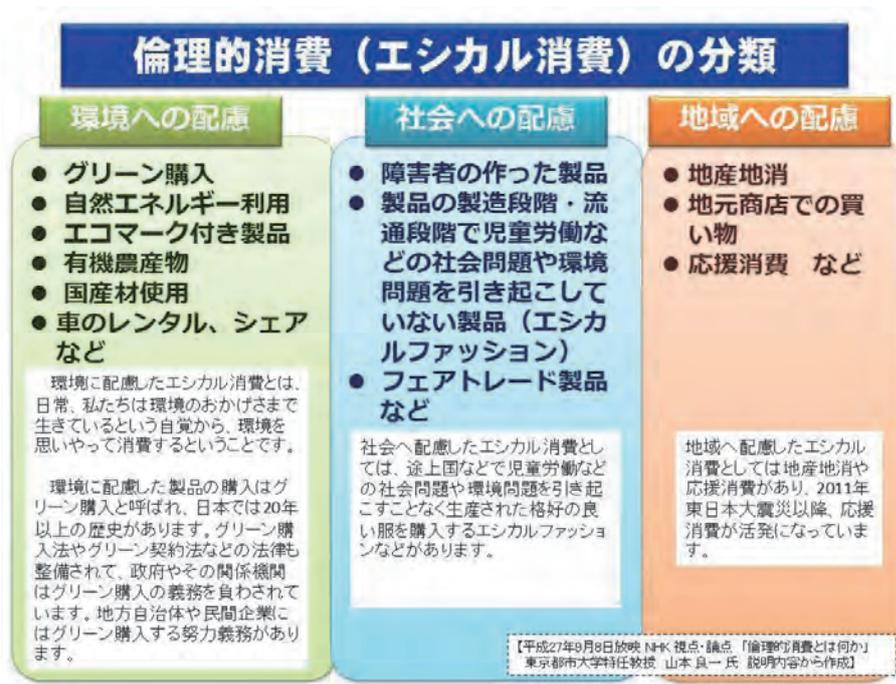
2. 食生活からエシカル消費を考える

①エシカル消費に出会うまで

消費者教育の必要性を痛感 大量生産・大量消費ではダメ！

書籍を探す中で、末吉里花氏の「はじめてのエシカル」と出会う

エシカル消費…倫理的消費。「よりよい社会に向けた、人や地球環境、社会、地域に配慮した消費行動」のことを言う。



②題材をどうするか

中学生だから日常生活に結び付く食生活で考えさせたい

フェアトレードのレトルトカレーを見つける

「あなたは、どのカレーを選ぶ？」 1年目は失敗した

カレーの候補

あなたは、どのカレーを選ぶ？

<p><A>あるカレーショップの 野菜カレーのテイクアウト 1069円</p> 	<p>レトルトカレーとパックご飯 350円</p> 	<p><C>大和野菜と大和ポークのカレー 1080円</p> 
<p><D>オーガニックレストランのカレー 1000円</p> 	<p><E>7&7のレトルトカレー とごはん 600円</p> 	<p><F>福島県産の食材を使ったカレー 850円</p> 

③初年度計画

課題 「エシカル消費」とは何だろう？ レポート（一方的に知識を入れない）

第一次 エシカル消費とは

第二次 エシカル消費を考えた食生活 「どのカレーを選ぶ？」

【授業の成果と課題】

- ・カレーという身近な題材なのでよかった。意見交流も活発にできた。
- ・カレーという選択は架空のものであって実際の買い物とは異なる。
週末に自分で必要なものをエシカルの視点を意識して買い物させてみるべき。

④2年目指導計画

最初から「週末買い物に行ってみよう」を計画の中に入れる

「エシカル消費の企業の取り組みを調べてみよう」を夏休みの課題レポートに

→企業の実態を調べ、そこから考えることで企業に自分の望む食品を求めるプロシューマーかつエシカルコンシューマーとしての力をつけることを目指した

(実践する中でわかったこと)

- エシカル消費に関する商品をおいていても、目立たずわかりにくい。
- エシカル消費に取り組んでいてもそれが消費者に伝わっていない。
- エシカル消費に関わる商品は割高になっている。

(企業の姿勢について子どもたちが感じたこと、企業の対応の良さ、子どもたちと確認したこと)

- HPでその会社のCSR(企業の社会貢献)について調べた上で、それについての質問のメールをしたのに、「HPを見てください」という返事がきた。なぜ、HPを見て上での質問なのに、こんな返事しか返ってこないのか。
- 「消費者の関心がエシカルに向いていない。消費者の関心がエシカル消費に向いたら取り組みをしようと思う」という返事がきた。本当にやる気なら、消費者のせいにせず取り組むべきである。
- 友達といっしょに連絡したら、事務所でパワーポイントを使って講習してくれただけでなく、質問にも答えてくれて、最後にはエシカル消費に関するサンプル商品までくれた。感激した。
- メールで質問を送ったが返事がなくてあきらめかけていたら、突然電話がかかってきた。なにかと思うと自分が質問したことについて、電話で丁寧に答えてくれた。
- エシカル通信簿で上位にあがっていても、質問に答えてくれない企業があれば、上位でなくても

丁寧に答えてくれる企業もある。本当に消費者に優しい企業はどこかをきちんと判断しなくてはならない。

○「消費者がエシカルに関心がない。」という答えはズルい。消費者に訴えるくらいでないと。

3. 「新聞に投書しよう」に取り組む

企業の対応に対する子どもたちの声から取り組むことを決める

政治・企業の積極性を求めるもの

最近、エシカルという言葉を書くようになった。それは、まだほんの一部で知らない、聞いたことがない、または、聞いたことはあるがやったことはないなどの意見の人が、大半をしめるのではないか。それでも、現在は、少しの大企業がエシカルに注目して、それぞれ活動を始めている。エシカルには、様々な種類が存在する。例えば、フェアトレードやオーガニックなどがあるが、日本では、地産地消などがある。エシカルは聞いたことがなくても、地産地消は有名だと思う。しかし、地産地消ですら取り組まない人が多い。そこで目立つのがエシカルの欠点である。エシカルの欠点は、まず知名度がかなり低い。これが一番の原因だと思う。そして、値段が高い。日本は食料などを多く輸入しているため、安い外国産のものが売れやすい。日本でも、地産地消がうまくできていなくて生活が苦しい農家の人もいる。ましてや、福島県などの被災地などは風評被害で、せっかく育てた作物がだめになってしまうことも珍しくない。日本の政治は何をしているのだろうか。政治活動費が、改革が、と騒いでいる場合ではない。企業も利益ばかりに目を向けず、こういった取り組みの活性化をしてほしい。今の日本は視野がせますぎる。もっと世界にも目を向けて、こういった面でも、どこかにいる誰かを助ける一歩をこの世界にいる様々な人と踏み出したいと思う

消費者としての意志を示すもの

この世の中には「エシカル消費」という言葉が存在し、多くの企業が活動を行い、地域や世界とつながりを持ち、取り組んでいる。そもそも、みなさんはエシカル消費を知っているのだろうか。私は、家庭科の授業でエシカル消費の存在を知った。そして、スーパーなどで「地産地消」のものや、「フェアトレード」のもの、そして「オーガニック」などの商品を探した。しかし、よく探せば色々なエシカル消費を意識した商品があるのに、見つけにくい場所にあったり、ブースがせまかったり、値段がすごく高かったりする。そんな状態でエシカルの活動は進むのだろうか。人は目についたものや、安い物を買うと思う。なので、企業とスーパーが連帯し、少し目につく所へ置いてみたり、値段を少し安くする努力をしてはどうだろうか。しかし、実際はそんなに簡単なものではない。でも、ちょっとした努力や活動がエシカルを広めることにつながるはずだ。例えば、エシカル DAY をつくり、週に1回だけ割引を行ってみたり、目のつく場所においてみる。そんな活動が地域や貧困な国々、環境、そして未来の助けになる。エシカルは一人一人の協力が必要で、あなたもその一人だということをわかってもらいたい。

問い合わせに対する企業の姿勢を問うもの

僕は夏休みの課題に、「企業のエシカル消費に関する取り組みを調べ、レポートにまとめる」というものがあつた。僕はそのレポートを書くべく、3つの上場企業を調査対象とし、各社のHPをよく読んだ上で、不明だった点などをメールで問い合わせた。うち1社からは、参考資料もそえた回答を頂いた。しかし、残りの2社からは、これといった回答はなく、「HPを見てね。」という内容のメールだけが返ってきた。それって、どうなのだろうか。こちらはHPの内容を踏まえて質問しているのに、「HPの内容を見てね」って、ちょっと的外れではないか。もし、あのHPに書いてあるあまりに抽象的な内容が公開情報のすべてなのであれば、それは見直すべきだし、仮にそれ以上の情報を開示できないのであれ

ば、そう明言すべきだ。膨大な数の問い合わせ一つ一つに時間を割けるほど、企業の方々が暇ではないのも分かる。ただ、あのようにはぐらかすのでは、企業としての姿勢が疑われる。社会貢献を謳うのであれば、耳あたりのよい言葉だけを並べるのではなく、きちんとした具体的な根拠を示すべきだと僕は思う。

企業・消費者の双方の努力の必要性を述べたもの

近頃、エシカル商品を提供する企業も増えてきていて、それに伴いエシカル消費について考える機会も増えているかと思います。私も学校の家庭科の授業でエシカル消費について学びました。しかし、エシカル消費を考える機会が増える一方で、人々がエシカル商品を購入することはあまりないとわかりました。私が宿題でエシカル商品の買い物に行った際、「レインフォレスト・アライアンス」の商品は見つけられても。「フェアトレード」や「オーガニック」の商品を見つけることができませんでした。その理由は企業にあります。「エシカル消費について考える」ことは増えても、商品がたくさんの人に渡るのは時間がかかると思います。私も学ぶまでは気にしていなかったし、探すのも大変でした。なぜなら、「エシカル商品」という記載が大きくされていないからです。企業が全面に出さないのにはエシカル商品は他の商品に比べ、コストがかかり、その分値段も高くなるなどという難点があるからでしょう。しかし、エシカル消費はこれからの地球に大きく関わってくると私は考えています。地球環境の改善のためにエシカル消費を浸透させるには、企業の協力、そして消費者側の協力も必要となってくるのではないのでしょうか。

大人たちにエシカルを伝えることの必要性を示したもの

最近、学校での学習で、「エシカル」という観点での関心が高まっています。エシカルはESD、持続可能な社会のための教育において重要なポイントとなってきます。家庭科ではもちろん、社会の授業でも、エシカルの1つであるフェアトレードについて学習しました。家庭科の授業を通して、私が考えるのは、「学校で学んでエシカルについて興味も持った生徒がいたとして、その知識をどうやって大人へ伝えていくのか」ということです。エシカルという言葉を知っている人もいます。私は、とある企業に、「エシカルについての取り組み」についてインタビューをしました。しかし、エシカルについては、「客側からのエシカル商品についての要望や、関心が高まってきたら、取り組みを考えていこうと思っている。」という返答しかいただけませんでした。つまり、エシカルについて消費者が考えていかないと、その企業はエシカルについて考えない、エシカルという見方が生まれにくいということです。授業中、他の企業ではエシカルについて大きく取り上げ消費者伝わりやすい工夫がされていました。では、なぜそのようなエシカルの観点が、企業によって大きく差がひらいているのでしょうか。そこで私が企業に求めたいことは、「客からの視点優先ではなく、企業からの視点で、もっとエシカルについて考えていく。」ということです。客の視点では、視野が狭く、この地球全体で考えていくことができません。だから、企業からの視点で考えると、企業同士の連携もできて、考えの輪が広がっていき、企業からの社会、社会からの世界、世界からの地球全体へと大きな輪ができるでしょう。そして、輪が大きくなるということは、消費者の目にとまりやすくなるということですから、エシカルについて深く考えられるようになるはず。なので、私たち生徒が学んだ、エシカルの知識を、身近なひとでもいいので、伝えて、深めて、考えていくと、企業の耳にも入って、地球の問題について考えていけると思います。

消費者市民社会の形成者を育てることは、持続可能な社会の発展のために大切

→ エシカル消費の考え方を子どもたちに伝えることは大切！

主権者としての生活者を育てるために

消費者市民社会の形成者を育てることは、主権者としての生活者を育てることにつながる

4. エシカル消費の実践のまとめとして

子どもたちは主権者として、生活者としての一步を踏み出しつつある。

実践の内容の改訂を重ねる中で、さらに子どもたちは食生活を通してエシカル消費について考えていきたい。

5. 学生の問いを起点にした世代間交流授業へ

ある知り合いの小学生（4年生）の疑問 → 中学生はどう思うだろうか？

今プラごみをへらすために、いろんなものが紙になっています。紙は木からできています。小学校のSDGsの授業で、今は木や森がへってきて、温暖化の問題があると習いました。プラスチックはへっても、紙のストローやふくろをつかったら、木や森はへって、温暖化はかいつしなないんじゃないでしょうか。

授業化の背景

①朝日新聞の「レジ袋有料化から考える」の記事を見つけた。日々の買い物に直結する問題。

②フェアトレードのことだけでいいのか。もっとできることを考えて行動することが必要だ。

「レジ袋有料化から考える」

→ 子どもたちが書いたワークシートをすべてコピーして小学生に送った。→ 返事が来た！

返事からまた考える

◆この問題は世界全体で解決していかなければならない問題です。だからこそ、私達は考えることに積極的になれませんでした。ですから、こうして考える機会を与えてくれてありがたかったです。私達は普段知識として勉強するため、考えて学ぶことの大切さを改めて感じました。また、小学生の子がこんなことを考えていると思うと、私もきちんと様々な問題と向き合っていかなければと思いました。これからの世界を担っていく世代の私達が考えなくては何も始まらないなと思います。

「中学生の意見に対する大学生のコメント」から考える

①大学生からの手紙に対する感想

②仲間の手紙に対する感想から考えたこと

③小学生・大学生と交流しての感想

小学生からは関心の視点、大学生からは知識の視点、私たちからは未来に生きる者の責任の視点、この3点があることによって、地球環境について多角的にそして現実的に目を向けられたと思う」と言う声もあった。

6. 二つの実践を通して考えたこと

◆教師が生活の課題に目を向け提示することで、中学生が自分事として生活について考え、意見交流することができた。

◆教師がワクワクする気持ちをもって実践に取り組むことが大切である。

◆家庭科はESDをリードする教科である。

第4回学びが喜び・ESD 連続公開講座概要報告

奈良教育大学 中澤静男

- ◇開催日時 2021年11月25日(金) 19時～20時30分
- ◇会場・方法 奈良教育大学次世代教員養成センター2号館多目的ホール・ハイブリッド方式
- ◇参加者数 対面：25名 オンライン：64名
- ◇内容

「タイムリミットあと7年」フランク・カトリン氏

1. 自己紹介

- ・動画「ワタシが日本に住む理由」視聴 愛知・名古屋を中心に環境活動をしている。
- ・高校生のホームステイで来日。18歳でワーキングホリデーで再来日。上智大学に留学、名古屋の企業に就職

2. 環境活動を始めた理由

- ・ドイツでは学校で環境について学んでいたが活動するまでにはいたっていなかった。
- ・2018年フィリピンでホームステイをした。その際の台風ハイエンによる大きな被害の話をホストファミリーから聞き、先進国の住民としてこれまでCO2をたくさん出しており、CO2をほとんど出していないココナッツ畑で働いていた人が大きな被害を受けるのは、不公平だと感じた。
- ・まず、ライフスタイルを変えようと思った。自分なりにできることをしようと、ビーガンになった。また、マイボトル・マイ箸を持つようになった。
- ・地球温暖化を防ぐ上で、タイムリミットがあることを教えられた。1.5度を超えてしまうと、地球環境の温暖化が不可逆的に進んでしまう。このペースでCO2が排出されていけば、あと7年で1.5度を超えてしまう。
- ・もっとできることがあると考え、Friday for Future名古屋チームを3人で立ち上げた。
- ・2019年9月グローバル気候マーチのオーガナイザーとなった。300人も参加してくれた。全面的に環境活動をやっていきたいと思うようになった。

3. 自分なりにできること

- ・毎月1回のゴミ拾い 毎月第2日曜日 10時～ 70人程度の参加があり、100キロほどのゴミを拾う。
- ・地球に優しい料理(ビーガンの料理)を紹介するイベント
- ・NPO法人 HAPPY PLANET を立ち上げることにした。
環境問題・社会問題を扱い、誰もが幸せになる社会をつかっていきたい。
今、ブラックボックス化している状況を知る化することからはじめよう。
- ・辞職して環境活動をしようと思ったが、会社から意識啓発活動・サステナビリティ研修を依頼され、現在はサステナビリティ推進室に所属している。

4. サステナビリティについて

持続可能な社会をつくらないと気候変動を解決できてもまた同じようなことが起こる。サステナビリティとは、人間活動をいつまでも続けられること。そのための資源を将来世代に遺すこと。

大量採掘 ⇒ 大量生産 ⇒ 大量消費 ⇒ 大量廃棄 この流れがますます早くなっている

問い1. 世界の人が日本人と同じような暮らしをすると、地球何個分の生産力が必要になるか？

2.7個(今は1.7個)

不足をもたらしているのは、先進国の人々の暮らし。今のままだと、資源がなくなります。

5. 持続可能性の4つの障害

(1) 化石燃料を使いすぎている

CO₂の濃度について、それまでは300PPMを超えたことがなかったが、産業革命とともに300PPMを超え、今は420PPMになっている。

温暖化 1.1~1.2度上がってきている。気候変動による異常事態

①生態系の変化、②干ばつ、③火災、④氷が溶ける、⑤豪雨・台風
人の住める場所が少なくなってくる。食料不足が予想される。

問い. 気候変動の影響を受ける国のランキングで日本は何番目ぐらいか? 4位 (2019年)

▼日本は温暖化の影響を受けやすい国

▼2100年には6.4度上昇するかもしれない。

パリ協定 1.5度までに温度上昇を抑えようとしている。

1.5度をこえると不可逆的な状況になる可能性がある。

臨界点を超えるまで、あと7年しかない。

カーボンバジェット MCCのウェブサイト参照

※私たちにできること

- ・省エネすること (節電・節水)
- ・再生可能エネルギーに切り替えること 2016年から電力の小売全面自由化開始
一般家庭から出るCO₂の半分は電力使用から

(2) 人工的な物質の過剰生産

海洋プラスチックごみの排出量 (800トン以上/年)

すべては自然から来て自然に戻るが、人造物質は自然に戻れない

プラスチックは自然を汚染し、健康にも悪影響を与える。

現在、私たちは毎日プラスチックをたべている。

週に1枚プラスチックカードを食べているようなもの。(WWFのHPより)

▼マイクロプラスチックの発生源

プラスチックのリサイクル率は18パーセントにすぎない

※私たちができること

リデュース (ごみを減らす)、リユース (再利用)、リサイクル (再生利用)
長く大切に、繰り返し使う。(日本の形見というのはいいいシステム)

(3) 自然の破壊

私たちはあまりに早いペースで不可逆的に自然を破壊している。

1分当たりサッカー場40面ぐらいの森林を破壊している。

※私たちにできること

- ・肉・乳製品の消費量を減らす。ビーガンになった。
牛を育てるために熱帯雨林破壊の90%を引き起こした。
哺乳類の中で人間は36%、野生動物は4%、家畜は60%
畜産はすべての交通機関と同じCO₂を排出している。全排出量の14%に至る
- ・週に1日だけ肉を食べない日をつくる、とか。

(4) 社会の不平等 自然の限界と基本的な人間のニーズのバランスがとれていない。

すべてのお金の 50%を 1人が持っている。10%の人が 85%のお金を持っている。

先進国は途上国に支援しなければならない。責任がある。なんでもお金で回っている世界ではバランスが取れない。

※私たちにできること

- ・自分の声を使うこと（グレタさんのように）。周囲にうったえかける。
- ・選挙に行って投票すること
- ・エシカル消費 地球と人にやさしい買い物 認証ラベルを参考に
どこで生産されたものか？ 中古製品を買うこと

将来世代に美しい地球を残すことができる

しかし、地球の課題への関心が低い 深刻さが知られていない 意識啓発活動が重要だ

6. 日本とドイツの異なるところ

①メディアの違い。

1995年ドイツでは気候変動がテレビ番組でニュースになっていた。今も毎日のように報道されている。

②教育の違い

自分の意見を述べる力を育てることが中心になっている。意見を発信できる人を育てることを大切にしている。

日本の投票率は低い。それは危ないと思う。若者に政治に興味を持ってもらうことが大事。

③活動の中で大事にしている3つのことば

「過去と他人は変えられない。自分と将来は変えられる。それが他の人をインスパイアできるかもしれない。」

「小さなことからコツコツと！」

「一人の100歩より、100人の1歩」。

・とにかく楽しく！一歩一歩で明るい将来へ。

7. グループワーク：衣・食・住 自分たちにできることを考える

【食】

- ・食料品の購入の際に海外支援に関連した食品を選択する
- ・地産地消を進める
- ・プランターでゴーヤの栽培 グリーンカーテンで冷房の使用量を減らす。
- ・遠いところから来たものは敬遠する
- ・手前どりを率先する。
- ・家庭菜園をして、野菜中心の食生活にしていく。
- ・毎週金曜日は大学生協のメニューをミートフリーにする。ビーガンプレート。

【住】

- ・過剰包装のものを買わない
- ・お米のとぎ汁をお花に
- ・化学洗剤の使用量を減らす

- ・節電（人が来たときに点灯する）
- ・電力会社を選ぶ
- ・節水のシャワーヘッド
- ・がまんすれば何とかなる
- ・断熱効果の素材を使用する。

【衣】

- ・古着は切って、拭き掃除に使用する。
- ・質のいいものを長く使う
- ・メリカリを使う。いらなくなった服は回収してくれる



第5回学び喜び・ESD 連続公開講座

奈良教育大学 中澤静男

- ◇開催日時 2021年12月7日(火) 19時～20時30分
- ◇方法 ハイブリッド方式(次世代教員養成センター多目的ホール、ZOOM)
- ◇参加者数 82名
- ◇内容

「ESDの必要性とその具体化 学校教員にとって、一番大事なものをお伝えします。」

講師：江東区立八名川小学校 前校長 手島 利夫 氏

1. 世界を持続不可能にしかねない多くの課題

17の目標に向かって、みんなで取り組むのがSDGsである。

取り組み続ける人を育てるのが大事—教育の果たすべき役割の重要性

2. 今、進んでいる学校教育における変化：学習指導要領の改訂

学習指導要領とESDやSDGs

- ①変わりゆく変化の時代に合わせて子どもたちの学びも変わっていく
- ②学びを進化させる
- ③地域の方も一緒に加わって、社会全体で応援してほしい 社会に開かれた教育課程
みんなで総がかりで取り組むことでやっといい教育ができる

3. 変わりゆく時代の変化 (最近の10年)

雨の降り方、コロナ禍(変異株)、東日本大震災・原発事故、情報化

50億人の知能との結びつき、AI、スーパー台風(フィリピン)、干ばつ、食料不足、ヨーロッパの熱波、ゲリラ豪雨、

COP26 地球の平均気温が21世紀末に4.9℃まで上昇するかもしれない

※どれが一番重要な課題なの？

4. 世界が変われば物事の正解も変わる 求められる人間像も学力観も変わる

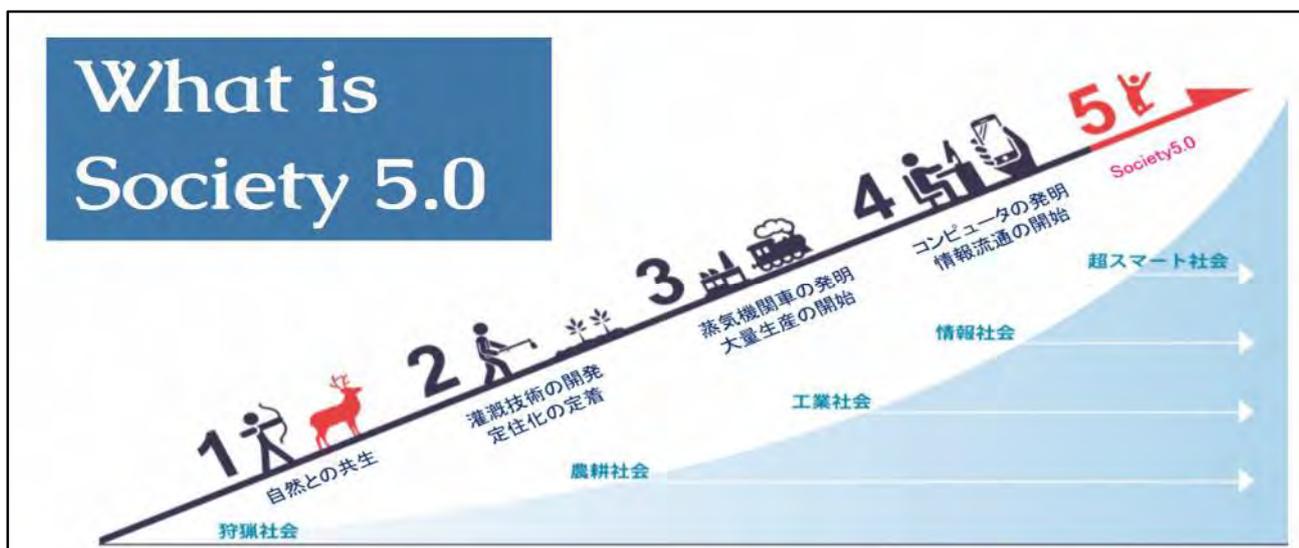
日本の「教育」「学力」は今の世界の中でどんな価値があるのか？

2013年 東大はアジアで1位だったのが、7位に

日本の国際競争力は27位(2015年)へ下落

- ・シンガポール：1997年「考える学校、学び国家に」コンピテンシーベースの学びに
- ・香港も 量から質の教育に変えてきている
- ・日本は工業化の時代では大成功した。平成でのIT革命・超グローバル化 ⇒「ゆとりの中で生きる力を育む」に変わろうとしたが、学力論争(学力低下批判)でつぶされた。いまだに工業化の時代の教育をしている。もう世界の変化に対応できていない。
- ・知識・理解の教育を受けてきた学生は世界で通用しなくなってきた。





問い.学校教育を変えたとしたら、どのように変えていく必要があるか

学習指導要領ではどのように記載されているか 前文と総則から改訂の理念を読み解く

・自分の良さや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協議しながら様々な社会的変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる→E S Dの推進

・思考力・判断力・表現力の育成が大切 学びに向かう力・人間性を育むためには、



①各学校の教育目標を明確にする

自分で問題を見つけて、主体的に取り組む子の育成が大事
総合の学習をうまく生かして
教科横断的な学びをつくろう
カリキュラム・マネジメントの重要性

②授業実施面

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
問題解決的な単元構成を考える 探究的・問題解決型の学習過程に

○どうしてカリキュラム・マネジメントが必要になってきたのか

▼新型コロナ流行

移動制限、企業活動の停滞（収入減・貧困の拡大・格差）、巣ごもり、休校・分散登校
マスクと消毒、ソーシャルディスタンスをするようになった。←行動変容

→ 様々な問題が一度に起こった。専門分野に閉じこもっては役に立たない
今までの枠組みの中だけの学びでは対応できない時代になった。
教育が社会の変化に追いついていない。

いろいろな知見を集めて国境や分野を超えてつながって、解決していく時代に対応した教育

▼地球温暖化

あなたの教科・領域・専門分野でなにができるか？を考えてみる。つなぎ方を考える。

汎用的な能力を育むためにはカリキュラム・マネジメントが必要
 教科を横断しながら（つなげていきながら）進めるストーリーをつくるのが大切
 教育課程全体の中に単元を位置づける 年間を通して考えたのが ESD カレンダー
 指導計画とカレンダーをセットにする

○主体的・対話的で深い学びのスタートは「学びに火をつけること」

- ①問題に気付かせる出会い 親しみ・憧れ・共感を生む出会い・体験をつくる
 - ②火をつける 矛盾する事実や意表のつく話、資料に出会わせ、ひっくりかえす
 - ③テーマを決める 疑問を出し合い、磨き合って学習問題を構成していく
- 「わくわくどきどきチャレンジ社会科」(古川清行)

単元の学習過程

「学びに火をつける」→調べる→まとめる・実行する→伝え合う

切実感・実感のある出会いが大切 人物との出会いを 自分の問題意識をはっきりと持つこと

※子どもが学びたくなるようなしかけをつくるのが先生の仕事

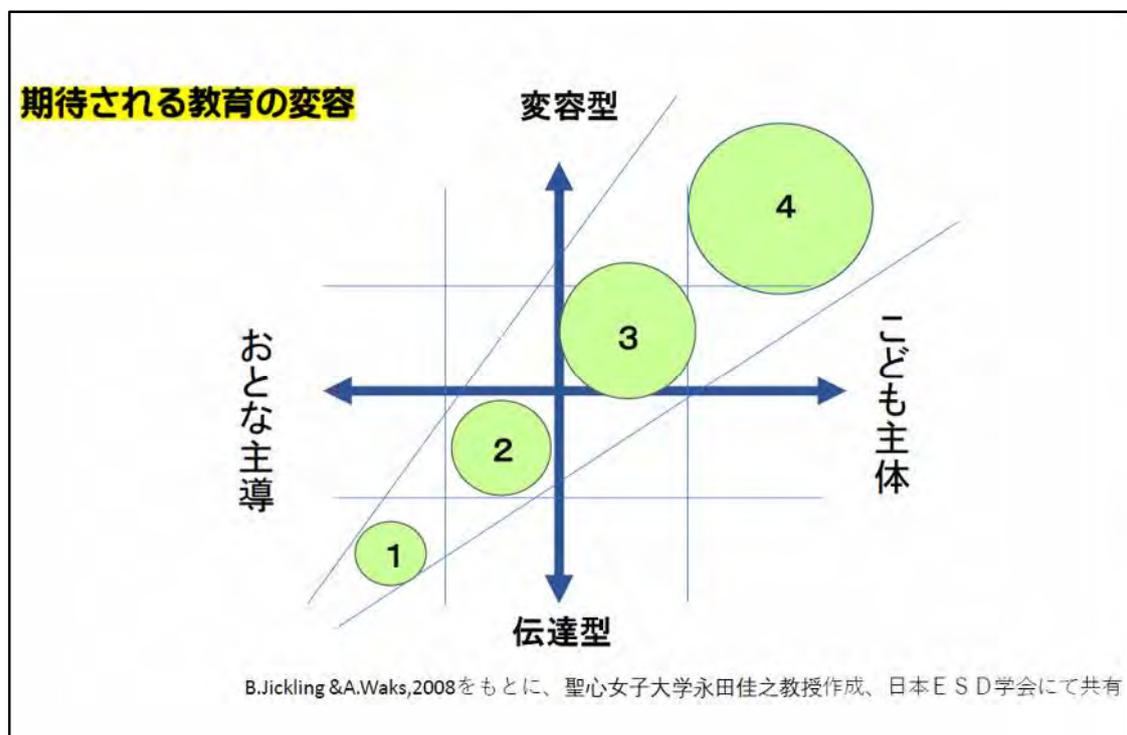
どういう資料の出し方をすればどんな反応がうまれてくるかを研究する（1人ではなく、仲間と）
 学校で同僚性を発揮できる雰囲気をつくっていく

5. SDGs時代の教育のあり方

大人中心から子どもが主体になる教育へ

変容型の授業をつくっていく

学びが進化する学校（上級生の学びを下級生が見て学んでいく、その積み重ね）



令和3年度 近畿 ESD コンソーシアム総会 開催要項

1. 目的

近畿 ESD コンソーシアムでは、近畿圏を中心にユネスコスクール等への支援、及び ESD の推進を図っている。本コンソーシアム活動の一環として、構成団体間の情報交換と目的意識の共有、ESD に関する研修を目的として、下記の通り、総会を開催する。

2. 開催日時 令和3年7月11日(日) 13時30分~17時30分

3. 方法 Zoom を用いたオンライン会議

4. 総会次第

13時30分~13時40分 開会行事

13時40分~14時00分 出席者の自己紹介

14時00分~14時30分 令和2年度近畿 ESD コンソーシアムの事業報告

14時30分~15時50分 令和3年度近畿 ESD コンソーシアムの事業計画の説明

16時00分~17時20分 SDGs シンポジウム：「奈良から始める！新しい観光」
シンポジスト

奈良新しい学び旅推進協議会会長 奈良商工会議所専務理事 峯川 郁朗 氏
同 実行委員会 委員長 奈良県旅館・ホテル生活衛生同業組合理事 川井 徳子 氏
奈良県県土マネジメント部地域デザイン推進局 奈良公園室長 竹田 博康 氏
司会 奈良教育大学 理事・副学長 宮下 俊也 氏
趣旨説明 奈良教育大学 特任准教授 大西 浩明 氏

17時20分~17時30分 閉会行事

※13時30分~15時50分までは、近畿ESDコンソーシアム加盟団体を対象に開催する。

16:00 から 17時30分のSDGsシンポジウム及び閉会行事に関しては、広く参加者を募って開催する。

(問い合わせ)

〒630-8528 奈良市高畑町

奈良教育大学 教育研究支援課 ESD 担当事務：葉草・西田

E-mail： k-soumu@nara-edu.ac.jp

TEL 0742-27-9367 / FAX 0742-27-9147

2021年度 近畿 ESD コンソーシアム成果発表会・実践交流会開催要項

1. 目的

小学校においては 2020 年度、中学校では 2021 年度から新学習指導要領が実施された。新たな学習指導要領には前文に「持続可能な社会の創り手」を育成することが明記されたことより、全国の小中学校で ESD の理念に基づく教育活動が展開されると考えられる。また、持続可能な開発目標（SDGs）への関心が企業や NPO などの生涯教育において高まってきており、学校教育・生涯教育および企業等においても、質の高い教育活動が求められることから、構成団体メンバーの意欲向上と活動の質的向上、また ESD の普及を目的に開催する。

2. 主催

近畿 ESD コンソーシアム、奈良教育大学

3. 後援 ASPUnivNet、ESD 活動支援センター、近畿地方 ESD 活動支援センター

4. 開催日時

2021 年 12 月 25 日（土）9：50 － 17：20

12 月 26 日（日）9：00 － 13：00

5. 会場（対面式）

2021 年 12 月 25 日（土）：奈良教育大学管理棟 2 階大会議室等

12 月 26 日（日）：奈良教育大学次世代教員養成センター 2 号館

6. 日程

☆ 1 日目

【12 月 25 日（土）】

9：30 － 9：50 受付（奈良教育大学管理棟 2 階）

9：50 － 10：00 ●開会行事

全体司会：中澤 静男（奈良教育大学）

挨拶：加藤 久雄（奈良教育大学長）

挨拶：河村 裕美 氏（文部科学省国際統括官付国際戦略企画官）

10：00 － 12：00 ●ESD 子どもフォーラム：管理棟 2 階大会議室（発表 20 分＋講評）
（参加校）

奈良市立朱雀小学校

長浜市立高時小学校（ビデオ発表）

橋本市立あやの台小学校

奈良教育大学附属中学校

司 会：西條秀哉(本学学生)、中家麻弥(本学学生)、大矢真央(本学学生)

講 評：河村 裕美 氏（文部科学省国際統括官付国際戦略企画官）

柴尾 智子 氏（近畿 ESD コンソーシアム外部評価委員）

加藤 久雄（奈良教育大学長）

※参加者数が多い場合は、別室にてオンラインで見学していただきます。ご了承ください。

- 12 : 00 - 13 : 30 昼食休憩
- 13 : 30 - 15 : 30 ●ESD 実践交流会 I (発表 20 分+質疑 10 分)
- 第 1 分科会 : 管理棟 2 階大会議室
(参加者)
- 榑 洋史 氏 (橋本市立高野口小学校)
安座間 康 氏 (沖縄県立北部農林高等学校)
福山 浩之 氏 (奈良新しい学び旅推進協議会)
片浦 亮 氏 (大和郡山市立郡山西中学校)
司 会 : 大西 浩明 (奈良教育大学)
- 第 2 分科会 : 次世代教員養成センター2 号館多目的ホール
(参加者)
- 藏前 拓也 氏 (広陵町立真美ヶ丘第一小学校)
平田 絵美 氏 (大牟田市立大牟田中央小学校)
吉田 知尋 氏 (奈良ストップ温暖化の会)
川崎 貴寛 氏 (橿原市立耳成南小学校)
司 会 : 岡村 孝之 氏 (橋本市教育委員会)
- 第 3 分科会 : 次世代教員養成センター1 号館大会議室兼教室
(参加者)
- 吉村 泰典 氏 (奈良市立六条小学校)
鬼塚 正博 氏 (福岡市立玄界小学校)
南 哲朗 氏 (奈良町資料館)
小関 直幸 氏 (寒河江市立醍醐小学校)
司 会 : 大森 亮 氏 (彦根市教育委員会)
- 15 : 45 - 17 : 00 ●ESD 講演会 : 管理棟 2 階大会議室
- 題 目 : 「ESD カリキュラムマネジメントはこうする」
講 師 : 及川 幸彦 氏
(東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター主幹研究員)
- ※参加者数が多い場合は、別室にてオンラインで見学していただきます。ご了承ください。
- 17 : 00 - 17 : 20 ●閉会行事 : 管理棟 2 階大会議室
- 講 評 : 長友 恒人 氏 (近畿 ESD コンソーシアム外部評価委員)
柴尾 智子 氏 (近畿 ESD コンソーシアム外部評価委員)
挨拶 : 高橋 豪仁 (奈良教育大学副学長 (国際交流・地域連携))

☆ 2 日目

【12月26日（日）】会場：奈良教育大学 次世代教員養成センター2号館

全体司会：大西 浩明（奈良教育大学）

8：40 － 9：00 受付（次世代センター2号館）

9：00 － 10：30 ●ESD 実践者対談シンポジウム：次世代教員養成センター2号館多目的ホール
（参加者）

・長野会場：菅原 勇介 氏（山ノ内町立南小学校）

・沖縄会場：神村 智子 氏（沖縄県教育委員会）

・山形会場：太田 馨 氏（上山市立南小学校）

・大牟田会場：高倉 洋美 氏（大牟田市教育委員会）

・福岡会場：遠入 哲司 氏（福岡市立田隈小学校）

・奈良会場：西口美佐子 氏（奈良市立東登美ヶ丘小学校）

司 会：大西 浩明（奈良教育大学）

助言者：長友 恒人 氏（近畿 ESD コンソーシアム外部評価委員）

10：40 － 12：40 ●ESD 実践交流会Ⅱ（発表20分＋質疑10分）

○第4分科会：次世代教員養成センター2号館多目的ホール

菅原 勇介 氏（山ノ内町立南小学校）

長浜佐知子 氏（奈良市立都跡小学校）

大島 英樹 氏（福岡市立住吉小学校）

鎌田 大雅 （奈良教育大学附属幼稚園）

司 会：三木 恵介 氏（奈良市教育委員会指導主事）

○第5分科会：次世代教員養成センター1号館大会議室兼教室

中島 寛子 氏（大牟田市立天の原小学校）

中澤 哲也 氏（平群町立平群北小学校）

若森 達哉 （奈良教育大学附属中学校）

阿部 友幸 氏（山形大学附属特別支援学校）

司 会：河本 大地（奈良教育大学）

○第6分科会：次世代教員養成センター2号館モデル教室

島 俊彦 氏（大牟田市立吉野小学校）

中村 友弥 氏（奈良市立朱雀小学校）

新垣 孝子 氏（糸満市立糸満中学校）

佐藤 こころ さん（奈良教育大学ユネスコクラブ）

根本 優 さん（奈良教育大学ユネスコクラブ）

司 会：中澤 静男（奈良教育大学）

12：40 － 13:00 ●閉会行事：次世代教員養成センター2号館多目的ホール

講 評：柴尾 智子 氏（近畿 ESD コンソーシアム外部評価委員）

及川 幸彦 氏（近畿 ESD コンソーシアム外部評価委員）

挨拶：松田 孝史（奈良教育大学附属中学校 校長）

7. コロナウイルス感染症対策の徹底について

奈良教育大学では、「新型コロナウイルス感染症への本学の対応について（第19報）」、「新型コロナウイルス感染症に対する学生ならびに教職員の行動指針」及び「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対応マニュアル（第10報）」等を遵守の上（一つの密でも回避、マスク着用、手指消毒、健康チェックシート・行動記録票の記入、COCOAの登録等）、感染防止に努めています。

本成果発表会・実践交流会においても、本学教職員・学生ともに、検温・健康観察、マスクの着用、手指消毒、ソーシャルディスタンスの確保や会場の換気、座席の配置、器具や机等の消毒など感染防止対策を行い実施いたします。

参加者のみなさまにおかれましては、当日のマスクの着用・手指消毒・ソーシャルディスタンスの確保等、感染防止にご協力お願いいたします。また、当日発熱（37.5℃を目安）、咳、全身倦怠感、嗅覚障害、味覚障害等いずれかの症状があり、ご自身に新型コロナウイルス感染を疑わせる症状がある場合は、参加をお控えくださいますようお願いいたします。

なお、参加後に新型コロナウイルス感染を疑わせる症状がある場合は、速やかに下記連絡先までご連絡くださいますようお願いいたします。

ご理解、ご協力を賜りますようお願いいたします。

○新型コロナウイルス感染症に関する本学の対応について

https://www.nara-edu.ac.jp/campus_life/coronataiou.html

○新型コロナウイルス感染症への本学の対応について（第18報）

https://www.nara-edu.ac.jp/ADMIN/SOUMU/corona2021/Coronataiou_18

○新型コロナウイルス感染症に対する学生ならびに教職員の行動指針

<https://www.nara-edu.ac.jp/ADMIN/SOUMU/corona2020/kodoshishin0914.pdf>

○新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対応マニュアル（第10報）

<https://www.nara-edu.ac.jp/ADMIN/SOUMU/corona2020/COVID19taioumanual10.pdf>

(問い合わせ)

〒630-8528 奈良市高畑町

奈良教育大学 教育研究支援課 ESD 担当：葉草、西田

E-mail: k-soumu@nara-edu.ac.jp

TEL 0742-27-9367 / FAX 0742-27-9147

ユネスコスクール教員養成大学間プロジェクト Teaching Together GC4SD プロジェクト概要

1. プロジェクト名

Teaching Together Global Citizenship for Sustainable Development (GC4SD)

A Collaborative Change Project by ASPnet Teacher Education & Training Institutions (TEs)

2. 趣旨

ユネスコスクールは、1953年、ASPnet (Associated Schools Project Network)として、ユネスコ憲章に示された理念を学校現場で実践するため、国際理解教育の実験的な試みを比較研究し、その調整をはかる共同体として発足した。現在では、世界182か国で11,500校以上がASPnetに加盟して活動している。本プロジェクトでは世界各国のASPnetに加盟している教員養成大学の学生が国を越えてオンラインで繋がり、ESD(持続可能な開発のための教育)やGCED(地球市民教育)の授業を共創し、実践するというものである。

3. 参加大学

- Aberdare Diploma Teachers Training College (ケニア)
- Centre Régional de Formation des Personnels de l'Education (CRFPE) de THIES (セネガル)
- Instituto Superior de Profesorado N° 1 "Manuel Leiva" Casilda (アルゼンチン)
- Mansa College of Education (ザンビア)
- Mtwara Teachers College (タンザニア)
- Miyagi University of Education (日本)
- Nara University of Education (日本)
- Philippine Normal University (フィリピン)
- UCLL Teacher Education (ベルギー)
- University of Helsinki (フィンランド)
- University of Oulu (フィンランド)

4. 奈良教育大学からの参加学生

14名(7ペア)

内訳：学部生11名、大学院生3名(英語教育専修・国語教育専修・社会科教育専修・保健体育専修)

マッチング相手国：フィリピン または ベルギー

5. プロジェクトの流れ

- | | |
|--------------|---------------------------------|
| 2021年6月～9月 | 参加学生エントリー |
| 2021年8月 | 事前研修(奈良教育大学 学生対象) |
| 2021年10月 | グローバル・キックオフミーティング |
| 2021年10月～12月 | オンラインで授業を共創(複数回のミーティングを実施) |
| 2022年1月前後 | 共創した授業を各国で実践(各国のユネスコスクール加盟校で実施) |
| 2022年2月 | 事後研修(奈良教育大学 学生対象) |

奈良教育大学

近畿 ESD コンソーシアム



近畿 ESD コンソーシアム
森と水の源流館授業作りセミナー



奈良教育大学
イメージキャラクター
なっちゃん



附属幼稚園
フォトチャット研修



附属小学校 5年生和歌山旅行

不東



2020年度
ESDティーチャー・マスター認定証授与式
奈良教育大学 ESD ティーチャー認定式

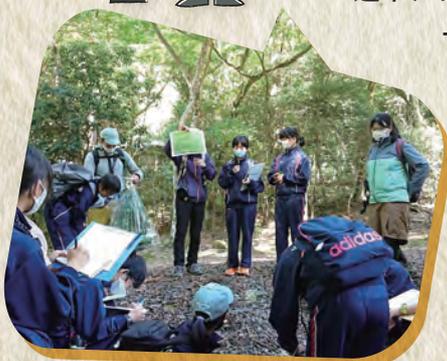


「不東」は三蔵法師の言葉です。

三蔵法師は27歳の時に、唐の規則を犯してでも正しい仏教を学びたいと、インドを目指し道なき道を行きます。途中、タクラマカン砂漠で水の入った皮袋を落として水を失い、一度は引き返す（東に戻る）ことを考えましたが自分には東はない。

たとえ死ぬことになっても西に行くべきだと思ひ直して旅を続け、インドに至りました。

持続可能な社会をつくと決めた私たちは、「どんな苦勞があっても決して引き下がらない」という決意の言葉です。



附属中学校 1・2年生合同奈良めぐり（春日山原始林コース）



奈良教育大学ユネスコクラブ
大牟田市みなと小学校との交流

SDGs 達成のカギ = ESD

SDGsは世界中の人々が、また将来世代の人々も含めて、幸せに生きていくことができる世界を創るための目標です。そして、そのような持続可能な社会を創っていくのは自分なんだと気づかせ、私たち一人一人に価値観と行動の変革を促すのがESD(持続可能な開発のための教育)です。



奈良教育大学のESDの歴史 – 教育大学と学校園をつなぐESDはSDGsの母 –

奈良教育大学の活動

文部科学省 ユネスコ国内委員会

国連 ユネスコ

1953	ユネスコに加盟 ユネスコスクール = ASPnet = UNESCO Associated Schools Project Network 15カ国33校 (国連加盟は1956年)	
2002	3月	ヨハネスブルクサミット 「持続可能な開発のための教育10年」を日本が提案 ESDはMade in JAPAN SDGs達成の母
	12月	第57回 国連総会 2005年から2014年までの10年間を「国連持続可能な開発のための教育の10年(UNDESD、国連ESDの10年)」とする決議案が採択される
2004	11月	第59回 国連総会 「持続可能な開発のための教育の10年」に関する決議案が採択される
2005 20校	3月	国連本部 (ニューヨーク) にて「国連持続可能な開発のための教育の10年」開始記念式典が開催される
	12月	文部科学省 ユネスコ国内委員会 ESDの推進拠点をユネスコスクールとする 「ESDの10年」関係省庁連絡会議
2007	7月	★大学がユネスコスクールに認定される (大学として初 当時ユネスコスクールは全国24校)
2008 78校	7月	教育振興基本計画 ESDを我が国の教育の重要な理念の一つとして位置づけ
	8月	★附属中学校がユネスコスクールに認定される
	12月	ユネスコスクール支援大学間ネットワーク (ASPUivNet) を8 (5) 大学で創設 500校化に寄与 (申請支援)
2009	11月	第1回 ユネスコスクール全国大会 渋谷教育学園
2010	11月	第1回 世界遺産学習全国サミット in なら 主催: 文部科学省 奈良市教育委員会 奈良教育大学 他 (以後、毎年開催)
	10月	第2回 ユネスコスクール全国大会 宮城教育大学
2011 367校	3月	持続発展・文化遺産教育研究センター設置
	11年度	ASPUivNetの事務局を務める (2年間) 文部科学省ユネスコパートナーシップ事業 ASPUivNetによるユネスコスクール地域拠点の形成とフラッグシッププロジェクトの展開
	11月	第3回 ユネスコスクール全国大会 東京海洋大学
2012	12年度	平成24年度 特別経費 (プロジェクト分) 「学ぶ喜びを知り、自ら学び続ける」教員の養成に向けた持続可能な発展のための教育活性化プロジェクト
2013 705校	13年度	特別経費 (プロジェクト分) 地域と連携した「学ぶ喜びを知り、自ら学び続ける」教員の養成に向けた持続可能な発展のための教育活性化プロジェクト
	1月	第4回 ユネスコスクール全国大会 ESD研究大会 ESDの実践上の課題解決に向けて 奈良教育大学 主催: 文部科学省
	6月	第2期教育振興基本計画 前文に「持続可能な社会の実現」がうたわれ、基本政策の中に「ユネスコスクールの充実を通じESDを推進する」を明記
	11月	第37回国連総会にて GAP (Global Action Programme on ESD) 採択
2014 913校	12月	第5回 ユネスコスクール全国大会 多摩永山情報教育センター
	14年度	文部科学省 グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業(1年次)グローバル人材育成を見据えたESDコンソーシアムの構築とユネスコスクール間交流によるESDの推進 - 国際 (Think global) と国内 (Act local) の融合 - (奈良市・橿原市・和歌山県橋本市・滋賀県彦根市 との連携)
	4月	次世代教員養成センターに「ESD・課題探求教育部門」を設置
	6月	日本国際理解教育学会 第24回 研究大会 (奈良) 本学共催 「ESDと国際理解教育」(第1シンポ)
	9月	★附属小校がユネスコスクールに認定される
	10月	奈良ESDコンソーシアムの設立
	11月	第6回 ユネスコスクール全国大会 岡山大学
11月	ESDに関するユネスコ世界会議 愛知県・名古屋市/岡山市 あいち・なごや宣言 ESDは持続可能な社会の担い手づくりを通じてSDGs17全ての目標の達成に貢献する教育	
2015 939校	12月	第69回国連総会で承認 GAP (ESDに関するグローバル・アクション・プラン)
	15年度	文部科学省 グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業(2年次)グローバル人材育成を見据えたESDコンソーシアムの構築とユネスコスクール間交流によるESDの推進 - 国際 (Think global) と国内 (Act local) の融合 - (奈良市・橿原市・和歌山県橋本市・滋賀県彦根市 との連携)
	15年度	特別経費 (プロジェクト分【新規事業】) 高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実 (2016年度より第3期中期期間 重点支援プロジェクトに) - ESDを核とした教員養成の高度化 - 教員養成・研修におけるESDモデルプログラムの開発と普及 -
	15年度	文部科学省 日本/ユネスコパートナーシップ事業 (委託事業) 教員研修プログラムのあり方に関する調査研究
	9月	国連サミット 「持続可能な開発目標 (SDGs) 採択 2016年から2030までの国際目標
2016 1008校	12月	第7回 ユネスコスクール全国大会 昭和女子大学
	3月	ESD推進の手引き 文部科学省国際統括官付 日本ユネスコ国内委員会
	16年度	「ESDティーチャープログラム」の実施 学生・教員
	16年度	文部科学省 グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業(3年次) グローバル人材育成を見据えたESDコンソーシアムの構築とユネスコスクール間交流によるESDの推進 - 国際 (Think global) と国内 (Act local) の融合 - (奈良市・橿原市・和歌山県橋本市・滋賀県彦根市 との連携)
	16年度	機能強化プロジェクト - ESDを核とした教員養成・研修の高度化 - 次世代の教員に求められる資質・能力の向上を目的に -
	12月	日本ESD学会設立 事務局
2017 1033校	12月	第8回 ユネスコスクール全国大会 金沢大学
	12月	中央教育審議会答申 新しい学習指導要領 基礎理念にESD
	3月	学習指導要領改訂公示 「幼稚園教育要領」「小学校学習指導要領」「中学校学習指導要領」前文及び総則に「持続可能な社会の創り手」の育成が掲げられる
2018 1116校	10月	近畿ESDコンソーシアムの設立
	12月	第9回 ユネスコスクール全国大会 大牟田文化会館
	18年度	全国版ESDティーチャープログラムを実施 全国5地点 (羅臼 仙台 東京 広陵 長崎)
	18年度	文部科学省 ユネスコ活動費補助金採択 ESD実践力とファシリテーション力の養成を目指した次世代教員研修事業
	5月	ESD推進の手引き (改訂版) 文部科学省国際統括官付 日本ユネスコ国内委員会
	6月	第3期教育振興基本計画 計画本体の「第2部 今後5年間の教育政策の目標と施策群」のなかでESDやユネスコスクールに関する施策が記載される
2019	7月	★附属幼稚園がユネスコスクールに認定される
	12月	第10回 ユネスコスクール全国大会 横浜市立みなとみらい本町小学校

2005
国連持続可能な開発のための教育 (ESD) の10年
DESD 2014

GAP

ESDを通じたSDGsの達成

SDGs

ESDに関するグローバル・アクション・プログラム

2030

2019

年号の下の数はユネスコスクール加盟校数

Year	Month	Event/Activity	Location
2019 1120校	1月	ユネスコスクール支援大学間ネットワーク (ASPUnivNet) 23大学 支援地域を分担	
	19年度	全国版ESDティーチャープログラムを実施	全国3地点 (沖縄 福岡 広島)
	4月	大学の3つの柱を改訂 1.人・環境・文化遺産との対話を通じた教育の追究 2.持続可能な社会づくりに貢献できる教員の養成 3.教員養成と教員研修の融合	
	11月	ユネスコ総会 「ESD for 2030」を採択	
	11月	第11回 ユネスコスクール全国大会	福山市立大学
2020	12月	第74回 国連総会 「持続可能な開発のための教育：SDGs達成に向けて (ESD for 2030)」を採択	
	20年度	全国版ESDティーチャープログラムを実施	全国4地点 (福岡 滋賀 山形 奈良)
	3月	コロナ感染症 臨時休業 幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校	
	6月	ドイツ ベルリン「持続可能な開発のための教育 (ESD) に関するユネスコ世界会議」延期	
	8月	地方創生SDGs官民連携プラットフォーム参画	
	11月	令和2年度「ユネスコ未来共創プラットフォーム事業「文部科学省委託事業ユネスコスクールオンライン近畿地方大会」	
	11月	国連大学SDG大学連携プラットフォーム参画	
2021	12月	第12回 ユネスコスクール全国大会	WEB
	2月	関西SDGsプラットフォーム大学分科会参画	
	3月	『学校教育におけるSDGs・ESDの理論と実践』刊行 奈良教育大学ESD書籍編集委員会	
	21年度	全国版ESDティーチャープログラムを実施	全国8地点 (沖縄 福岡 (福岡市、大牟田市) 奈良 (奈良市、天理市、大和郡山市) 長野 山形)
	5月	ユネスコスクールの新たな展開について	
	5月	ESD推進の手引き (改訂版) 文部科学省国際統括官付 日本ユネスコ国内委員会	
	5月	我が国における「持続可能な開発のための教育 (ESD)」に関する実施計画 (第2期ESD国内実施計画)	
	5月	ESDに関するベルリン宣言	
	7月	日本のユネスコ加盟70周年	
	11月	教育の未来報告書2021 (Reminding Our Futures Together - A new social contract for education)	
2022	11月	第13回 ユネスコスクール全国大会	WEB
	4月	奈良女子大学との法人統合により奈良国立大学機構発足	
	4月	ESD・SDGsセンター発足	
	22年度	教育研究組織改革分 (組織整備) 概算要求 奈良教育大学における「持続可能な開発のための教育」(ESD)の推進に係る組織整備 - 「奈良教育大学 ESD・SDGsセンター (仮称)」の新設による全学的・組織的取組の強化 -	
	22年度	ミッション実現戦略分 奈良教育大学における「持続可能な開発のための教育」(ESD) (仮称)の推進	
	22年度	全国版ESDティーチャープログラムを実施	全国6地点 (沖縄 熊本 福岡 (福岡市、大牟田市) 愛媛 奈良)

年号の下の数はユネスコスクール加盟校数

- 教員 養成 研修
- 研究
- 成果発表・実践交流
- 学校支援
- マルチステークホルダ
- 地域連携・地域創生

奈良教育大学の3つの柱

- 人・環境・文化遺産との対話を通じた教育の追究
- 持続可能な社会づくりに貢献できる教員の養成
環境、文化、平和、人権等、ESDの対象となる様々な課題に対応できるカリキュラムを用意し、教員を目指す全学生がESDについての知識、指導方法を身に付けることができるよう取り組んでいます。
- 教員養成と教員研修の融合

ESDを核とした教員養成

- (1) 全授業科目のSDGsへの関連付け
- (2) ESDテキストの作成
- (3) ユネスコスクール等との交流
- (4) ボランティア活動
- (5) ESDティーチャープログラム (学生対象)

ESDを核とした教員研修

- (1) ESDティーチャープログラム (現職教員対象)
- (2) ESD連続セミナー・授業づくりセミナー
- (3) ESDティーチャーオンライン研修
- (4) 学ぶ喜び・ESD連続公開講座

ESDを核とした教員養成と教員研修の融合

近畿ESDコンソーシアム

- 春日山原始林・奈良公園フィールドワーク
- ESDティーチャープログラム
 - ESDティーチャープログラム (現職教員向け)
 - ESDティーチャープログラム (学生向け)
- ESD連続セミナー
 - 奈良市ESD連続セミナー
 - 橋本市ESD連続セミナー
 - 彦根市ESD連続セミナー
 - ESD実践事例集
- 授業づくりセミナー
- 研究会・勉強会
 - 基礎学習理論研究
 - 世界農業遺産勉強会
- 研修会・実践交流会
- 被災地支援プロジェクト
 - 陸前高田市調査団
 - 道普請
- 学ぶ喜び・ESD連続公開講座
- 先進地視察・ESD教材開発旅行への支援

アーカイブ
指導案 実践事例



2022年度 近畿ESDコンソーシアム 成果発表会・実践交流会

12/25 (土) 9:50 ~ 17:20
12/26 (日) 9:00 ~ 13:00

参加費 無料

次世代教員養成センター ESD・課題探求部門





ユネスコクラブ 2021 年の活動
 ～コロナと過ごした1年の紹介～
誕生日：2011年7月29日
部員：89人
多くの部員が様々な場所で活躍！

ESD・SDGs に関する勉強会

防災に関する5回連続の勉強会を開催！

- 第1回 令和3年8月29日(日)**
 ワークショップ
 防災とESD・SDGsとの関係を理解し、防災意識を高める
 幻の第2回 令和3年9月28日(火)→コロナにより中止
 災害を知る
 人と防災未来センターと被災地神戸のフィールドワーク
- 第2回 令和3年9月28日(火)**
 実習：災害時の応急手当を実際に体験
 奈良教育大学教授佐々木先生と本学安全企画委員会さん
 ご協力のもと、災害時に行われるトリアージについて学習
- 第3回 令和3年11月14日(日)@Zoom**
 講演：神戸市立西郷小学校教諭 井上 恵太先生
 「震災を経験していない教員が震災を知らない子どもたちに
 どのようにそれを教えるか」
- 幻の第4回 令和4年1月23日(日)→コロナにより中止**
 災害を知る
 人と防災未来センターと被災地神戸のフィールドワーク
- 第4回 令和4年3月6日(日) (予定)**
 演習：よりよい防災教育を考える
 神戸市立西郷小学校教諭、井上恵太先生と防災教育の
 課題や指導について具体的に考えます。
- 第5回 令和4年3月20日(日) (予定)**
 災害を知る
 人と防災未来センターと被災地神戸のフィールドワーク
 神戸市立舞子中学校校長、川原耕一先生によるご案内と
 公園も実施

**開催方法を工夫し、
 外部の先生と連携しながら
 楽しく実施！**



子どもと関わる活動

第4回集まれ！ ESD 子ども広場を開催！
 ～もの見方・考え方の多様さを実感させる2時間の出前授業～



安全で楽しい活動にするための三つの工夫

- ①トリックアートを活用**

 三つの円はすべて同じ色だが、背景や全面の色によって、見え方が変わる。工作で楽しみながら、見方・考え方の多様さに児童が気付くきっかけをつくった。
- ②日常生活で考える**
 最終的に、授業で気づいたもの見方・考え方は多様であるということを生かす場として日常生活を提示し、考えさせた。
 児童からは、多様である他人の立場に立って考えたいという内容の具体的な場面を想定した感想が多く寄せられた。
- ③開催形式を工夫**
 従来
 大学に様々な小学校から児童を集めて実施。
 ↓
 今回
 大学生が小学校を訪問して実施。より多くの児童と活動できた

他大学・団体との交流活動

第7回 ユネスコクラブ全国サミット **第8回 ユネスコクラブ全国サミット**

玉川大学	慶應義塾大学	広島大学	福山市立大学	奈良教育大学
9人	7人	4人	11人	16人

全国5大学47人が参加

開催日時：令和4年2月19日、20日(予定)
 開催方法：現在検討中
 参加大学：奈良教育大学、玉川大学 ほか

実施内容

- 交流を深める
 - アイスブレイク
 - 活動紹介
 - 地域のよいところ紹介
- 持続可能な社会について考える
 - フィールドワーク (東大寺、ならまち)
 - ワークショップ

テーマ つながる

ユネスコスクールに向けたSDGsワークショップを作るう
 ～持続可能な社会づくりを担う未来の地球市民の育成を目指して～

事前学習3回+サミット本番4回 構成

環境に関する活動

あつまれ ECO キッズ！ 地球温暖化防止啓発の動画作成

学生主体で子ども向けに動画を作成！

動画の内容

- ・プラスチック
- ・フードロス
- ・節電

あつまれ ECO キッズ！ プログラム展示

令和3年12月18日(土)

牛乳パックを使った ESD なおもちゃを子どもたちに紹介！

つくってあそぼう～牛乳パック de え工作～

パッチンカエル

アースデイ奈良でのボランティア活動

令和3年4月24日(日)

一人一人、地球環境を守る意思を示すイベントでボランティア！

持続可能な社会に向けて何ができるのかを考えるきっかけに。

ユネスコスクール等との交流



世界青年の船



第11回ユネスコ コースフォーラム (パリ)



大牟田水書 みなと小学校との学校間交流



奈良市の小学校でのESD授業実践

ESDティーチャープログラム

ESDを適切に計画し指導できる教員に
求められる能力・態度

学ぶ喜びを知り、自ら学び続ける教員



現職教員を対象としたプログラム

- ① ESD連続セミナー等への5回以上の参加と毎回のミニレポート作成
- ② ESD学習指導案の作成

ESDティーチャースの認証

- ③ ESD連続セミナー等への7回以上の参加と毎回のミニレポート作成
- ④ ESDティーチャース受講者の指導
- ⑤ ESD授業実践と実践事例の作成

ESDマスターの認証

- ⑥ ESD連続セミナー等への7回以上の参加と毎回のミニレポート作成
- ⑦ ESDティーチャース・マスター受講者の指導
- ⑧ 研究会・学会等での授業実践の発表

ESDスペシャリストの認証

1・2年生

学生を対象としたプログラム

3・4年生

ESDに関わる科目履修

- スタートアップ（必修科目）
 - ESD概論
 - ESD-SDGs基礎論
 - ESDと学校教育
 - ESDと生活科・総合的な学習
- プラクティス（選択必修科目）
 - ・ 環境、世界遺産・文化遺産に関わる科目
 - ・ ICT、防災・減災教育に関わる科目
- グローバル
 - ・ ユネスコスクール推奨科目



ESD連続セミナーへの参加

- セミナーの研修内容
 - ① SDGsの理解促進
 - ② ESDの学習理論の理解促進
 - ③ 優良実践事例の分析と授業構想案
 - ④ 授業構想案の相互検討会
 - ⑤ ESD学習指導案の相互検討会

※ 現職教員の指導の下、ESD学習指導案を作成し、1月末日までに提出

ESD演習（授業以外でのESDの学び）とESD実践（ボランティア・ESD活動支援）



終わりに

奈良教育大学国際交流・地域連携副学長

近畿ESDコンソーシアム運営委員長 高橋 豪仁



2021年度は、コロナの感染拡大で揺れた一年でしたが、奈良教育大学のESDは、今年も充実した1年だったと思います。本報告書にもあります通り、今年度は本学だけでなく、沖縄県那覇市、福岡県大牟田市、福岡市、長野県山ノ内町、山形県山形市といった遠隔地に加え、奈良県天理市立福住小中学校、大和郡山市立郡山西中学校、そして本学の附属幼稚園・小学校・中学校においても、ESDティーチャープログラムが実施されました。

ESDティーチャープログラムは、2016年度に運用が開始され、昨年度までで現職教員のESDティーチャーとして117名、学生では31名を認定していましたが、今年度は現職教員96名、学生9名と認定者数を大幅に増やすことができ、累計で現職教員213名、学生40名のESDティーチャーを輩出することができています。名実ともに全国展開の感があります。その他にも、ESDマスターは35名に、ESDスペシャリストは10名となり、ESDの実践発表や学会発表、実践記録や論文の作成など、実績を積み上げていただいています。

奈良教育大学のESDは、これまで次世代教員養成センター内のESD教材開発領域という1部門の事業として近畿ESDコンソーシアムを展開してきましたが、2022年度からは、ESD・SDGsセンターが創設され、そのメイン事業としてコンソーシアムを継続発展させていきます。ESDティーチャープログラムでは、ESDティーチャー等を対象としたオンラインによるフォローアップ研修も定期的に行っていますので、全国の意欲的な先生方がネットワークでつながり、より質の高いESD実践が展開され、持続可能な社会の創り手の育成に大きなインパクトを与えることと思います。

ESD・SDGsセンターでは、新メンバーをスタッフに加え、ESD・SDGs推進の拠点として活動を展開していきます。学生・教員・一般の方々も巻き込みながら、ESDの大きな流れを作っていく、SDGsの達成に貢献したいと考えています。

令和3年度 近畿ESDコンソーシアム活動実施報告書

2022年3月31日

近畿ESDコンソーシアム 国立大学法人 奈良教育大学
〒630-8528 奈良市高畑町 奈良教育大学
教育研究支援課

E-mail k-soumu@nara-edu.ac.jp

Tel 0742-27-9367

Fax 0742-27-9147